

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	学部の学科の設置										
フリガナ設置者	カワコカザン イトカケン 学校法人 幾徳学園										
フリガナ大学の名称	カガワカガク 神奈川工科大学（Kanagawa Institute of Technology）										
大学本部の位置	神奈川県厚木市下荻野1030										
大学の目的	<p>本学では、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。</p>										
新設学部等の目的	<p>臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させることを目的とする。</p>										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学部 [Faculty of Nursing]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	神奈川県厚木市下荻野1030			
	臨床工学科 [Department of Clinical Engineering]	4	40	-	160	学士 (工学)	令和2年4月 第1年次～ 第4年次				
	計	4	40	-	160						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>看護学部 管理栄養学科（80）（平成31年4月届出予定）</p> <p>工学部 臨床工学科（廃止）（Δ40）</p> <p>※令和2年4月学生募集停止</p> <p>応用バイオ科学部 栄養生命科学科（廃止）（Δ80）</p> <p>※令和2年4月学生募集停止</p> <p>令和2年4月名称変更予定 看護学部→健康医療科学部（令和元年9月届出予定）</p>										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学部 臨床工学科	講義 76 科目	演習 18 科目	実験・実習 17 科目	計 111 科目	136 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	看護学部 臨床工学科			8人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	2人 (2)	12人 (12)	1人 (1)	99人 (99)
		看護学部 管理栄養学科			8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	5 (5)	76 (76)
		計			16 (16)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	25 (25)	6 (6)	- -
	既設	工学部 機械工学科			7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	16人 (16)	2人 (2)	116人 (116)
		電気電子情報工学科			7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	101 (101)
		応用化学科			5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	107 (107)
		情報学部 情報工学科			14 (14)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	1 (1)	101 (101)

※平成31年4月届出予定

## 基本計画書

基本計画										
教員組織の概要	既設	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	103 (103)	
		情報メディア学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	104 (104)	
		創造工学部 自動車システム開発工学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	91 (91)	
		ロボット・メカトロニクス学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	91 (91)	
		ホームエレクトロニクス開発学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	95 (95)	
		応用バイオ科学部 応用バイオ科学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	120 (120)	
		看護学部 看護学科	9 (9)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	21 (21)	8 (8)	57 (57)	
		基礎・教養教育センター	11 (11)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	117 (117)	
		教職教育センター	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	11 (11)	
		情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	
		工学教育研究推進機構	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		教育開発センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		計	102 (102)	52 (52)	5 (5)	20 (20)	179 (179)	18 (18)	- (-)	
		合計	118 (118)	58 (58)	5 (5)	23 (23)	204 (204)	18 (18)	- (-)	
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体
事務職員		48人 (48)		38人 (38)		93人 (93)				
技術職員		0 (0)		7 (7)		7 (7)				
図書館専門職員		0 (0)		14 (14)		14 (14)				
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		48 (48)		59 (59)		107 (107)				
校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
	校舎敷地		87,669.16㎡	0㎡	0㎡		87,669.16㎡			
	運動場用地		38,015.93㎡	0㎡	0㎡		38,015.93㎡			
	小 計		125,685.09㎡	0㎡	0㎡		125,685.09㎡			
	そ の 他		8,818.66㎡	0㎡	0㎡		8,818.66㎡			
合 計		134,503.75㎡	0㎡	0㎡		134,503.75㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
		98,308.56㎡	0㎡		0㎡		98,308.56㎡			
教室等	講義室		演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	77室		34室	94室		14室 (補助職員3人)		1 (補助職員0人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		看護学部 臨床工学科			20 室					

## 基本計画書

基本計画											
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種			電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体として、図書185,290冊（内外国書24,033冊）、視聴覚資料5,749点を所蔵。学術雑誌336種（内外国雑誌2種）、電子ジャーナル3,537種を整備している。	
	看護学部 臨床工学科	690〔10〕 (690〔10〕)	11〔0〕 ( 11〔0〕)	1〔1〕 ( 1〔1〕)	41 ( 41 )	( )	( )	( )			
	計	690〔10〕 (690〔10〕)	11〔0〕 ( 11〔0〕)	1〔1〕 ( 1〔1〕)	41 ( 41 )	( )	( )	( )			
図書館		面積		閲覧座席数			収納可能冊数		大学全体		
		5,021.54㎡		629席			232,000冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		6706.61㎡		野球場1面、サッカー場1面、テニスコート4面							
経費積及び方法の概	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体	
		教員1人当り研究費等	238千円	238千円	238千円	238千円	-	-			
		共同研究費等	10,761千円	10,761千円	10,761千円	10,761千円	-	-			
		図書購入費	530千円	530千円	530千円	530千円	-	-			
		設備購入費	-	-	-	-	-	-			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		166千円	148千円	150千円	152千円	-	-				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
大学の名称 神奈川工科大学											
既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	工学部								神奈川県厚木市 下荻野1030		
	機械工学科	4	120	-	480	学士(工学)	1.11	昭和50年度			
	電気電子情報工学科	4	78	-	312	学士(工学)	1.15	昭和50年度			
	応用化学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.14	昭和50年度			
	臨床工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.03	昭和50年度			
	情報学部								※令和2年度より 学生募集停止（工 学部臨床工学科）		
	情報工学科	4	155	-	620	学士(工学)	1.06	平成27年度			
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.08	平成15年度			
	情報メディア学科	4	165	-	660	学士(工学)	1.07	平成16年度			
	創造工学部								※令和2年度より 学生募集停止（応 用バイオ科学部栄 養生命科学科）		
	自動車システム開発工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.12	平成16年度			
	ロボット・メカトロニクス学科	4	50	-	200	学士(工学)	1.04	平成20年度			
	ホームエレクトロニクス開発学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.15	平成20年度			
	応用バイオ科学部								※令和2年度より 学生募集停止（応 用バイオ科学部栄 養生命科学科）		
	応用バイオ科学科	4	125	-	500	学士(工学)	1.2	平成20年度			
	栄養生命科学科	4	80	-	320	学士(栄養学)	1.03	平成22年度			
	看護学部								※令和2年度より 学生募集停止（応 用バイオ科学部栄 養生命科学科）		
	看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.1	平成27年度			

## 基本計画書

基 本 計 画									
既設 大学等 の 状 況	工学研究科博士前期課程								
	機械工学専攻	2	14	—	28	修士（工学）	0.79	平成元年度	
	電気電子工学専攻	2	16	—	32	修士（工学）	0.89	平成元年度	
	応用化学・バイオサイエンス専攻	2	16	—	32	修士（工学）	1.06	平成元年度	
	機械システム工学専攻	2	14	—	28	修士（工学）	0.8	平成2年度	
	情報工学専攻	2	18	—	36	修士（工学）	1.32	平成5年度	
	ロボット・メカトロニクスシステム専攻	2	6	—	12	修士（工学）	0.83	平成22年度	
	工学研究科博士後期課程								
	機械工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.25	平成5年度	
	電気電子工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.5	平成6年度	
	応用化学・バイオサイエンス専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.25	平成5年度	
	機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.63	平成5年度	
	情報工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.63	平成8年度	
	附属施設の概要	<p>①名称：情報教育研究センター                      目的：教育、研究、大学運営等の利用に供するとともに、コンピュータおよびネットワークの関連分野並びに情報教育に関する学術研究およびその実践。                      所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地                      設置年月日：昭和58年3月                      規模等：総面積1,748㎡                      ハードウェア 富士通社製パソコンFMV-ESPRIMO D550/B 348台</p> <p>②名称：工学教育研究推進機構                      目的：研究、教育活動の支援および先端学術の研究により技術の発展と社会の福祉に寄与。                      所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地                      設置年月日：平成8年4月                      規模等：総面積2,996㎡                      大型設備装置等（ナノテクノロジー用クリーンルーム等）                      実験実習室（化学・物理、工作工場等）</p>							

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学部臨床工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通基盤教育	導入系	スタディスキル	1前	1				○								兼2	
	倫理系	生命倫理	3前後	2			○									兼1	
	a群	暮らしの経済	1後・2前後		2		○										兼2
		日本国憲法	1後・2前後		2		○										兼3
		日本近現代史	1後・2前後		2		○										兼1
		ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後		2		○										兼1
		アジアの文化と社会	1後・2前後		2		○										兼1
		少子高齢化と社会問題	1後・2前後		2		○										兼1
		マスメディア論	1後・2前後		2		○										兼2
		宗教と倫理	1後・2前後		2		○										兼1
		比較文化論	1後・2前後		2		○										兼1
		芸術論	1後・2前後		2		○										兼1
		社会参加とボランティア	1後・2前後		2		○										兼1
		国際化と異文化理解	1後・2前後		2		○										兼2
		現代社会の心理学	1後・2前後		2		○										兼3
	環境論	1後・2前後		2		○										兼2	
	人文社会科学演習	3前後		2				○								兼3	
	b群	哲学	2後・3前後		2		○										兼2
		倫理学	2後・3前後		2		○										兼1
		文学	2後・3前後		2		○										兼2
		教育学	2後・3前後		2		○										兼2
		心理学	2後・3前後		2		○										兼3
	c群	政治学	2後・3前後		2		○										兼2
		経済学	2後・3前後		2		○										兼3
		法学	2後・3前後		2		○										兼2
		社会学	2後・3前後		2		○										兼2
		企業と経営	2後・3前後		2		○										兼1
	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1				○								兼2
健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1後		1				○								兼1	
レクリエーションスポーツ		2前		1				○								兼1	
生涯スポーツ実技		2後		1				○								兼1	
学外スポーツ		1・2・3・4		1				○								兼1	
英語基礎系	英語Ⅰ	1前		1				○								兼1	
	英語Ⅱ	1前後		1				○								兼3	
	英語Ⅲ	1前後・2前		1				○								兼9	
	英語Ⅳ	1後・2前後		1				○								兼9	
	英語Ⅴ	2前後		1				○								兼5	
	英語Ⅵ	2後		1				○								兼2	
言語応用系	英会話Ⅰ	1前		1				○								兼2	
	英会話Ⅱ	1後		1				○								兼2	
	総合英語演習	1前後		1				○								兼1	
	TOEICⅠ	2後・3前		1				○								兼2	
	TOEICⅡ	3前後		1				○								兼2	
	文章表現技術	1後・2前		2			○									兼6	
	プレゼンテーション技術	2前後		2			○									兼5	
	技術文章の書き方	3前後		2			○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（看護学部臨床工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基盤教育	数理情報系	身の回りの数学	1・2・3	2		○									兼2
		実感する科学 I	1・2・3	2		○									兼1
		情報リテラシー	1前	2		○									兼2
		小計（49科目）	—	3	77		—		0	0	0	0	0		兼64
専門基礎科目	人体の構造及び機能	医学概論	1前	2		○			1						
		解剖学	1前	2		○			1						
		基礎医学実習	1後	2				○	6	2		2			
	医学的基礎	公衆衛生学	1後	2			○								兼1
		生理学	1後	2			○		1						
		病理学	2前	2			○		1						
		生化学	2前	2			○								兼1
		免疫学	2後	2			○								兼1
		薬理学	2後	2			○								兼1
		看護学概論	2前	2			○								兼9 オムニバス
	理工学的基礎	電気工学 I（直流回路、交流回路）	1前	2			○			1					
		電気工学 II（過渡現象、電磁気学）	1後	2			○			1					
		電気工学実習	1前	1					○	1					兼1 共同
		電子工学 I（基礎）	2前	2			○				1				
		電子工学 II（発展）	2後	2			○				1				
		電子工学実習	2前	1					○		1				兼1 共同
		医用電気電子工学実習	3前		1				○		1				兼1 共同
		機械工学	1後	2			○			1					
		機械工学演習	1後	1					○	1					
		材料工学	2後	2			○			1	1				兼4 オムニバス
		計測工学	2前	2			○			1					
	応用数学	1前	2			○			1						
	応用数学演習	1前	1					○	1						
	医療情報技術とシステム工学の基礎	医療統計学	2前		1				○	1					
		システム制御工学 I（基礎）	3前	2			○			1					
		システム制御工学 II（発展）	3後	2			○			1					
		システム制御工学実習	3前	1					○	1					
情報処理工学		1後	2			○			1						
情報処理工学実習		1後	1					○	1						
医療情報セキュリティ		3前		2		○								兼1	
小計（30科目）	—	48	4		—			8	2		2		兼21		
専門科目	医用生体工学	医用工学概論	1前	2		○			1						
		生体計測機器学 I（基礎）	1後	2		○				1					
		生体計測機器学 II（発展）	2前	2		○				1					
		生体計測機器学実習	2前	2					○	7	2		2		
		生体物性工学	3後	2		○					1				
	医用機器学	医用機器学概論	1前	2		○				1					
		医用治療機器学 I（基礎）	2前	2		○					1				
		医用治療機器学 II（発展）	2後	2		○						1			
		医用治療機器学実習	2後	2					○	3	1		2		兼3 共同
		放射線概論	3後		2		○			1					
画像診断機器学	3後		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

（看護学部臨床工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2			○			1					
		生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			○			1					
		血液浄化装置学	2後	2			○			1					
		呼吸療法装置学	3前	2			○				1				
		体外循環装置学	3前	2			○						1		
		生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2					○	2	1		2		
		生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1					○	2	1		2		
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	3前	2			○				1				
		医用機器安全管理学実習	3前	2					○	1			2		
		関係法規	2後	2			○			1					
		人間工学	2後		2		○			1					
		臨床人間工学	3前		2		○			1					
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	2後	2			○								兼3 オムニバス
		臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	3前	2			○								兼2 オムニバス
		臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）	3後	2			○								兼2 オムニバス
		臨床検査概論	3後		2		○			1					兼1 共同
		救急救命医学	3後		2		○								兼3 オムニバス
		チーム医療論	4前		2		○			4	1		2		兼2 オムニバス
	臨床実習	4前	4					○	3	1		2			
	その他	臨床工学セミナー	4前		2			○		7	2		2		
		卒業研究	4通	4				○		7	2		2		
	小計（32科目）	—	51	16			—		7	2		2		兼13	
合計（111科目）		—	102	97			—		8	2		2		兼99	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通基盤教育科目：合計21単位 必修 3単位、 選択 18単位 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群 2単位 ・健康・スポーツ系 1単位 ・英語基盤系 4単位 ・言語応用系 3単位 ・数理情報系 2単位 専門教育科目：合計103単位 必修 99単位 ・専門基礎科目 48単位 ・専門応用科目 51単位 選択 4単位 ・専門基礎科目、専門科目から選択 任意科目：12単位 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。 臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	導入系	スタディスキル	本科目は1年生の導入科目として、高校の学習から大学への学びをスムーズに移行するための学習スキルを修得する科目である。この科目では、大学の学習システムや大学キャンパスでの生活を知り、大学生としての基本的な心構え・マナーを理解し、大学での学びに必要な日本語能力やコミュニケーション能力等を身に付け、また専門学習の基礎となる実験や工作の方法、レポートのまとめ方等も修得する。
	倫理系	生命倫理	現代社会では生命に関する倫理観が各人に求められる。このような現状に基づいて、食糧資源の問題、人口の問題、栄養失調の問題等をはじめ、人間と人間以外の生物とのかかわり、我々の健康増進に関する社会問題の状況などを講義していく。その間、生命観の歴史、生命倫理観の歴史、現代の医学の基本的状況、現代の生命倫理への観点の状況について講義する。現代の生命倫理学は、特に医の倫理学ともいうべき側面が大きな位置づけを占めている。生殖を含む誕生の倫理、死の倫理、移植の倫理など枚挙に暇がない。このような、いわば、医学の基盤となる側面についても理解を深めていく。
	人文社会系a群	暮らしの経済	わたしたちは、日々の暮らしを維持したり、よりよい生活を営むために経済活動を行っている。働いて給与を得て財やサービスを消費する、あるいは将来のための資産を形成する、また会社に勤めることで生産にも携わる。日々の暮らしの多くがこうした経済活動に関わるものである。本講義では、わたしたちの身の回りの財やサービスの価格がどのように決まるのか、働くとはどういうことか、給料はどのように決まるのか、預貯金をするとはどういうことか、銀行はいかなる役割を果たしているかなどを学んでいく。また、経済成長やグローバル化など、マクロ的な経済動向がわたしたちの暮らしにどのような影響を及ぼしうるのかについても考える。
		日本国憲法	日本人ほど憲法をよく知り、崇拝する国民はいないといわれる。小学校の「公民科」・中学校の「公民科目」・高校の「現代社会や政経」・大学の「教養科目」として、4回も憲法は学ぶことになっているからだ。しかし、法学部の学生を含めて、憲法がその他の法律とは違って国民の人権を保護するための「公的機関を縛るルール」であることを知る人はほとんどいない。このため、憲法は何の役に立たないお題目と化し、憲法学者より建設業者の方が政治に影響力がある現実になっている。憲法は他の法律(社会の秩序を維持したり、国民間の紛争を解決するための法)と違い、むしろ逆向きで、国民の人権を侵害しないよう公権力を見張る機能を持ち、「公権力v.s.私人」という対立においてはじめて問題となる法律なのである。これまでの憲法論議に欠けていた、現実の人間の具体的な生き方、ないしは生活との関わりの中で、もう一度憲法をとらえ直してみる必要がある。この講座は、お題目を唱え・暗記するのではなく、そのルールは何故つくられたのか、憲法を生活に活かすためにどうすればいいのか等を、自ら考え、実践できることが目的である。その結果、公正で論理的な憲法改正論議が出来ることが目標となる。
		日本近現代史	本講義では、議会政治の展開過程を軸に、明治維新期から昭和戦前期の歴史を概観する。藩閥政府から「朋党」「徒党」として忌避された政党勢力が、いかにして実力を養い、国政の中核へと進出したのか。諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り広げられたかを様々な資料を用いてやさしく論じていく。とりわけ、国づくりにかけた政党政治家(原敬・浜口雄幸等)の「熱意」を汲み取り、こうした先人たちの努力の積み重ねの上に、我々の生きる戦後社会が構築されていったことを確認したい。
		ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパ文化の基層を形成するギリシア文化の特質を、ミノス王やラビュリントスで知られるクレタ島クノッソスを中心として栄華を誇ったミノア時代、ギリシア本土の新石器時代やギリシア民族の到来、ミケーネやテーバイなどの王国が栄えたミケーネ時代、アテネのパルテノン神殿に代表される古典期の比較により考察する。またオリンポスの神々が織り成すギリシア神話の特質や背景、トロイ戦争を歌ったホメロスの英雄叙事詩についても理解を深める。



授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基盤教育	人文社会系a群	アジアの文化と社会	最近21世紀はアジアの時代という言葉をよく耳にする。国際化社会が唱えられ、アジア諸国との経済協力が深められている今日、アジア諸国との相互理解を深めるためにもその文化と社会を学ぶことは大変意義あるものと思う。日本企業のアジア進出も相次ぎ、アジアの労働力や技術力に期待が寄せられる一方、政治的な対立も大きな問題として根強く存在するのも事実である。これからの日本を担うエンジニアにとって、アジア諸国とどのような関わりをもつべきかと考えることはとても大切なことである。そのためにも日本とアジア諸国の文化と社会の変化を比較することは必要と思われる。本講義では、近代から現代に至るまでの日本とアジア諸国の関係を解説的に語ることによって、学生個人が今後のアジア諸国との関係はどうあるべきかを考えさせる。	
		少子高齢化と社会問題	日本社会は現在、急速な高齢化・少子化が進む歴史的転換期にある。社会が大きく揺らぐなか、私達は既存の枠組みでは捉えられない新たな社会状況に直面している。授業では、科学技術や産業構造が大きく変化する現代社会において、家族観・社会観の歴史的変容の過程や、家族関係・男女関係をめぐる現状と意識のズレがもたらす社会問題（児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、介護ストレス、孤独死）などを題材に、来たる人口減少社会の展望と新たな可能性を考察する。遠くない将来に各自が直面する問題として、自らに問いかけ考える姿勢を習得して欲しい。	
		マスメディア論	新聞・映画・ラジオ・テレビの登場は、不特定多数の人々に大量の情報を一方向的・同時に伝達することで、社会意識に大きな影響を与えてきた。更に現代では、インターネットの普及により、興味・関心の異なる利用者が双方向的に情報伝達できる、巨大メディアへと成長しつつある。授業では、技術革新と社会的影響を中心に、マスメディアの歴史の変遷および今日のマスメディアの特徴と問題点について考察する。各自が日常的に接する多種多様な情報を取捨選択し読み解くためのメディアリテラシーを修得して欲しい。	
		宗教と倫理	「いつ、どんなふうにして、終わるのか」、「自分はなぜこの世に存在するのだろうか」、「自分は死んだらどうなるのだろうか」。これまで生きてきて、諸君はこのような疑問を抱いたことはないだろうか。こういった疑問は、まさに「宗教」的な問いであり、太古から無数に存在してきたあらゆる宗教が、このような問いへの回答を与えようとしてきたと言っても良い。そういった回答を拠り所にして、何らかの意味で「善く」生きてゆこうとする人間の営みが「信仰」である。この講義では「信仰」のメカニズムを理解することにより、「信仰」における「善」と倫理における「善」との関係を考えることと目的とする。また、そのような観点から、宗教対立やカルトといった現代の問題についても考えたい。	
		比較文化論	私たちは、文化的な諸問題を考える際に、ともすると自分の所属する特定の文化からのみ捉えられた自文化中心のもの見方に陥ってしまいがちです。本授業では、そうした狭い文化観に陥らず、相対的に文化を捉え考えていく力を身に付けることを目的とします。授業では、そのための具体的な方法論として、『ポストモダン』とよばれる領域の批評理論や、『ポストコロニアル』とよばれる文化理論について学んでいきます。それらの批評・文化理論を用いて、狭義の文化（ハイカルチャー）作品にとどまらず、サブカルチャーまでも含めた広義の文化的コンテンツを素材として、文化的諸問題を批評的に読み解き考えていきます。また、そうした批評的な読解の方法論的な意味、更には創作・表現におけるその可能性についても考えていきたいと思えます。	
		芸術論	＜芸術＞と一言でいってもとても広い領域に渡ります。この講義では主に視覚芸術、つまりヴィジュアル・アートを中心に、古今の芸術表現に触れていきます。古代の神殿から映画やアニメーション、そしてゲームまで、人間の想像力、空想力が縦横無尽に発揮された作品群は、私達を魅了し大きな影響を与えてきたことが明らかになるでしょう。芸術に触れ享受するために「なぜ、人はこのような表現をしたのだろうか」まずはそんな素朴な疑問と好奇心から始めましょう。そして最終的に「芸術とは何か」、人々は「世界をどのように認識するのか」という命題に迫ります。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基盤教育	人文社会系a群	社会参加とボランティア	ボランティアとは「自発的な意志に基づいて人や社会に貢献すること」である。具体的には、(1) 自分からすすんで行動する「自主性・主体性」、(2) とともに支え合い、学び合う「社会性・連帯性」、(3) 見返りを求めない「無償性・無給性」、(4) よりよい社会をつくる「創造性・開拓性・先駆性」が重要な視点である。実際にどのようなボランティア活動が行われているか、さまざまなボランティア活動の実践例を学ぶことを通して、社会参加のあり方について考えていきたい。授業の中だけではなく、日頃から一人一人が、社会的な問題に関心を持つことが大事である。その際、多くの人が関心をもつ課題だけではなく、マイノリティ（少数派）の人たちの抱える課題にも関心を持ってほしい。授業の進め方は、講義形式が中心であるが、ビデオによる事例理解や当事者の話を聞いたりする機会を用意する。ボランティア活動を含めた社会的介入を理解するために「プログラム評価」の理論を用いて、インプット→活動→アウトプット→アウトカムの流れを理解し、実際にボランティア計画を一人一人が立案してみる。新しい視点から自由に発想したボランティア計画をたてよう。	
		国際化と異文化理解	国際化の進展とともに、我々が異なる文化を持つ人々と接する機会が増えている。しかし日本に住んでいる我々が日ごろ目にする海外からのニュースは、欧米諸国（特にアメリカ）を経由していることが多い。本講義ではまず、我々がこれまで得てきた情報が、いかにアメリカに影響されていたのか気づいて欲しい。その事例として中東諸国に関する情報を取り上げる。イスラーム教徒が大半を占める中東諸国とアメリカは長きにわたって対立してきた経緯があるため、我々が彼らに対して抱えているイメージにも、少なからぬ偏見や誤解が含まれている。次に、中東諸国の人々からは世界がどのように見えているのかを学んで欲しい。さらに可能であれば、アメリカと中東諸国に住む人々の世界観が必ずしも対立するものではないことを知ってもらいたい。	
		現代社会の心理学	この授業では、身近な心理学について講義する。多くの学生は「身近な心理学」と聞くと、例えば心理テストや性格診断などを連想するかもしれない。しかし、それらは心理学の展開・応用にすぎない。ここでは、展開・応用の根源にある人間理解を目指し、身の回りの出来事を心理学的に捉える方法を学ぶ。現代社会で誰もが会おう事柄を研究対象としているので、学生が修得・実践すれば日常生活を今まで以上に円滑に送れるようになるであろう。	
		環境論	20世紀後半に起きた公害・環境問題は、人間社会において自然環境が有限で限界であることを自覚させる契機となった。この意味で、際限なき拡大・成長を自明視してきた現代社会は、かつてない転換点にあるといえる。本講義では、この転換の意味を理解するために、現代日本を含め国際社会が直面しているいくつかの環境問題を取り上げて、環境破壊を生み出す社会構造のそのメカニズムについて考えていく。その上で、持続可能な社会を構想する現代の潮流を読み解いていきたい。受講者には環境問題を自然現象として理解するだけでなく、「社会」の問題として理解できるようになってもらいたい。	
		人文社会科学演習	この授業はゼミ形式を採用し、1年間にわたって特定のテーマについて、フィールドワーク（調査を通じたデータ収集と分析）を行い、グループで討論し、データに依拠した発見や成果を発表することを目指す。最初に、選んだテーマに関する今日的状況について、ドキュメンタリー鑑賞などを通じて理解を共有し、同時に各自で文献調査を行って、基礎知識を修得する。その後、インタビュー調査とアンケート調査の手法を学び、グループに分かれて調査を実施し、データの分析結果について討論する。最後に、研究成果を発表しあって全体討論を行う。フィールドワークと共同研究の経験を通じて、多角的な視点とコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基盤教育	人文社会系b群	哲学	古来、哲学者と呼ばれる人々は実に様々な問題に取り組んできた。彼らの活動の足跡は現代の我々に「哲学史」として残されている。この講義は、主に古代から近世にいたるまでの西洋の哲学者たちの残した様々な言葉について考えることによって哲学史を紐解くことを目標とする。哲学史も一つの歴史である以上、受講者は最低限の基本的な知識を身に付けなければならない。しかし、この講義の目的はただ単に知識を覚えることではない。哲学者たちが取り組んできた問題がどのように時代を超えて受け継がれ発展していったのか、その連関を把握することによって、そもそも「哲学的な問題」とはどのような問題であるのかを理解し、さらにはそこから現代の具体的な諸問題について考える手がかりを得ることがこの講義の主眼である。受講した学生諸君が、この講義を受講する以前には思いもよらなかった考え方が出来るようになる、そういう講義となるように努めたい。	
		倫理学	古来より哲学者たちはあらゆる事柄について考えてきた。その中で「人間とは何か」という問い、「ただ生きるのではなく、善く生きるとはどのようなことか」という問いが発せられた時、倫理学が始まったと言ってよい。このような問いは時代や場所を越えて、全ての人が多少なりとも関心を抱かざるを得ない問いであると言って良いであろうし、また実際に、例えば古代の哲学者によって残された言葉の中に、現代に生きる我々の問題意識との意外な「近さ」を見出すことも少なくない。この講義の目的は、古代から近代にいたる哲学者たちの残した倫理的な事柄に関する文章を読み、受講者の各々が自分の心に響く言葉を見つけることである。諸君が生きてゆく上で折に触れて思い出すような言葉と出会うことが出来れば、幸いである。	
		文学	文学作品のみならず《ことば》によって書かれた作品には“読む”という行為がつきまといます。普段何気なく触れている文章の《ことば》も、言語がもつ《表現》としての動きや機能性を念頭に置いて意識的に“読む”とき、それまで受け取っていた理解とは全く異なる世界が開けてきます。そうした“読む”行為を意識化するところに、文学という学問領域の意味があります。本授業では、そのような“読み”の知見を学ぶことで、多角的な読解の方法と姿勢を身に付けることを目的とします。テキスト（小説、評論、等々）と向き合い、意識的に“読む”読解・解釈という作業の中で、《ことば》を《読む》という行為の意味や可能性について考えていきたいと思えます。	
		教育学	「人を育てる」、「人が育つ」とは、人間にとってどのような行為であり、歴史的にどのような教育活動や学校システムが作り出されてきたのか、教育は今日の世界においてどのような可能性・使命、そして「危険性」をもっているのか、という本質的な問いを扱う。教育の土台となる人間的諸活動（遊び、学び、労作など）、権利としての教育、学校・教育のデザイン、子ども・学校の歴史、現代社会の教育問題といった視点から、テーマ学習のスタイルで考える。講義の中心は子どもへの教育活動への言及となるが、生涯発達思想や学校化社会批判の観点からも考察する。現代の子ども・教育をめぐる諸問題を、一般的な言説やマスコミ報道によってではなく、自分の力で分析・検討する姿勢をもつようになること、その際、異質な存在への寛容さや人類的な視点をもてること、やがては何らかの専門家・市民・保護者として教育に主体的にかかわろうとする意識をもつことを狙いとする。	
		心理学	世界とは何だろうか、人間とは何だろうか、考えるということはどういうことだろうか。そんな素朴な疑問が哲学を生みだしました。そして、その哲学的思索を公共の物とし、客観的な事実とする方法論として科学が生まれました。心理学は、その科学の方法論に則り、人間という存在についての根源的な問いに取り組む人間科学の一分野です。講義では、心の科学としての心理学が成立し、現代にいたるまでの思想、方法論の歴史を概観し、現代の心理学が取り組んでいる様々なトピックや、最新の研究について紹介します。また、進化論、生物学、比較行動学、社会学、文化人類学、脳科学、言語学、人間工学など、他分野との学際研究の中心にある学問としての心理学が果たすべき役割について考えていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	人文社会系c群	政治学	人間は社会的な動物であるといわれます。すなわち人間は、他者の存在が不可欠であり、他者との関係のなかで生きる生き物です。そういう人間が集まって作る社会の歴史・制度・習慣・風俗・気質等が、どのように人々の暮らしを条件付けているか。また、その中で個人と社会（または組織）との望ましい関係はなにか。－そういう問題を考えるのがこの科目です。具体的にいえば、主に現在の日本の政治状況から例を取り上げながら、そこにどのような原則（または無原則？）があるのか、個人としての私たちは、どのように行動するのが、より良いことなのか、等を考えてみたいと思います。
		経済学	経済学は、人々の生活基盤となる経済システムおよびメカニズムについて明らかにする社会科学です。この講義では現代の世界経済および日本経済の現状について、まず「現代の大不況」を理解するため混合経済体制の下での国民経済のメカニズムを把握し、国民所得の決定の理論、財政・金融政策の役割を中心にマクロ経済を学習します。次に、市場経済の現実の運動を論理的に解明するため、ミクロ経済の必要最低限の知識である意思決定と企業の費用分析および市場の失敗等について学びます。かくして、経済現象について体系的に学ぶことで、広い視野と深い洞察を得るための汎用的技能を修得出来ます。（公務員志望、企業家（起業家）を志す学生およびキャリア形成に前向きな学生は、履修することを薦めます。また、1年・2年次に「暮らしの経済」を履修していることが望まれます）。
		法学	「生活の中の法学」や「はじめての法学」、あるいは「〇〇学部のための法学」といった容易さや限定的なタイトルにだまされる人は多い。「工学部のための法学」といえば決まって特許や著作権などの知的財産権が対象で権利者の保護や経済的権利（どれだけ儲かるか）が話題になり、科学技術の公共性や知的文化の発展という本来の目的を忘れる。法は特定の人の利益のためにあるのではない。授業では、法知識を身に付けるのではなく、何のために法は発生し（法の起源）、どのように変化（法の変遷）し、どこへ向かおうとしているのか（法の行方）について考える。私たちが殺人・傷害などをしていないのは刑法があるからではなく、社会の人間関係から排除されることを恐れるからに他ならない。ネット社会の中ではこうした「法的想像力」が欠如し、人間関係の希薄化が一体何をもたらすのか等を一緒に考え、その解決法の一つとして、「リーガルマインド（法的思考）」を身に付けることが「法学」の目的です。
		社会学	社会学は、私たちの「常識」を疑い、日常生活のなかにさまざまな「驚き」や「異文化」を発見し、「社会」がどのようなメカニズムで成り立っているのかを解明する学問である。私たちは、自らが所属する「社会」の影響を色濃く受けており、決して「社会」と無縁に暮らしているわけではない。そこで、社会学理論を学ぶことで新しい「思考の枠組み」を獲得し、歴史を知り現在を相対化するとともに、国際比較や異文化理解によって自文化を相対化する。こうした社会的な思考を通じて、社会問題を発見し、多角的に考える広い視野を体得して欲しい。
		企業と経営	この講義の目的は、経営学の基礎と戦略論を学びながら、経営学的な考え方を修得することである。経営学の基礎としては、企業内部がどのように構成されているのか、を「ヒト・カネ・モノ・情報」といった経営資源を基に学ぶ。そして、企業の実例と講義内容をあわせて、企業の地道な努力や問題点を見つつ、理論と実際の差異を考えていく。その後、現代企業の国内・国外での具体的な経営活動を効果的に行うために用いられる「戦略論」を学習していく。企業は常に競争にさらされており、自身の存続をかけて、内部環境や外部環境を分析した上で商品を市場に投入していく。戦略論では市場での企業間競争を中心に学習する。その例として、時事トピック・事例研究を取り入れ、企業の置かれている現状を理解できるようにしていく。

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基盤教育	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	<p>教員免許状を取得する為には、必ず健康・スポーツ科学実習ⅠとⅡをセットで履修すること)</p> <p>この授業は、健康と身体に関する基礎的知識を理解するとともに、現代社会における健康の意義を理解し、生涯にわたり健康を求めようとする動機づけを高めるものである。豊富なスポーツ活動を通して健康と体力の維持向上をはかり、コミュニケーション、社会性、協調性を育み、社会人として活躍できる基礎体力を養うことを目標とする。スポーツ種目は、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントン、硬式テニス、卓球などの球技を中心とする。スポーツ種目の選択にあたっては、同一時間内に担当指導教員が選定する種目の中から選択する。</p>	
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	<p>(教員免許状を取得する為には、必ず健康・スポーツ科学実習ⅠとⅡをセットで履修すること)</p> <p>この授業は、身体運動が人間の身体機能に与える影響を、理論と実践からアプローチするものである。授業内容は、講義と実践(実技)の統合である。講義では、体力に主眼をおき、自己の体力水準を把握・評価するとともに、体力とのかかわりを理解し自らの体力増進をはかるものである。学習成果としては、体力と身体的基础的知識理解、自らの体力に気付き改善する実践力、スポーツ活動により自己基礎体力維持を目的としている。(スポーツ種目は硬式テニス、バドミントン、卓球、トレーニング、バレーボール、バスケット、ソフトボール、サッカー等があるが指導教員が指定する。)</p>	
		レクリエーションスポーツ	<p>この授業は、多様なスポーツを体験し、技能を高めながら活発なコミュニケーションをはかり、新たなスポーツとの出会いをはかる。学習成果としては、スポーツの楽しさを体験、コミュニケーション能力を高め学生生活を充実させることにつながるライフスキルの修得、スポーツ実践によって生涯スポーツに発展させる事を目的としている。(スポーツ種目については、2種目から3種目を指導教員が指定する。)</p>	
		生涯スポーツ実技	<p>この授業は、生涯にわたってスポーツを継続し、自己の健康を保持できるようにし、スポーツ文化の生活化をはかる。学習成果としては、スポーツ活動を基に生涯を通してスポーツを楽しむ豊かな交流ができる、自己の健康維持を目的に生涯スポーツ実践ができる、スポーツが生活の一部として実践できる環境づくり、また人生を豊かにする為の余暇利用方法の基礎的能力を養うことを目的としている。(種目としては、トレーニング・ゴルフ・バドミントン・卓球・硬式テニス・レクリエーションスポーツ等があるが、指導教員が指定する。)</p>	
		学外スポーツ	<p>平成28年4月1日から「障害者差別解消法」がスタートし、障害のある人もない人も、共に生きる共生社会を作ることを目指しています。このことに鑑み、運動制限のある人の種類や程度に適応させたスポーツを行うことを中心とする授業です。学内と学外ウォーキングを中心に、また誰にでも参加できるスポーツとして体操や卓球を運動制限がある人もない人も、ともにスポーツに参加し、共生社会の実現についての理解を深めることを目的とします。</p> <p>(実施は、冬期2月初旬に学内と学外ウォーキングを行う。)</p> <p>授業上の安全のため、受講希望者が多い場合は、履修者の人数制限(上限35名)を行うことがある。</p>	
英語基礎系	英語Ⅰ	<p>高校までに学んだ英語の基礎を再度学習し直す。アルファベットから始まり、音、書体、符号、品詞など、英語を理解するのに不可欠な基本ルールである初歩的な文法事項を中心として、英語の基本を確実に理解し修得することを最大の目標とし、TOEICテストにも対応できるような基礎力を修得する。クラスでは適宜、基本語彙とともに平易な会話表現や作文なども学習する。</p>		
	英語Ⅱ	<p>英語Ⅰで学んだ英語の基礎をさらに確実なものとするために、基礎的な文法事項をより詳しく学び、基本事項を理解し修得することを第一目標とし、TOEICテストにも対応できるような基礎力を修得する。英語Ⅰと同様にクラスでは基本的な語彙の他、易しい日常会話表現や作文なども適宜学習する。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語基礎系	英語Ⅲ	英語Ⅰと英語Ⅱの学習内容を土台として、さらに基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して身近の事柄に関する比較的易しい文書が理解でき、それらについて基本的な文章を書いたり話したりすることができるようにし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	英語Ⅳ	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲの学習内容を土台として、さらに基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して簡単な説明文を理解し、図表などを読み取ることができ、日常生活での話題や関心のあることについて自分の考えを述べ、英語で出された指示などを理解することができるようにし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	英語Ⅴ	英語Ⅳまでの学習内容を土台として、より高度な英語の説明文を理解し、より実用的な文章から必要な情報を十分に読み取ることができ、社会や日常生活の出来事についての的確に説明することができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	英語Ⅵ	英語Ⅴまでの学習内容を土台として、より社会性の高い、幅広い分野における文章を十分に理解でき、この話題についての的確に説明し、自分の意見を述べ、これについてまとまりのある文章を書くことができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
共通基盤教育	英会話Ⅰ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、ネイティブの発音に慣れ、「リズム」と「ストレス」で成り立つ英語音を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC (R) テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
	英会話Ⅱ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、英会話Ⅰよりナチュラルスピードに近いネイティブの発音に慣れ、音としての英語を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を英会話Ⅰに続き学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC (R) テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
	総合英語演習	リスニング、ディクテーション、語彙問題を中心としたe-Learningの演習課題を授業内でこなっていくことを通して、基礎的な文法事項・語彙・英語表現を修得し、日常生活における身近な事柄に関して、コミュニケーションをとることができる力を身に付けることを主眼とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	TOEIC I	TOEICテストスコア500点以上を目標としながら、英語Ⅵまでに学んだ内容を土台として、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEICのテスト形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力を向上させることを中心とする。	
	TOEIC II	TOEIC Iで修得した学習内容を土台として、TOEICテストスコア550点以上を目標としながら、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEICのテスト形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力をより向上させることを中心とする。	
言語応用系			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	言語応用系	文章表現技術	1年次前期の「スタディスキル」で学んだことを活かし、更に高度な文章表現の技術、コミュニケーション技術を学ぶ。「スタディスキル」では、特に大学生活で必要最低限の事項を優先的に学んだが、「文章表現技術」では、より考えを深め、より効果的に表現するためのスキルを身に付けることを目標とする。 ライティング能力および論理的思考を身に付ける為の基礎的な演習を行い、実用的にものを書くための基本論な事項について、また論理的に書くとはどのようなことか、主張を明確に伝えるとはどういうことかを学んでいく。具体的には、文章の形式、構成法、主張と論拠の立て方、文献の引用の仕方、テーマの深め方等を学び、学期後半では報告やプレゼンテーションの発表、質疑応答等を行いながら、公的な場におけるコミュニケーションのスキルを学ぶ。
		プレゼンテーション技術	プレゼンテーションとは、単に人前に出て話せばいいというものではない。いかに「説得的に伝達するか」が重要な課題となる。その為には「論理的に考え」「要点をまとめて整理し」「聞き手の立場に立って表現する」という三つの要素と、これに付随する様々な技術の修得を要する。 本授業では、そうした基礎的な要素をふまえて、プレゼンテーションの事前準備から、シナリオの作成、伝達技術、そして質疑応答に至るまでの、より高度なプレゼンテーション技術の修得を目標とする。進め方としては、社会に出てからの実践にもつながる技術上の知識やメソッドを学びながら、実際のビジネス分野でのヒット商品の企画書やプレゼン資料などを読み解き、批判・批評的な意識を高める。また、実際のプレゼン発表・質疑応答を通して、体系的に技術を修得していく。
		技術文章の書き方	技術者にとって研究報告書・論文・技術的なマニュアルの作成はコミュニケーション手段の一つとして欠かせないことである。本科目は技術者に必要な技術文章のまとめ方、マニュアルの作成方法をマスターし、ライティング技法も身に付け、卒業研究論文等の技術文章を書けることを目的とする。具体的に、技術文章の構成、各専門分野に関する専門用語、表やグラフの作成、技術文章の具体例(技術報告書、取り扱い説明書等)を学習する。
	数理情報系	身の回りの数学	高校から大学までの数学を三つの分野に分けて学ぶ。 第1分野(数、数式、図形の基本的な扱い) 数の概念、数の表記、数列の考え方、方程式の立て方、三角比と図形 第2分野(論理的な考え方、物事を整理し考える方法) 論理と思考、数え上げ、確からしさと確率、データの統計処理 第3分野(社会や自然に関する知識の基礎的な事柄の理解) 指数関数的増減と対数スケール、変化率と微分、面積と積分
		実感する科学I	身の回りや生活の中の自然現象や科学技術などを題材にして、自然科学の基礎的な内容を学ぶ。原子・分子に始まり生命や地球まで、この世界をつくる「物質」と、物質が動く源である「エネルギー」を軸にして、物理・化学・生物・地学の4分野が、よく関連していることを感じてもらう。授業は、一方的に知識を詰め込む講義形式ではなく、双方向的に進め、簡単な演示実験や動画も活用して、「意味をつかむ」「考える」「体験や知識を互いにつなげる」といった姿勢で学ぶことの大切さを感じとってもらうことを目的としている。そうした「知の実感」とともに、数量的なスキルを鍛える計算や、数式とグラフの扱い方などの演習にも十分な時間をかける。取り上げる題材は、物質と原子、エネルギー、食事と栄養、速度と加速度、地震と火山、汗はなぜ身体を冷やす、気象、遺伝、DNA、身近な電気、原子力発電、地球温暖化などである。
	数理情報系	情報リテラシー	コンピュータとネットワークの基礎知識を知り、技術者として必要な情報技術に関する基本スキル、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身に付けることを目的とする。具体的に電子メールを利用した各種情報のやり取り、セキュリティに関する心構え、文章作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPower Pointの使用法等を学びながら、これらを活用した学習ノートや実験報告書の作成、学習情報やデータの整理・集約および学習成果発表資料の作成を実践的に行える。また、専門分野に応じて、より応用的な内容も修得する。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造及び機能	医学概論	医学は、解剖学・生理学・生化学・病理学などの基礎医学、内科学・外科学・整形外科などの臨床医学、公衆衛生学・法医学などの社会医学からなる。臨床工学は、このような医学とその社会的適応である医療を進歩させるために発展してきた学問領域である。医学概論は、臨床工学技士を目指す者に必要とされている基礎的な医学的知識を広く学習する。医学・医療の歴史の変遷や、医学教育と医療体制、医療事故の防止、医学の進歩と倫理、医学と工学のかかわり(医療機器)に関する歴史や将来展望などについて学習する。
		解剖学	解剖学、生理学、生化学は基礎医学教育の三本柱とされている。その中の解剖学は、医用工学の基礎としての生体の構造(各組織の形状や位置、組成など)を理解するための最も基礎的な学問である。細胞や組織、骨や関節、骨格筋、血液や体液、呼吸器系、心臓血管系やリンパ系、消化と吸収、尿の生成と排泄、内分泌系、神経系、皮膚や感覚器系、生殖器系、人体の発生に関わる構造や、それぞれにおける解剖学用語を系統立てて幅広く学習する。
		基礎医学実習	解剖学、生理学および病理学の学習内容についてより理解を深めるために、関連する実験・実習を行う。具体的内容として、ヒトの形態計測と体組成計測、人体解剖模型の観察とスケッチ、主要な正常組織の顕微鏡的観察とスケッチ、循環系の生理学的測定(姿勢変換による血圧の変化、心電図、心拍数)、呼吸機能の測定(スパイロメトリと肺活量)、腎機能計測(テストテープによる尿検査)、病理標本の観察(肉眼および顕微鏡的観察、ビデオ学習とスケッチ)などについて学ぶ。
	医学的基礎	公衆衛生学	公衆衛生学とは、共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的および精神的健康と能力の増進をはかる科学・技術を扱う分野とされ、個人から集団レベルまでその対象領域は広い。疫学的調査や保健統計などから、ヒトの健康や疾病に関するさまざまな要因(宿主側要因、病因側要因、環境的要因など)を探り、身体的・精神的および社会的に健康な生活を送るための課題や生活・生命の質(QOL)を向上させるために必要な事象について学習する。
		生理学	生理学は、解剖学や生化学とあわせ、基礎医学教育の三本柱とされている。医用工学の基礎としての生体の機能(各組織のはたらき)を理解するための学問である。生理学は特に解剖学と並行して理解することが重要である。血液・間質液やリンパ、体液と電解質、血液循環や血圧、心臓の電気生理、呼吸運動と調節、肺機能、消化と吸収、栄養と代謝、体温調節と発汗、尿の生成と尿路、内分泌とホルモン、骨格筋と筋収縮、神経系、感覚器系、生殖器系のはたらき、発生と老化などについて系統立てて学習するとともに、各系統との関連についても学習する。
		病理学	病理学とは、疾病の発症や進行の原因について、各臓器組織の形態学的な変化を細胞レベル、組織レベル、臓器レベルで理解していく学問である。臨床工学技士は、血液の体外循環や浄化技術、人工呼吸など生命維持管理装置に関する業務を主として行うとされているが、いろいろな疾病に関する基礎的な知識を修得しておくことは重要である。疾病の要因、細胞傷害の機序とその反応、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍、遺伝性疾患などについて学習する。
	生化学	生化学は、解剖学や生理学とあわせ、基礎医学教育の三本柱とされている。生体の内部環境の諸因子のレベルは、複雑な生体機能の協調によって一定の範囲に維持されている。このような生体の恒常性を維持させている、生体内のさまざまな物質の化学構造や反応の機構などを学習することは、臨床工学技士にとっては必須であるといえる。代謝と栄養素、酵素のはたらき、糖質・脂質代謝などとその生理学的意義、ビタミン、水やミネラル、エネルギー代謝などについて学習する。	



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	免疫学	生体が微生物や毒素を識別しそれらを排除する仕組みが免疫学であり、臨床工学技士として修得しておかなければならない必要不可欠な学問とされている。抗原抗体反応などの基礎的な原理を始めとし、輸血や移植と免疫との関係や、免疫不全、アレルギーなどに関する知識を理解しておかなければならない。抗原抗体反応、免疫担当細胞のはたらき、体液性免疫と細胞性免疫、アレルギーとアレルギー性疾患、免疫不全症と自己免疫病、移植・腫瘍と免疫、輸血と血液型、免疫に関する臨床検査法などについて学習する。	
	薬理学	臨床工学技士は、薬物や毒物などに対する生体各組織のさまざまな反応や、その調節機構を十分に理解して業務にあたらなければならない。そのためには呼吸器系や循環器系、神経系、泌尿器系、消化器系などの臓器組織における薬理作用や副作用、薬物アレルギーの対処法などについて十分に理解しておく必要がある。生体内の薬物動態、主作用と副作用、薬物効果に影響するさまざまな因子、新薬の開発と臨床試験、医薬品情報の入手方法、各組織や系統に作用する薬、止血薬などについて広く学習する。	
	看護学概論	臨床工学技士としてヒトを理解することから看護の概念やその目的、役割や機能などについて学習する。  (オムニバス方式/全15回) (25 田村幸子/3回) 成人看護学の基礎的知識について学習する。 (36 水谷郷美/4回) 基礎看護学の基礎的知識について学習する。 (32 兎澤恵子/1回) 老年看護学の基礎的知識について学習する。 (26 芝山江美子/1回) 公衆衛生看護学の基礎的知識について学習する。 (31 田中千鶴子/1回) 在宅看護学の基礎的知識について学習する。 (27 濱園環/1回) 小児看護学の基礎的知識について学習する。 (28 小野智佐子/1回) 母性看護学の基礎的知識について学習する。 (34 橋本真由美/2回) 成人看護学の基礎的知識について学習する。 (37 田代誠/1回) 精神看護学の基礎的知識について学習する。	オムニバス
理工学的基礎	電気工学 I (直流回路、交流回路)	電気工学は、様々な分野で広く用いられている。電気工学 I では、その基礎となる直流回路や交流回路などの電気回路理論の骨子を学習する。具体的には、直流回路では、オームの法則、キルヒホッフの法則、閉路方程式を用いた回路解析、重ね合わせの定理、鳳-テブナンの定理、ブリッジ回路などを学習する。交流回路では、正弦波交流の電圧や電流の振幅や位相と周波数の関係、インピーダンスの複素数表示、複素数を用いた交流回路解析、電力、周波数特性、電圧伝達関数、電力装置などについて学習する。	
	電気工学 II (過渡現象、電磁気学)	電気工学 II では、過渡現象解析と電磁気学について学習する。過渡現象解析では、線形微分方程式の解法と RC 回路および RLC 回路の過渡応答、交流電源を含んだ RC 回路、RL 回路、RLC 回路の過渡応答を学習する。電磁気学では、ベクトル場の表わし方、クーロン法則、電界と電位、電荷と電界、電流と磁界、電磁誘導と変位電流、誘電体と静電容量、磁性体とインダクタンス、誘電体や磁性体に働く力、運動と電磁界、力の運動の電磁現象、導体内の電磁界、電磁波などについて学習する。	
	電気工学実習	電気現象を計測するためのオシロスコープ、LCRメータ、マルチメータ、フラックスメータなどの基本的な電子計測器の動作原理や使用方法を学習する。また、電源を含む回路の電流と電圧を測定し、理論値(キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理)と比較する。受動素子を用いた積分回路、微分回路、共振回路などの周波数特性やステップ応答を測定し、理論値と比較する。コイルに交流電流を流して磁界を発生させ、誘導起電力を測定し、起電力と磁束との関係を分析する。これらの実習課題を通して理論に裏付けされた計測法を学習する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	理工学的基礎	電子工学Ⅰ (基礎)	生体計測装置、生体機能代行装置、治療機器などを理解する上で基礎となる電子回路素子および電子回路について学習する。具体的には、抵抗、コンデンサ、コイルなどの受動素子については構造、機能、特性、使い方について学習する。能動素子については、半導体の基礎を踏まえて、ダイオード、トランジスタ、演算増幅器などの機能、特性、使い方を学習する。さらに、各種のアナログ回路、論理回路、通信方式などの理論を学習する。	
		電子工学Ⅱ (発展)	電子工学Ⅱでは、電子工学Ⅰを基礎に、生体計測装置、治療機器で用いられている電子回路を例に、受動素子と能動素子を組み合わせた回路、論理回路、デジタル回路の設計や解析方法を学習する。また、これらの機器に影響を与える攪乱因子とその抽出方法、低減化を図る回路設計理論を学習する。	
		電子工学実習	演算増幅器やダイオードを用いた回路として、反転増幅回路、非反転増幅回路、比較回路、加算回路、減算回路、電圧・周波数変換回路等、またトランジスタを用いた電流増幅回路を取りあげる。回路の設計製作、特性実験を通して回路動作の方法、特性データの整理、解析方法を学習する。これらの課題を通して電子回路と素子の働き、機能について理解を深める。	共同
		医用電気電子工学実習	電極、光センサ、加速度センサ、圧力センサ等の生体への適用および取り扱いを学習する。次に、プロジェクト（PBL）形式で皮膚電位、心電図、筋電図、血流、体温、血圧などの生体情報を検出する回路を演算増幅回路、受動素子を用いて設計・製作し、特性実験、評価実験、データ分析を行う。これらの課題を通し、生体計測に関わる電子技術の適用原理を学習する。	共同
		機械工学	医療機器はすべて機械であり、その保守、点検、操作では、機械の動作原理、損傷や破壊、振動や騒音などが起こるメカニズムについて知っておく必要がある。力とモーメント、応力とひずみ、フックの法則とヤング率、粘弾性、力と運動、ばねの振動、摩擦、エネルギー、熱と比熱、熱エネルギー、熱の移動、圧力、ボイル・シャルルの法則、パスカルの原理、流体、ベルヌーイの定理、ポアズイユの式、波動、音波、ドップラー効果など、機械工学分野で扱う基本原理や法則あるいは解析手法などを学習する。	
		機械工学演習	臨床工学技士が扱う機器を念頭に、機械工学分野で扱う基本原理や法則あるいは解析手法などを、演習を通して学習する。力とモーメント、応力とひずみ、フックの法則とヤング率、粘弾性、力と運動、ばねの振動、摩擦、エネルギー、熱と比熱、熱エネルギー、熱の移動、圧力、ボイル・シャルルの法則、パスカルの原理、流体、ベルヌーイの定理、ポアズイユの式、波動、音波、ドップラー効果などの基礎事項について演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部臨床工学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	理工学的基礎	<p>生体内に埋め込まれたり、血液に接触して治療に用いる医用材料の基本的適合条件や安全性評価、材料特性や用途について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 大瀧保明/4回) 材料の機械的強度と物性試験、生体材料とバイオマテリアル概論などについて学習し、まとめと演習を行う。</p> <p>(3 松尾崇/4回) 生体と医用材料の相互作用、組織結合と組織接触材料の生体反応、生体適合性などについて学習し、まとめと演習を行う。</p> <p>(35 井上英樹/1回) 再生医療について学習する。</p> <p>(93 山本博一/2回) 金属系マテリアルの基礎と医療応用、セラミック系マテリアルの基礎と医療応用について学習する。</p> <p>(29 清水秀信/3回) 有機化学・高分子化学の基礎、有機材料・高分子系マテリアル、医用材料としての高分子系マテリアルについて学習する。</p> <p>(30 澤井淳/2回) 生体に用いる材料の安全性、安全性試験について学習する。</p>	オムニバス	
		計測工学	生体計測に必要な計測技術である、物理量と国際単位系、測定の誤差と有効数字、測定精度、間接測定と誤差、機械的測定（長さ、角度、質量、力、圧力、流量など）、センサとセンシング技術（変位、長さ、速度、角速度、力、磁界、光、温湿度など）に加え、信号の計測、AD変換とサンプリングの定理などのアナログ信号計測技術、時系列データの信号処理、移動平均、フィルタ、離散フーリエ変換、窓関数などのデジタル信号処理技術について学習する。	
		応用数学	生体計測用機器を扱う上で基礎となる、微積分学、微分方程式などの解析学と、ベクトル、行列など線形代数学の理論を学習する。具体的には、集合と論理、関数と極限、導関数、高次導関数、テイラーの定理、マクローリンの定理、速度・加速度と微分、不定積分、定積分、積分の応用、ベクトルとその応用、行列と行列式、微分方程式、複素数などを学習する。	
		応用数学演習	生体計測用機器を扱う上で基礎となる、微積分学、微分方程式などの解析学と、ベクトル、行列など線形代数学の理論について演習を通して学習する。具体的には、集合と論理、関数と極限、導関数、高次導関数、テイラーの定理、マクローリンの定理、速度・加速度と微分、不定積分、定積分、積分の応用、ベクトルとその応用、行列と行列式、微分方程式、複素数などの演習を行う。	
		医療統計学	臨床医学や基礎医学などの各領域、あるいは医師や看護師、臨床工学技士などの各職種を問わず、医療の現場では生体を中心としたさまざまな数値（データ）を扱うこととなり、統計的な手法を駆使して解析を進めるケースが多い。医療統計学では、母集団と標本、正規分布と区間推定、平均値や標準偏差、変動係数、差の検定（関連2群、独立2群、関連多群、独立多群など）、回帰と相関関係、生存率、再現性などについて、市販されている有用な統計処理ソフトを用いて、バイオサイエンスの実際に基づく数値を扱いながら、演習を通して学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	医療情報技術とシステム工学の基礎	システム制御工学Ⅰ (基礎)	システム工学の考え方、システムの構造と特徴、生体システムの構成要素と特徴、システムの設計と評価、システムの信頼性と安全などシステムの基礎事項を学習する。システム工学の基礎事項を踏まえ医療機器・システムに組み込まれて利用されているシーケンス制御、プロセス制御、フィードバック制御、フィードフォワード制御、ファジー制御、ロバスト制御、最適制御などの制御方法、制御系の記述方法、特性などについて学習し、最後に医療機器・システムにおける制御を学習する。
		システム制御工学Ⅱ (発展)	線形制御と非線形制御の定義と特徴、生体の相互補完機能や生体特有の非線形性について、非線形制御理論と適用原理などについて学習する。次に、生体现象の理論的な解釈を踏まえて、循環器系、呼吸器系、神経系のモデル化手法を学習する。人工臓器など生体を模擬した人工システムの構造、特徴、適用モデル、適用制御則、安定性評価理論などを学習する。さらには、人工システムの有効性、安全性を検証する手順と方法などについて学習する。
		システム制御工学実習	流量、液レベル、圧力などを制御対象としたシステムを組み上げ、各構成要素の状態を時系列的に計測しプロセス制御を学習する。受動素子および演算増幅器などの電子要素で構成したシステムを組み上げてP、PI、PIDなどの制御方式の過渡応答を求め、結果の解析を通しフィードバック制御を学習する。温度を制御対象としたシステムを組み上げ、各構成要素の状態を時系列的に計測しフィードフォワード制御を学習する。これらの実習を通してシステム制御の仕組みや基礎理論に対する理解を深める。
		情報処理工学	デジタル信号の表現と論理演算、論理回路、コンピュータの基本構成とコンピュータの動作原理、オペレーティングシステム、プログラム開発とプログラミング言語、ユーザインターフェース、データ処理アルゴリズム、データベース、データ通信とネットワーク、コンピュータによる計測・制御の考え方と方法、コンピュータが構成要素となっている医療・治療機器事例や計測システム、医療情報システム事例、医療現場でのセキュリティ対策など情報技術の基礎を学習する。
		情報処理工学実習	コンピュータのプログラミング技術の修得は、臨床工学で扱う各種の機器の情報処理のメカニズムを理解する上で大切である。本実習では、プログラミング言語として計測分野で広く利用されているLabVIEWを中心に学習する。具体的には、制御器・表示器・定数、数値変数・文字列変数・プール変数、配列、クラス、Forループ、Whileループ、ケースストラクチャ、シーケンスストラクチャなどを学習する。プログラムの作成、デバッグ、実行といった一連の流れを、豊富な例題と課題を用いて、実習を通して学習する。
		医療情報セキュリティ	医学・医療分野におけるデータやシステムについて、システムの仕組み、データの構造、データの暗号化を含めた管理技術などの基本を理解し、病院情報システムの基本構造とシステム構築技法などを学習する。また、個人的なセキュリティ対策にとどまらず、企業等組織のセキュリティ対策まで、情報セキュリティの全体像を把握できるようにし、ウイルス対策や個人情報の保護、さらに、認証技術、無線LANのセキュリティ技術などを学習する。
		医用工学概論	医用工学は、電気電子工学、機械工学、情報工学など広範な工学の分野と医学・生物学の境界領域の学問である。まず、医用工学の目指すところおよびその歴史について学習する。医用工学を学ぶ上で必要となる物理・化学・数学・工学の基礎を学習し、工学的なアプローチの生物・医学への応用について学習する。さらに、現代の医療で使用される計測・診断・機器の概要などを学ぶことにより、医用工学の全体像を体系的に把握し、その中での臨床工学の位置付けを理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生体計測機器学Ⅰ (基礎)	生体計測はさまざまな現象を計測対象としている。このような生体の計測装置を理解する基礎として、まず、単位と標準および測定の対象となる生体の物理的、化学的、力学的現象について学習する。次に、生体センサやトランスデューサなどの原理と構造、信号の増幅器の原理や回路構成について学習する。さらに、生体電気計測機器(心電計、脳波計、筋電計など)の原理、仕組み、得られるデータの特性、解析の方法などについて学習する。	
	生体計測機器学Ⅱ (発展)	いろいろな生体計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性について理解し、計測装置の適切な操作と維持管理ができることを目的として学習する。生体計測の基礎として超音波・レーザーの物理的性質、MRIの原理、X線CTの原理について学習する。さらに循環器系計測器(血圧、心拍出量、血管内血流測定装置)、呼吸器系計測器(呼吸モニタ)、神経系計測装置(誘発電位、近赤外分光法、fMRIなど)、臨床生化学分析装置(血液、尿など)の原理、構造、得られるデータの特性について学習する。	
	生体計測機器学実習	臨床において使用される生体計測装置の適切な操作と維持・管理ができることを目標として、生体センサの種類と検出特性、生体用増幅器の仕組みと増幅特性、心電計の構造と測定、血圧の意味と測定方法、筋電計の構造と測定、レーザーを利用した測定機器の構造と特徴、超音波ドップラー流速計による血流測定、超音波画像診断装置の操作、サーモグラフィによる体表面温度測定等の実習を行う。また、フーリエ解析など生体信号の解析法について実習を行う。	
	生体物性工学	臨床において使用される生体計測機器や治療機器の多くは、さまざまな物理エネルギーを生体に加えている。物理的エネルギーと生体とのかかわり合い(生体物性)を学習する。具体的には、生体物性の特徴と生体物質、生体の受動的電気特性、生体の能動的電気特性、電流の生体作用、電磁界と生体物性、生体の力学的静特性、生体の力学的動特性、生体の流体力学的特性、脈管系の生体物性、生体の音波・超音波に対する性質、生体の熱に対する性質、生体の光に対する性質、生体の放射線に対する性質、医用材料と生体物性などについて学習する。	
医用機器学	医用機器学概論	医用機器の全体像と臨床医療における医用機器の役割を学習する。具体的には、医用機器の歴史と発展、生体計測・監視用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、治療用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、生体機能代行補助機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用電子機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用機器で使用する電磁波、超音波、放射線、レーザーなどの人体への影響と適用原理、医用機器の事故事例と安全対策、医用機器適用時の倫理などについて学習する。	
	医用治療機器学Ⅰ (基礎)	医療現場ではさまざまな治療機器が用いられている。まず、治療機器の原理を理解するための物理工学的基礎(力学、電磁気学、光学など)を学習する。ついで、医療機器の適切な操作と維持管理ができることを目的として、電磁気治療器(電気メス、マイクロ波手術装置、心臓ペースメーカ、除細動器など)および機械的治療器(吸引器、輸液ポンプ、体外式結石破碎装置など)の原理・構造・操作法・治療のプロセスと評価法・安全管理などについて学習する。	
	医用治療機器学Ⅱ (発展)	医療現場で用いられるさまざまな治療機器の使用に当たり、安全で適切な操作と維持管理ができることを学習の目的とする。光・レーザーおよび超音波の物理工学的な基礎、組織の熱物性について学習する。さらに、内視鏡機器(内視鏡、内視鏡外科手術器など)、光・レーザー治療器(レーザー手術装置、光凝固装置など)、超音波治療器、熱治療器(冷凍手術器、ハイパーサーミア装置)の原理・操作法・治療のプロセスと評価法・安全管理などについて学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	医用機器学	医療の現場ではさまざまな医用治療機器が用いられている。これらの機器を安全な使用ならびに保守・点検ができることを目標に実習を行う。機器の動作原理と構造を理解した上で、電磁気治療器、機械的治療器、光・レーザー治療器、超音波治療器、熱治療器等について正しい操作法を修得するとともに、保守・点検法について実習を通して体得する。模擬血液を用いた自己血回収装置の操作原理の把握、肉片などを利用した電気メスの切開時の出力と波形観測による電気的特性の把握など実際の機器の操作・保守・点検を通じて理解を深める。	共同
	放射線概論	放射線は診断と治療に用いられる。放射線について理解し、安全な使用に関する知識を持つことは、臨床工学技士に必須である。放射線の物理・化学的性質、放射線に関する単位、放射線の生物学的作用・人体に対する影響について総合的に学習する。さらに、X線・γ線の応用機器、X線CT、核医学の臨床応用、放射線取り扱いに関する法令などについて学習し、診療放射線技師の仕事内容について理解を深める。また、医療現場での放射線の安全な取り扱い、事故の防止について学習する。	
	画像診断機器学	臨床に使われる画像診断装置の原理、構造、得られるデータについて理解することを目標とする。超音波診断装置の原理・構造および画像の特徴について学習する。エックス(X)線診断装置として透画像計測、X線CTの原理と測定法について学習する。核磁気共鳴画像計測(MRI)の原理と装置の構成、診断の特徴について学習する。さらに、ラジオアイソトープによる画像計測(SPECT、PET)の原理・装置・診断の特徴、内視鏡画像計測の原理と特徴について学習する。また、これらの機器の安全管理について学習する。	
	生体機能代行装置学Ⅰ(基礎)	生体機能代行装置である血液浄化装置、呼吸療法装置、体外循環装置などの原理を理解した上で、適切に操作するための基礎を学習する。まず、機能代行装置の臨床的意義について学習する。次に、各種代行装置の原理を理解するための基礎として、流体力学と血液循環・物質輸送、医療ガスの物性と気体力学、人工肺の物理・化学的基礎、熱力学について学習する。これらの基礎知識を修得した上で、生体機能代行装置の概要について専門基礎科目との関連を確認しながら学習する。	
	生体機能代行装置学Ⅱ(発展)	生体機能代行学Ⅰに引き続いて、血液浄化装置、呼吸療法装置、体外循環装置の原理について、より詳細に学習する。血液浄化装置の原理(体内不要物質、体内欠乏物質、拡散、限外濾過など)および血液浄化装置の種類(血液透析・濾過、血漿交換、腹膜透析など)、呼吸療法装置(酸素療法装置、吸入療法装置、人工呼吸器、高気圧治療装置)の原理と構造、体外循環装置(人工心肺、補助循環など)の原理と構造について学習する。これらの原理については定量的に扱えるよう学習し、治療効果の評価ならびに分析ができることを目標とする。	
	血液浄化装置学	人工透析に代表される血液浄化療法について、原理・適応疾患・装置構成・操作方法について総合的に学習する。まず血液浄化療法の目的と原理、血液浄化器の種類と構造について学習する。次に、血液浄化の実態を理解するために、血液浄化器の選択と適応疾患、透析液・補充液・抗凝固薬等の使用方法、治療の実態と患者管理について学習する。さらに、血液浄化施行時の安全管理、水処理装置・保守点検、事故対策等について実践的、総合的に学習する。	
	呼吸療法装置学	呼吸療法に関わる機器(人工呼吸器システム)と関連機器の原理・適応・装置・操作について総合的に学習する。まず呼吸療法の目的と原理および呼吸療法装置の種類と構造について学習する。呼吸療法の技術として、自発呼吸と人工呼吸、換気モード、開始基準、人工呼吸器の設定、患者状態の把握等について学習する。さらに、在宅呼吸管理(酸素療法、人工呼吸)、安全管理の手法(各機器の安全管理、日常・定期点検、消毒と洗浄など)について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生体機能代行技術学	体外循環装置学	生命維持管理装置の一つである体外循環装置（人工心肺装置、補助循環装置）と関連機器の原理・適応・操作について総合的に学習する。まず、血液ポンプ、人工肺、人工心肺の原理と構成について学習する。体外循環の病態生理（血液に対する影響、内分泌・免疫への影響、循環動態など）について学習し、さらに体外循環技術（人工心肺充填液、適正灌流法、モニタリング、心筋保護など）、補助循環法を学習する。また、体外循環時のトラブル対策、合併症など安全管理について学習する。
		生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	臨床工学技士の業務の中で主に取り扱う体外循環装置、呼吸療法装置、血液浄化装置について、その使用目的を理解した上で、各装置の構造を体験的に学習する。さらに適切で安全な操作法を実習する。グループに分かれて実際の装置を扱いながら実習を行なう。本科目では、各種生体機能代行装置における基本的操作法、各種設定パラメータと治療効果の関係、装置の動作原理、日常点検と定期点検などに主眼を置き、臨床使用を模擬した装置の動作から、装置の効果を体得する。
		生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	生体機能代行装置学実習Ⅰに引き続き、より臨床的・実践的な想定の下で実習を行う。各種代行装置における警報報知における対処法、緊急危険回避の方法、装置の自己診断機能、各種詳細な設定パラメータと治療効果の関係などについて、グループに別れて実際の装置を扱いながら実習を行う。さらに治療に付随するタスク（例えば血液透析なら「穿刺」など）を含め、一連の治療タスクも詳細に模擬し、臨床実習での習熟効果を高めることを目標とする。
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	臨床現場においては、医療機器の安全確保はきわめて重要な課題である。医療安全に関する知識と、安全を確保する要素技術について学習する。臨床工学技士と安全管理、リスクマネジメント、各種エネルギーの人体への危険性と安全基準、電気的安全性の測定、医療ガスの安全管理について学習する。さらに、ミス・事故の発生の事例研究、各種機器の安全性の確保、保守点検安全管理の法令等を総合的に学習し、医療機器システムとしての安全管理を理解する。
		医用機器安全管理学実習	医療機器や病院設備の安全性・信頼性は常に確保されていることが重要である。各種エネルギーの特性に関する実験、電気的安全性として漏れ電流の測定、医用接地方式とアイソレーションの確認方法、医療ガスの性質・取り扱い・安全管理の方法、高圧ガスの操作・管理・保安方法、消毒・滅菌の方法、衛生管理の方法、システム安全の技法などについて実習を行い、病院における医療機器と医療設備の安全管理手法だけでなく、医療機器設計における安全のための手法を体得する。
		関係法規	臨床工学技士として医療機器の安全管理を行う際に知っておくべき法令を学習する。臨床工学技士法を学習し、臨床工学技士基本業務指針を理解する。改正医療法ならびに改正薬事法を学習し、医療機器安全管理者としての役割を理解する。法医学法規概説、その他の関連法（医師法、薬事法、保健師助産師看護師法など）を学習し、関連医療業務に関する法規を理解する。また、製造物責任法（PL法）、医療機器に求められる清浄度について学習し、医療機器と医療事故防止について理解を深める。
医用安全	人間工学	医療では製造現場などに比較し、格段に多くの現場判断を余儀なくされる。単に知識や経験のみならず“人の特性”を理解し、それに配慮した作業設計や環境設計をしなければ、アクシデントにつながる。本科目は安全確保・作業設計・組織作りにおいて必要な人間工学の考え方・方法論・人的エラーの構造などの基礎について理解することを目的としている。人間工学的ものの見方によって視野を拡大し、論理的な問題解決能力（思考力）の基礎を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 管理工学 関連臨床医学	臨床人間工学	人間工学に続き、実際に臨床で起きている事例等について取り上げ、医療スタッフの作業環境を理解しながら対策立案の方法論について学ぶ。特に臨床工学技士の場合、医療機器関連の事例を取り扱うケースが多いため、装置操作における認知的検討方法・ユーザビリティ・医療機器の管理体制など、人間工学領域が扱う安全確保・作業設計・組織作りの3分野に関連する事例について、重大性の大きいものや、最新の管理技術などについて学習する。	
	臨床医学総論Ⅰ (外科、内科、感染症等)	臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識を学習する。外科学概論、内科学概論、感染症概論、呼吸器系の疾患と治療法、腎臓・泌尿器系の疾患と治療法などについて学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (110 坂本尚登/8回) 内科学概論(内科学的疾患へのアプローチ、症候と病態生理、全身性疾患の病態生理、応急・救急処置など)、腎臓・泌尿・生殖系(構造と機能、機能不全の概要、急性腎不全よ慢性腎不全、電解質異常、慢性腎臓病、腎の腫瘍、腎の奇形、感染症、結石症、末期腎不全原疾患と透析療法、透析療法と合併症)などについて学習する。  (111 片桐真人/4回) 呼吸器系(感染症、新生物、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、呼吸不全、肺循環疾患、その他の呼吸器疾患、治療と人工呼吸)などについて学習する。  (96 林俊治/2回) 感染症(薬剤耐性性と感受性、細菌の性質、グラム陽性/陰性・球菌/桿菌、芽胞、抗酸菌、真菌、ウイルス、原虫、寄生虫)などについて学習する。  (4 鈴木聡/1回) 14回の授業のまとめと学習した内容の演習を行う。	オムニバス
	臨床医学総論Ⅱ (腎臓泌尿器系、消化器系等)	臨床医学総論Ⅰに続き、臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識を学習する。腎臓・泌尿器系に関する疾患と治療法、消化器系に関する疾患と治療法、神経系に関する疾患と治療法、外科学概論などについて学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (97 佐口武史/9回) 消化器系疾患と治療、神経筋肉疾患、外科学手術概論、創傷治療、消毒・滅菌、患者管理、外傷・熱傷などについて学習し、まとめと演習を行う。  (98 片平泰弘/6回) 糖質代謝、脂質代謝、蛋白質、アミノ酸代謝、核酸代謝、骨代謝、その他の代謝異常、エネルギー代謝、無機物質等などについて学習し、まとめと演習を行う。	オムニバス
	臨床医学総論Ⅲ (麻酔科学、手術部医学)	臨床医学総論Ⅱに続き、臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識を学習する。血液・造血器に関する疾患と治療法、麻酔科学の概要、手術部医学の概要、循環器系の疾患と治療法、内分泌・代謝系の疾患と治療法などについて学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (98 片平泰弘/8回) 免疫のしくみ、免疫に関する疾患、移植免疫および輸血、造血器の構造と機能、赤血球系、白血球系、出血性素因などについて学習し、まとめと演習を行う。  (99 林正博/7回) 循環器系(血管病学、心臓病学)、内分泌・代謝系(内分泌疾患、代謝系疾患)などについて学習し、まとめと演習を行う。	オムニバス



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連臨床医学	臨床検査技師の役割と業務に関して、チーム医療の観点から学習する。一般臨床検査の概要、生体内の物質代謝など臨床検査の基礎を学習する。次に、病理検査の種類と方法（細胞組織の変化、病理組織作成方法、病理組織検査）、生理検査の種類と概要、検体検査の種類と概要について学習する。さらに、採血および検体の取り扱いに関する注意と安全確保、各種臨床検査用機器の原理・操作法、得られるデータなどについて学習し、臨床検査業務に関する理解を深める。	共同
	救急救命医学	臨床工学技士が関わる集中治療医学について学習する。集中治療医学の概要、救急医療、医療安全、感染症などについて学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (103 前村由美/8回) 麻酔（麻酔方法・麻酔薬・麻酔器、高齢者救急、小児救急、精神科救急）、集中治療（ICUの種類・設備、適応基準、患者管理、モニタリング、治療法・合併症・事故対策）、救急医療（救急医療体制、成人蘇生、新生児蘇生、トリアージ・脳死判定）などについて学習し、まとめと演習を行う。  (102 遠藤英子/3回) 医療安全（感染対策）について学習し、まとめと演習を行う。  (101 梶原千晶/4回) 微生物に関する基礎知識（感染症、耐性菌、抗菌薬、耐性機構、臨床上の問題）、滅菌・消毒（感染のメカニズムと器具・機材の消毒・滅菌法）などについて学習する。	オムニバス
専門科目	関連臨床医学	医療現場ではたらく他の専門職に対する理解を深め、チーム医療を構成する一員としての基本的姿勢を学習する。  (オムニバス方式/全15回)  (5 山家敏彦/4回) 医療機器安全管理責任者と他職種の関係、医師・看護師以外の職種と臨床工学技士の関わり、診療科別にみる臨床工学技士の役割、医師の指示とはどのようなものか、薬価・診療報酬・コスト意識の重要性、臨床工学総論などについて学習する。 (105 内田明子/1回) 看護師が求める臨床工学技士との関わりについて学習する。 (104 前田佳孝/1回) 医療職へのシミュレーション教育とチーム医療について学習する。 (10 木浦千夏子/2回) 医用機器安全管理とチーム医療、呼吸療法装置とチーム医療などについて学習する。 (11 渡邊晃広/2回) 医用治療機器とチーム医療、体外循環装置とチーム医療などについて学習する。 (4 鈴木聡/2回) 血液浄化装置とチーム医療、臨床における組織文化とかかわりなどについて学習する。 (6 渡邊紳一/1回) リハビリの基礎知識と機能回復などについて学習する。 (8 馬嶋正隆/1回) 医師と臨床工学技士の関わりについて学習する。 (12 西村宗修/1回) 基礎医学とチーム医療などについて学習する。	オムニバス
	臨床実習	臨床工学技士が行う主な業務について、臨床の現場で見学を中心にして、実際の知識や技術を体験的に修得する。生命維持管理装置などの医療機器が実際にどのように適用されているか、医療機器がどのように操作され、手術、患者管理等がどのように行われているか、医療機器の保守管理・安全点検がどのように行われているかを臨床工学技士の業務を体験することにより理解する。これらを通して、医療に携わる技士としての倫理観、使命感を涵養する。	

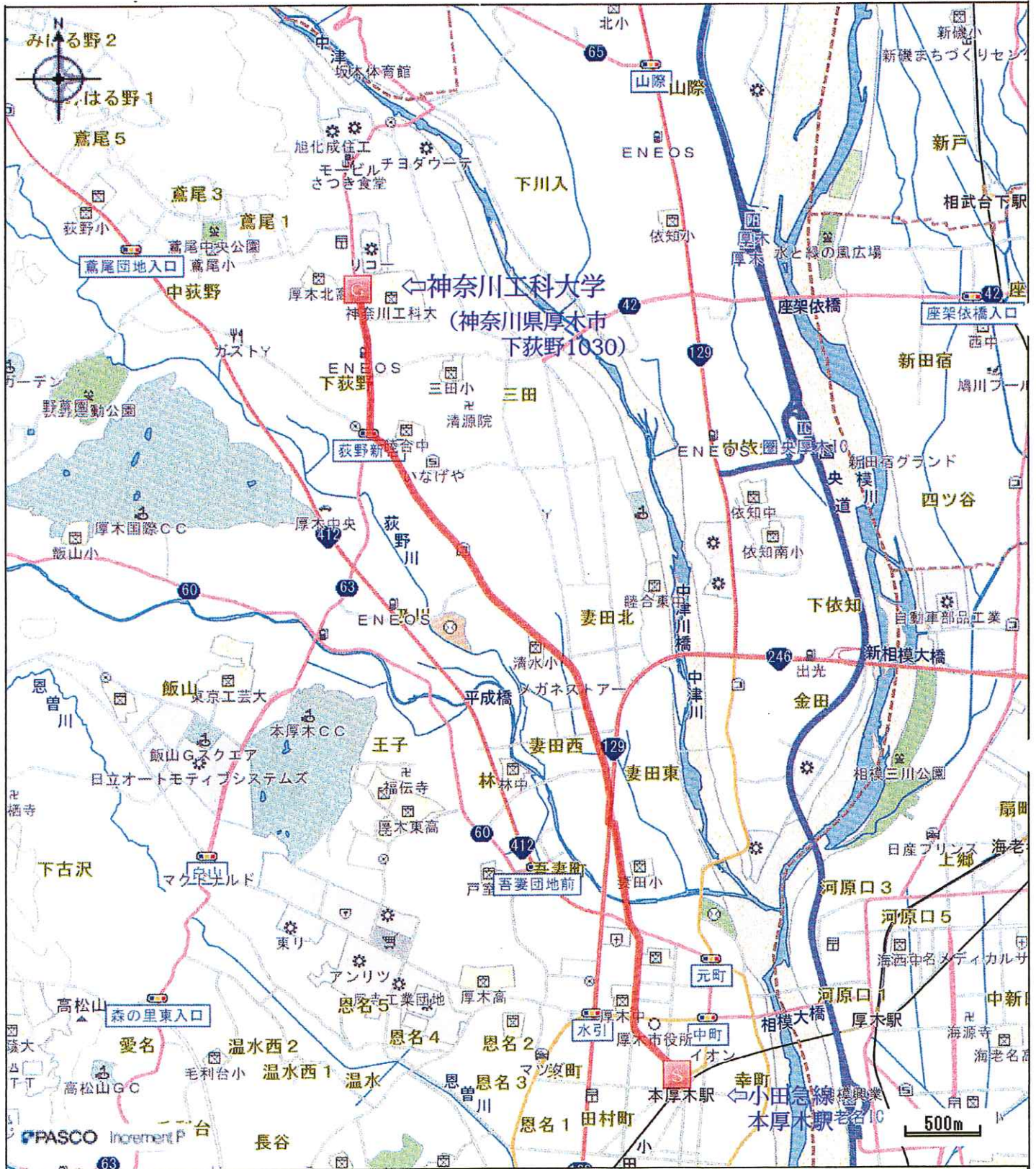
授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他	臨床工学セミナー	臨床工学や医療機器に関する最先端の知識や学際的な知識を広く学習することにより、医療人としての将来像の構築、研修・研究などの動機づけの一助とすることを目標とする。セミナー内容は毎年選択改訂し、外来講師も含めて講義を行う。現在進歩が著しく将来の発展が期待されている、内視鏡外科手術・ロボット手術の最近の動向について学習する。また、最新の診断技法（新しい画像診断法など）・治療法（生体機能代行装置、血管内治療法、重粒子線癌治療など）について学習する。	
	卒業研究	自主的かつ創造的に活動することにより、大学での勉強を総括するものである。臨床工学関連分野の調査・問題発見を自主的に行い、解決すべき研究テーマを設定する。テーマの現状分析を行い、担当教員の指導のもとに、必要な文献検索・実験・測定・分析・評価など、一連の研究計画を策定する。研究計画を随時見直しながら、測定・分析・評価・考察を行い、卒業論文として結果をまとめる。発表会において口頭で公表し、審査を受ける。	

学校法人 幾徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>神奈川工科大学</b>					<b>神奈川工科大学</b>				
<b>工学部</b>					<b>工学部</b>				
機械工学科	120	-	480		機械工学科	120	-	480	
電気電子情報工学科	78	-	296		電気電子情報工学科	78	-	296	
応用化学科	60	-	240		応用化学科	60	-	240	
臨床工学科	40	-	160		臨床工学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
<b>情報学部</b>					<b>情報学部</b>				
情報工学科	155	-	590		情報工学科	155	-	590	
情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390		情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390	
情報メディア学科	165	-	630		情報メディア学科	165	-	630	
<b>創造工学部</b>					<b>創造工学部</b>				
自動車システム 開発工学科	55	-	210		自動車システム 開発工学科	55	-	210	
ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180		ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180	
ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160		ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160	
<b>応用バイオ科学部</b>					<b>応用バイオ科学部</b>				
応用バイオ科学科	125	-	490		応用バイオ科学科	125	-	490	
栄養生命科学科	80	-	320		管理栄養学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
<b>看護学部</b>				⇒	<b>看護学部</b>				
看護学科	80	-	320		看護学科	80	-	320	
					臨床工学科	40	-	160	学科設置(届出)
					管理栄養学科	80	-	320	学科設置(届出)
<b>計</b>					<b>計</b>				
	1,148	-	4,466			1,148	-	4,466	
<b>神奈川工科大学大学院</b>					<b>神奈川工科大学大学院</b>				
<b>工学研究科 博士前期課程</b>					<b>工学研究科 博士前期課程</b>				
機械工学専攻	14	-	28		機械工学専攻	14	-	28	
電気電子工学専攻	16	-	32		電気電子工学専攻	16	-	32	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32		応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32	
機械システム工学専攻	14	-	28		機械システム工学専攻	14	-	28	
情報工学専攻	18	-	36		情報工学専攻	18	-	36	
ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12		ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12	
<b>計</b>					<b>計</b>				
	84	-	168			84	-	168	
<b>工学研究科 博士後期課程</b>					<b>工学研究科 博士後期課程</b>				
機械工学専攻	2	-	6		機械工学専攻	2	-	6	
電気電子工学専攻	2	-	6		電気電子工学専攻	2	-	6	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6		応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6	
機械システム工学専攻	2	-	6		機械システム工学専攻	2	-	6	
情報工学専攻	2	-	6		情報工学専攻	2	-	6	
<b>計</b>					<b>計</b>				
	10	-	30			10	-	30	



# 神奈川県厚木市 神奈川工科大学 校地位置関係図



# 神奈川工科大学学則

(昭和50年4月1日制定)

## 第1章 総 則

(設立の目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育成して文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。

(建学の理念)

第1条の2 本学は、広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて科学技術立国に寄与するとともに、教育・研究を通じて地域社会との連携強化に努める。

(教育目的と目標)

第1条の3 本学は、教育の目的・目標を「別表A」に定め、これを公表するものとする。

(人材の養成及び教育研究上の目的)

第1条の4 本学は、学部、学科、課程ごとの人材の養成及び教育研究上の目的を「別表B」にそれぞれ定め、これを公表するものとする。

第1条の5 (自己評価等)

本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

(学部・学科及び収容定員)

第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	120 名	480 名
	電気電子情報工学科	78 名	312 名
	応用化学科	60 名	240 名
情報学部	情報工学科	155 名	620 名
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100 名	400 名
	情報メディア学科	165 名	660 名
創造工学部	自動車システム開発工学科	55 名	220 名
	ロボット・メカトロニクス学科	50 名	200 名
	ホームエレクトロニクス開発学科	40 名	160 名
応用バ 材科学部	応用バ 材科学科	125 名	500 名
看護学部	看護学科	80 名	320 名
	管理栄養学科	80 名	320 名
	臨床工学科	40 名	160 名
計		1,148 名	4,592 名

2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。
- 第2条の2
2. 削除
  3. 削除

## 第2章 職員組織

(職員)

- 第3条 本学に次の職員を置く。

学長

教育職員（教授・准教授・講師・助教・助手及びその他の教員）

事務職員・技術職員等

2. 職員及びその職制に関する規則は別に定める。  
(学長)

- 第4条 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2. 学長のもとに副学長を置くことができる。
3. 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(教育職員の職務)

- 第5条 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2. 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
3. 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
4. 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
5. 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

(職員の事務分掌)

- 第6条 学長のもとに教学事項に関する事務を分掌するため、副学長、学部長、学科長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職センター委員長、自己評価委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工業教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長、系列総会会長、国際センター所長及び教職教育センター所長を置く。

2. 学長のもとに一般事項に関する事務を分掌するため事務局を置く。

## 第3章 教授会及び大学協議会

(教授会)

- 第7条 大学に教授会を置く。

2. 教授会は、専任教授をもって組織する。
3. 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

4. 教授会は、教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。
5. 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
  - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
  - (2) 学位の授与
  - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
6. 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
7. 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。  
(大学協議会)

- 第7条の2 本学に大学協議会を置く。
2. 大学協議会に関する規定は、別に定める。

#### 第4章 修業年限・学年・学期及び休日・休業日

(修業年限)

- 第8条 本学の修業年限は4年とする。
- (在学期間)
- 第9条 本学学生の在学期間は、通算して8年を超えることはできない。
- (学 年)
- 第10条 学年は4月1日より始まり3月31日に終わる。
- (学 期)
- 第11条 学年を分けて、次の2学期とする。
- (1)前期 4月1日から9月30日まで
  - (2)後期 10月1日から3月31日まで
2. 前項の規定にかかわらず、後期に属する授業科目は夏期休業終了後から始まる。
- (休 日)
- 第12条 休日は次のとおりとする。
- (1)日 曜 日
  - (2)国民の祝日に関する法律に規定する休日
  - (3)創立記念日 5月7日
2. 前項に定めた休日は都合により授業日にするところがある。
- (休 業 日)
- 第13条 休業日は次のとおりとする。
- (1)春期休業 3月21日から 4月7日まで
  - (2)夏期休業 7月21日から 9月15日まで
  - (3)冬期休業 12月21日から翌年1月10日まで
2. 前項に定めた休業日は都合により多少移動することがある。
3. 臨時休業については、その都度学長が定めるものとする。



## 第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

第14条 本学の授業科目の区分は、次に示す共通基盤教育、専門教育並びに教職及び学芸員に関する科目とする。

共通基盤教育：豊かな人間性と広い視野を養うとともに、総合的な判断力を養うための科目群。

専門教育：科学技術者としての基盤を培うための専門基礎導入科目、専門基礎科目並びにそれぞれの専門分野において有為な科学技術者を養成するための専門科目群。

(授業科目及び単位数)

第15条 授業科目の種類及び単位数は、別表第1から第4までのとおりとする。

(履修方法)

第16条 学生は、前条に定める授業科目及び別に定める「履修規程」に従い授業科目（以下「科目」という）を必修及び選択により履修しなければならない。

- 履修しようとする科目については、科目担当教員の承認を受けなければならない。（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第16条の2 学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。（大学以外の教育施設等における学修）

第16条の3 学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（平成3年度文部省告示第68号）を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。（入学前の既修得単位等の認定）

第16条の4 学生が入学前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 学生が入学前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。
- 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

(科目の単位)

第17条 各授業科目の単位数は、教授会において定めるものとする。

- 授業科目の単位数の算定に当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、原則として次

の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習、製図及び実技については、30時間から45時間までの範囲で必要と認められる時間の授業をもって1単位とする。

(4) 講義と演習を併用する科目については、講義10時間と演習10時間の授業をもって1単位とする。

3. 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して単位数を定めることができる。

(1年間の授業期間)

第17条の2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(修了認定の方法)

第18条 科目修了の認定は、平素の成績及び筆記試験又は論文等による。但し実験・実習・演習・製図・保健体育実技等は、平素の成績によって認定することができる。

(修了認定の資格)

第19条 各科目について、出席すべき時間数の3分の2以上に達しない者は、その科目の修了認定を受ける資格が与えられないものとする。

(修了認定の評価)

第20条 科目の成績は、秀・優・良・可・不可の5段階をもって表示し、不可は、未修了とする。

(成績評価基準等の明示)

第20条の2 本学の授業科目は、授業の方法及び内容並びに1年間の授業計画をあらかじめ明示するものとする。

2. 成績評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切におこなうものとする。

(教育職員の組織的研修等)

第20条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

## 第6章 卒業及び学位授与

(卒業)

第21条 本学に4年以上在学し、別表第5に規定する卒業要件を充足した者には、卒業証書を授与する。

(教員の免許状)

第22条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2. 本学の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第4の3に掲げるとおりとする。

(学位授与)

第 23 条 本学を卒業した者には、学科の分野により次の学位を授与する。

- (1) 学士 (工学)
- (2) 学士 (栄養学)
- (3) 学士 (看護学)

(特別課程に係る修了証明書の交付)

第 23 条の 2 本学は、文部科学大臣の定めるところにより、本学の学生以外を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

## 第 7 章 入学・転学・休学・復学・退学等

(入学の時期)

第 24 条 入学の時期は、毎学年の始めとする。

(入学の資格)

第 25 条 本学の第 1 年次に入学できるものは、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程 (昭和 26 年文部省令第 13 号) により文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の許可)

第 26 条 入学志願者に対しては、学力試験の結果及び出身学校長から送付された調査書等を資料として選考し、入学を許可する。但し、必要に応じて面接試験を行うことがある。

(入学手続)

第 27 条 入学の許可を得た者は、指定の期限内に所定の様式による保証人連署の誓約書、出身高等学校の卒業証明書、その他必要書類及び所定の入学納付金を提出しなければならない。

2. 前項の手続を指定の期限内に行なわなかった者については、入学許可を取り消す。

(保証人)

第 28 条 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で本人の身上に関する一切の責任を負い得る者でなければならない。

(学士入学)

第 29 条 本学を卒業し、さらに他の学科に入学を志願する者若しくは他の修学年限 4 年の大学を卒業し、さらに本学に入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限

り、選考の上、入学を許可することがある。

(再 入 学)

第 30 条 やむを得ない事由により、本学の学籍を離れた者で同一学科に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

(編 入 学)

第 31 条 第3年次又は2年次においては欠員ある場合は大学2年次又は1年次終了者、短期大学卒業生、高等専門学校卒業生、専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び学校教育法施行規則第92条の3で認められた入学志願者について試験を行い編入学を許可することがある。

2. 編入学の時期は、学年始めとし、本人の既修の授業科目単位数についてはその一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目、単位数を決定する。

(転部・転科)

第 32 条 在学中に転部又は転科を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転部又は転科を許可することがある。

(休 学)

第 33 条 病気その他やむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を保証人連署の上提出し、許可を受けなければならない。なお、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2. 休学の期間は1年を超えることはできない。但し、特別の事情があるときは、その期間の延長を許可することがある。なお、その場合通算して4年以上になってはならない。

3. 休学した期間は、これを在学期間に算入しない。

(復 学)

第 34 条 休学者はその理由が消滅したときは、その旨を保証人連署の上願い出で許可を受け、復学することができる。

(転 学)

第 35 条 在学者が他の大学に入学又は転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。但し、二重学籍については、これを認めない。

(退 学)

第 36 条 在学者が退学しようとするときは、その事由を詳記した願書を保証人連署の上願い出で、許可を受けなければならない。

(除 籍)

第 37 条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 在学期間が所定の年数を超える者
- (2) 納付金等を滞納し催告してもこれに応じない者

## 第8章 外国人留学生

(外国人留学生)

第 38 条 外国人で本学に留学を志願する者は、選考の上、入学を許可する。

## 第9章 研究生・科目等履修生・単位互換履修生・特別聴講学生

(研究生)

- 第 39 条 研究生は、本学教員の直接の助言指導を受け、特定の研究課題について研究するものとする。
2. 研究生として入学を志願できる者は次のとおりとする。
    - (1) 本学又は他の大学を卒業した者
    - (2) 大学卒業程度の学力があると認められた者
  3. 研究生として入学を志願する者は、研究しようとする事項を記載した入学願書に履歴書及び検定料を添えて願出しなければならない。また、入学願書には、指導教員の選定につき希望を記載するものとする。
  4. 研究生の在学期間は1年とする。但し、引続き在学を希望する者に対しては、さらに在学期間を延長することができる。
  5. 研究生は、指導教員及び科目担当教員の承認を得て講義、実験及び演習等に出席することができる。
  6. 研究生は、研究期間終了時に研究事項を記載した報告書を提出しなければならない。

(科目等履修生)

- 第 40 条 第25条に定める者で本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、一般の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2. 科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。
  3. 科目等履修生で、履修科目の試験に合格した者に対しては、単位を与える。

(単位互換履修生・特別聴講学生)

- 第 41 条 他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、単位互換履修生又は特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生等の規則)

- 第 42 条 特別の規定のない限り本学則の規程は、研究生、科目等履修生、単位互換履修生及び特別聴講学生にもこれを準用する。但し、第16条、第21条、第23条はこの限りでない。

## 第10章 入学検定料・学生納付金

(入学検定料・学生納付金)

- 第 43 条 入学検定料及び年間学生納付金の納入額は「別表第6」に定めるとおりとする。なお、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金は「別表第7」に定めるとおりとする。
2. 学生納付金等は、所定の期限までに、納入しなければならない。
  3. 学生納付金中授業料は、年額を2回に均等分割し納入するものとする。  
但し、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生は分納を認めない。
  4. 在学生に対しては、事情により授業料の全額又は一部免除を行うことがある。
  5. 転学又は退学した者は、その在籍した学期までの学生納付金を納入しなければならない。

- らない。
6. 休学した場合、その休学期間中における学籍管理料を納入しなければならない。
  7. 既に納付した納付金は、別に定めがある場合を除き、これを返還しない。

## 第11章 賞 罰

(表 彰)

第 44 条 在学生にして人物並びに学業優秀な者に対しては、これを表彰することがある。

(懲 戒)

第 45 条 本学所定の規則に違反し、秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者は懲戒処分とする。

2. 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

(懲戒による退学)

第 46 条 前条の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- (2) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (3) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当の理由がなくて出席が常でない者

## 第12章 学生の指導と課程外教育

(生活指導)

第 47 条 在学生の個人並びに集団の生活指導と課程外の教育を重視し、そのための諸機関を置く。

(健康管理)

第 48 条 在学生の健康管理のために健康管理室を置く。

## 第13章 研 究 所

(研 究 所)

第 49 条 本学に必要な応じて研究所を置くことができる。

2. 研究所に関する規程は、別に定める。

## 第14章 公開講座及び講習会等

(公開講座等)

第 50 条 本学は、文化の向上、成人教育その他の目的のために公開講座・講習会等を開設することができる。

- 附 則
1. この学則の実施に関する必要な細則は、別に「履修規程」等に定める。
  2. この学則は、昭和50年4月1日から施行する。
  3. この学則の改正は、昭和53年4月1日から施行する。
  4. この学則の改正は、昭和54年4月1日から施行する。
  5. この学則の改正は、昭和55年4月1日から施行する。
  6. この学則の改正は、昭和56年4月1日から施行する。
  7. この学則の改正は、昭和57年4月1日から施行する。

8. この学則の改正は、昭和58年4月1日から施行する。
9. この学則の改正は、昭和59年4月1日から施行する。
10. この学則の改正は、昭和60年4月1日から施行する。
11. この学則の改正は、昭和61年4月1日から施行する。但し、第2条の規定にかかわらず昭和62年度から平成6年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	180名
	電気工学科	180名
	工業化学工学科	170名
	機械システム工学科	100名
	情報工学科	100名
計		730名

12. この学則の改正は、昭和62年4月1日から施行する。
13. この学則の改正は、昭和63年4月1日から施行する。
14. この学則の改正は、平成元年4月1日から施行する。
15. 第2条及び附則11の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成2年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械システム工学科	130名
	情報工学科	130名

- この学則の改正は、平成2年4月1日から施行する。
16. この学則の改正は、平成3年4月1日から施行する。
  17. 第23条の改正は、平成4年3月1日から施行する。
  18. この学則の改正は、平成4年4月1日から施行する。
  19. この学則の改正は、平成5年4月1日から施行する。
  20. この学則の改正は、平成6年4月1日から施行する。
  21. 第2条及び附則11の定めにかかわらず、機械工学科、電気電子工学科及び工業化学工学科の入学定員については、引き続き平成7年度から平成11年度までの期間において次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	180名
	電気電子工学科	180名
	工業化学工学科	170名

この学則の改正は、平成7年4月1日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部電気工学科の名称は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第2、別表第3、別表第5及び附則21（入学定員に限る）の規定にかかわらず、平成7年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

22. 附則21に定める工業化学工学科の学科名称は、平成8年度から応用化学科とする。
23. この学則の改正は、平成8年4月1日から施行する。  
ただし、神奈川工科大学工学部工業化学工学科の名称は、改正後の学則第2条、

第22条第2項、別表第2、別表第3、別表第5及び附則22の規定にかかわらず、平成8年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

24. 第2条及び附則15の定めにかかわらず、情報工学科の入学定員については、平成9年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	情報工学科	190名

この学則の改正は、平成9年4月1日から施行する。

25. この学則の改正は、平成10年4月1日から施行する。
26. 第2条、附則11、附則15及び附則24の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成11年度に限り次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械システム工学科	130名
	情報工学科	190名

この学則の改正は、平成11年4月1日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部機械システム工学科の名称は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第2、別表第3、及び別表第5の規定にかかわらず、平成11年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

27. この学則の改正は、平成12年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成12年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	160名
	電気電子工学科	168名
	応用化学科	164名
	システムデザイン工学科	127名
	情報工学科	170名

28. この学則の改正は、平成13年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成13年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	160名
	電気電子工学科	166名
	応用化学科	163名
	システムデザイン工学科	124名
	情報工学科	215名

29. この学則の改正は、平成14年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成14年度の入学定員は次のとおりとする。



学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	1 5 0 名
	電気電子工学科	1 4 4 名
	応用化学科	1 5 2 名
	システムデザイン工学科	1 2 1 名

30. この学則の改正は、平成15年4月1日から施行する。  
ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成15年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	1 4 6 名
	電気電子工学科	1 4 2 名
	応用化学科	1 5 1 名
	システムデザイン工学科	1 1 7 名

なお、工学部情報工学科は、平成15年3月31日をもって廃止する。

また、平成15年3月31日に工学部情報工学科に在学し、平成15年4月1日に情報学部情報工学科に在学する者が、工学部情報工学科で修得した単位は、情報学部情報工学科で修得したものとみなす。

31. この学則の改正は、平成16年4月1日から施行する。  
なお、工学部情報ネットワーク工学科は、平成16年3月31日をもって廃止する。  
また、平成16年3月31日に工学部情報ネットワーク工学科に在学し、平成16年4月1日に情報学部情報ネットワーク工学科に在学する者が、工学部情報ネットワーク工学科で修得した単位は、情報学部情報ネットワーク工学科で修得したものとみなす。
32. この学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
33. この学則の改正は、平成18年4月1日から施行する。

なお、工学部システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、平成18年3月31日をもって廃止する。ただし、工学部電気電子工学科、システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第1、別表第2別表第3、及び別表第5の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

34. この学則の改正は、平成19年4月1日から施行する。
35. この学則の改正は、平成20年4月1日から施行する。  
なお、工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科は、平成20年3月31日をもって廃止する。また、平成20年3月31日に工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科に在学し、平成20年4月1日に創造工学部自動車システム開発工学科及びロボット・メカトロニクス学科並びに応用バイオ科学部応用バイオ科学科に在学する者が、工学部自動車システム開発工学科で修得した単位は、創造工学部自動車システム開発工学科で修得したものとみなし、工学部ロボット・メカトロニクス学科で修得した単位は、創造工学部ロボット・メカトロニクス学科で修得したものとみなし、工学部応用バイオ科学科で修得した単位は、応用バイ

オ科学部応用バイオ科学科で修得したものとみなす。

36. この学則の改正は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
37. この学則の改正は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
38. この学則の改正は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
39. この学則の改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
40. この学則の改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
41. この学則の改正は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
42. この学則の改正は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
43. この学則の改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
44. この学則の改正は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
45. この学則の改正は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
46. この学則の改正は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

なお、留学生別科の第 2 条の 2、第 2 条の 2 の 2、第 2 条の 2 の 3 を削除する。

特別課程に係る修了証明書の交付として第 23 条の 2 を追加する。

47. この学則の改正は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

なお、工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科を募集停止し、看護学部管理栄養学科、看護学部臨床工学科に改組する。

別表A「教育目的と教育目標」

『考え、行動する人材の育成』 —社会で活躍できる人づくり—

この教育目的を実現するために、以下の4項目を本学の教育目標とする。

- (1) 創造する力
- (2) 豊かな人間性
- (3) コミュニケーション能力
- (4) 基礎学力

別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」

【基礎・教養教育センター】

基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、バイオ系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。

【教職教育センター】

各学科が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教師の育成を目的とする。目標とする人材像は、社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を惹起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教師である。

【学芸員課程】

欧米では早くから学校教育や生涯教育の一環として、博物館を利用した教育が盛んに行われてきており、わが国においても近年この気運が特に高まってきている。博物館には人類の築いてきた文化遺産やその研究成果が、工芸品や古文書、標本といった主として「モノ」の形をとって所蔵・展示されているが、博物館の専門職として博物館法に定められた専門事項に加えて、科学や文化に深い理解と洞察を有する資質豊かな学芸員を育成することを目的とする。

【工学部】

機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○機械工学科

機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成

○応用化学科

応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成

### 【情報学部】

情報工学、情報ネットワーク、メディアコンテンツの各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題の解決、または新たな情報システムやメディアコンテンツの創作に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

#### ○情報工学科

システム・ソフトウェア技術を基軸とする高度な専門性ととも、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者の育成

#### ○情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報ネットワークの専門知識・技能を身につけ、それらを活用する力を持ち、社会で活躍できる技術者の育成

#### ○情報メディア学科

創造性豊かで探求心あふれ、また社会人としての社会的責任と倫理観を持ち、情報メディアとそれを利用するアプリケーションやコンテンツを創作できる人材の育成

### 【創造工学部】

自動車開発、ロボット・メカトロニクス、ホームエレクトロニクスの各分野に必要な基礎知識と専門知識・技術に加えて、システム化技術や社会・人間に関する幅広い知識を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

#### ○自動車システム開発工学科

自動車システム開発の基礎となる工学技術の知識・技能を身につけ、これらを活用して自動車および関連する産業界の発展に貢献できる技術者の育成

#### ○ロボット・メカトロニクス学科

ロボット・メカトロニクスの要素技術に加え、人間工学などの人を対象とした幅広い知識を身につけ、人々の生活を豊かにする次世代のロボットや生活支援機器を開発できる技術者およびロボット・メカトロニクスの知識を身につけた指導者の育成

#### ○ホームエレクトロニクス開発学科

電気電子工学と ICT 技術の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して社会に貢献できるものづくり技術者および電気電子工学と ICT 技術の基礎知識・技術を身につけた指導者の育成

### 【応用バイオ科学部】

バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

#### ○応用バイオ科学科

バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成

**【看護学部】**

健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成

○看護学科

看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成

○管理栄養学科

栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成

○臨床工学科

臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成



別表第1 (2020年度入学生)

外国語系科目

(△自由、一配当なし)

授業科目	必選別																		単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部			看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	A					
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
合計																			10				

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目

(○選択、一配当なし)

授業科目	必選別																		単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部			看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	A					
言語と文化 I	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2		
言語と文化 II	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2		
自己表現法 I	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3		
自己表現法 II	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3		
日本語・日本事情 I	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1		
日本語・日本事情 II	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1		
合計																			12				

(注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。

2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。

3. 但しC J コース生に読み替えはしない。

## 【略】

### 別表第2 専門教育（2020年度入学生）

- ・ 工学部 機械工学科・電気電子工学科・応用化学科
- ・ 情報学部 情報工学科・情報ネットワーク・コミュニケーション学科・情報メディア学科
- ・ 創造工学部 自動車システム開発工学科・ロボット・メカトロニクス学科  
ホームエレクトロニクス開発学科
- ・ 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
- ・ 看護学部 看護学科



別表第2 専門教育（2020年度入学生）  
看護学部 管理栄養学科

(◎必修、○選択)

教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次	
専門基礎導入	化学基礎	◎	2	1	
	化学基礎実験	◎	1	1	
	生物学概論Ⅰ	○	2	1	
	生物有機化学	○	2	1	
	生命科学概論	◎	2	1	
専門基礎	社会・環境と健康	栄養生命科学概論	◎	2	1
		健康管理論	◎	2	2
		公衆衛生学	◎	2	2
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
		解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
		解剖生理学実験	◎	1	2
		生化学Ⅰ	◎	2	1
		生化学実験Ⅰ	◎	1	1
		生化学Ⅱ	◎	2	2
		生化学実験Ⅱ	○	1	2
		微生物学	○	2	1
		微生物学実験	○	1	1
		病理病態学Ⅰ	○	2	2
	病理病態学Ⅱ	○	2	3	
	食べ物と健康	食品学Ⅰ	◎	2	1
		食品学実験Ⅰ	◎	1	1
		食品学Ⅱ	◎	2	2
		食品学実験Ⅱ	○	1	2
		食品衛生学	◎	2	2
		食品衛生学実験	◎	1	2
調理学		◎	2	1	
調理学実習Ⅰ		◎	1	1	
調理学実習Ⅱ		◎	1	1	
調理学実験	◎	1	2		
専門	基礎栄養学	基礎栄養学	◎	2	2
		基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
		応用栄養学Ⅱ	○	2	3
		応用栄養学Ⅲ	○	2	3
		応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
		栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
		栄養教育論Ⅲ	○	2	3
		栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
		栄養教育論実習Ⅱ	○	1	3
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
		臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
		臨床栄養学Ⅲ	○	2	3
		臨床栄養学Ⅳ	○	2	3
		臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
		臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2	
	公衆栄養学Ⅱ	○	2	3	
	公衆栄養学実習	◎	1	3	

別表第2 専門教育（2020年度入学生）  
看護学部 管理栄養学科

(◎必修、○選択)

教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次	
専門	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
		給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
		給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習・臨地実習	総合演習	○	2	3・4
		臨床栄養A臨地実習	○	3	4
		臨床栄養B臨地実習	○	2	4
		公衆栄養臨地実習	○	1	4
		給食経営臨地実習	○	1	3
		給食運営臨地実習	◎	1	3
	輪講		○	2	4
	卒業研究		◎	4	4
	専門発展科目	栄養サポートチーム(NST)論	○	2	3
		食品加工学	○	2	3
		食品工学	○	2	3
		食品官能評価論	○	2	3
		食品物性学	○	2	3
		食品分析学	○	2	3
		食品機能学	○	2	3
		管理栄養士基礎セミナー	○	2	2
		専門演習Ⅰ	○	1	4
		専門演習Ⅱ	○	1	4
	給食経営システム論	○	2	3	
	専門関連科目	分子栄養学	○	2	3
		臨床生化学	○	2	4
		Web技術入門	○	2	2
		画像情報処理	○	2	2
情報統計		○	2	3	
基礎栄養学概論		○	2	1	
プロジェクト科目	+α 資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅢ(家電)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅤ(食育)	○	2	3・4	
合計			143		
(Stop the CO <sub>2</sub> プログラム)					
Stop the CO <sub>2</sub> 入門 Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅠ Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅡ Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅢ Stop the CO <sub>2</sub> 最前線 環境と新エネルギー 新素材と省エネ技術		Stop the CO <sub>2</sub> プログラム 別表第3参照 (注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。			
(教職関連)					
学校栄養指導論 食育指導論		別表第4-2 参照 (注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。			

別表第2 専門教育(2020年度入学生)

看護学部 臨床工学科

(◎必修、○選択)

科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次	
専門基礎科目	人体の構造及び機能	医学概論	◎	2	1
		解剖学	◎	2	1
		基礎医学実習	◎	2	1
	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2	1
		生理学	◎	2	1
		病理学	◎	2	2
		生化学	◎	2	2
		免疫学	◎	2	2
		薬理学	◎	2	2
		看護学概論	◎	2	2
	理工学的基礎	電気工学Ⅰ(直流回路、交流回路)	◎	2	1
		電気工学Ⅱ(過渡現象、電磁気学)	◎	2	1
		電気工学実習	◎	1	1
		電子工学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		電子工学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		電子工学実習	◎	1	2
		医用電気電子工学実習	○	1	3
		機械工学	◎	2	1
		機械工学演習	◎	1	1
		材料工学	◎	2	2
		計測工学	◎	2	2
		応用数学	◎	2	1
		応用数学演習	◎	1	1
	医療情報工学の基礎と応用	医療統計学	○	1	2
		システム制御工学Ⅰ(基礎)	◎	2	3
		システム制御工学Ⅱ(発展)	◎	2	3
		システム制御工学実習	◎	1	3
		情報処理工学	◎	2	1
		情報処理工学実習	◎	1	1
医療情報セキュリティ		○	2	3	
専門科目	医用生体工学	医用工学概論	◎	2	1
		生体計測機器学Ⅰ(基礎)	◎	2	1
		生体計測機器学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		生体計測機器学実習	◎	2	2
		生体物性工学	◎	2	3
	医用機器学	医用機器学概論	◎	2	1
		医用治療機器学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		医用治療機器学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		医用治療機器学実習	◎	2	2
		放射線概論	○	2	3
		画像診断機器学	○	2	3
	生体機能代行装置学	生体機能代行装置学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		生体機能代行装置学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		血液浄化装置学	◎	2	2
		呼吸療法装置学	◎	2	3
		体外循環装置学	◎	2	3
		生体機能代行装置学実習Ⅰ(基礎)	◎	2	3
		生体機能代行装置学実習Ⅱ(発展)	◎	1	3
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3
		医用機器安全管理学実習	◎	2	3
		関係法規	◎	2	2
		人間工学	○	2	2
		臨床人間工学	○	2	3
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	◎	2	2
		臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	◎	2	3
		臨床医学総論Ⅲ(麻酔科学、手術部医学)	◎	2	3
		臨床検査概論	○	2	3
		救急救命医学	○	2	3
		チーム医療論	○	2	4
臨床実習	臨床実習	◎	4	4	
その他	臨床工学セミナー	○	2	4	
	卒業研究	◎	4	4	
合計			119		

別表第3 Stop the CO<sub>2</sub>プログラム(2020年度入学生)

- Mー工学部機械工学科 (MS クリエイティブエンジニアコース、MJ グローバルエンジニアコース、MF 航空宇宙学専攻)  
 Eー工学部電気電子情報工学科 (EA 実践的エンジニアコース、EB グローバルエンジニアコース、EC 電気工事・施工管理エキスパートコース)  
 Cー工学部応用化学科 (CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアコース)  
 Iー情報学部情報工学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)  
 Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)  
 Dー情報学部情報メディア学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)  
 Vー創造工学部自動車システム開発工学科  
 Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 (RS一般コース、RE-教員養成コース)  
 Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科 (HA一般コース、HS-健康スポーツコース、HE-教員養成コース)  
 Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科  
 Uー看護学部看護学科  
 Lー看護学部管理栄養学科  
 Aー看護学部臨床工学科  
 特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエータ  
 (○選択、△自由、一配当無し)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次		
	工学部								情報学部			創造工学部			看護学部					特別専攻	
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L				A
[Stop the CO <sub>2</sub> 専用科目群]																					
a群	Stop the CO <sub>2</sub> 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1
b群	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
c群	Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
[各学科提供StopTheCO <sub>2</sub> 関連科目群]																					
伝熱工学	[M科開講科目]																				
環境・エネルギー	[E科開講科目]																				
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																				
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																				
大気・水質環境	[C科開講科目]																				
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																				
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																				
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																				
微生物学	[B科開講科目]																				
生物工学	[B科開講科目]																				

- [Stop the CO<sub>2</sub>専用科目群・各学科提供StopTheCO<sub>2</sub>関連科目群] の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。
- Stop the CO<sub>2</sub>プログラムの科目から、15単位以上を修得した場合に修了証を交付する。  
 なお、a群からc群は、各群1科目以上合計9単位以上の修得を条件とする。

別表4の1 教職課程「教育の基礎的理解に関する科目等」配当表（2020年度入学生）

[2020年度入学生用]

(◎必修, □選択必修, - 配当無し)

科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別								単位数	標準年次
			中学校			高等学校				栄養教諭		
			数学	理科	技術	工業	数学	理科	情報			
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	学校と教育の歴史	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	◎	◎	◎	-	-	-	-	◎	2	3
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
	・特別活動の指導法	特別活動の指導法	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	2
		生徒指導と進路指導	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	2	2
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法											
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3	
教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習Ⅰ	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	2	4
		教育実習Ⅱ（事前事後指導1単位含）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	3	4
		栄養教育実習	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	3
	・教職実践演習	教職実践演習（中・高）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	2	4
		教職実践演習（栄養教諭）	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	4

## 【略】

別表4の2 教科及び強化の指導法に関する科目①～⑳(2020年度入学生)

- ・ 機械工学科 ①(中学/技術)、②(中学/数学)、③(高校/工業)、④(高校/数学)
- ・ 電機電子情報工学科 ⑤(中学/技術)、⑥(中学/数学)、⑦(高校/工業)、⑧(高校/数学)
- ・ 応用化学科 ⑨(高校/工業)、⑩(中学/理科)、⑪(高校/理科)
- ・ 情報工学科 ⑫(高校/工業)、⑬(高校/情報)
- ・ 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 ⑭(高校/工業)、⑮(高校/情報)
- ・ 情報メディア学科 ⑯(高校/工業)、⑰(高校/情報)
- ・ 自動車システム開発工学科 ⑱(高校/工業)
- ・ ロボット・メカトロニクス学科 ⑲(中学/技術)、⑳(高校/工業)
- ・ ホームエレクトロニクス開発学科 ㉑(中学/技術)、㉒(高校/工業)
- ・ 応用バイオ科学科 ㉓(中学/理科)、㉔(高校/理科)

別表4の2 栄養に係る教育に関する科目（2020年度入学生）

管理栄養学科(栄養教諭)

(◎必修)

免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次	
栄養に 係る教 育に関 する科 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項</li> <li>・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項</li> <li>・食生活に関する歴史的及び文化的事項</li> </ul>	学校栄養指導論	◎	2	2	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導の方法に関する事項</li> </ul>	食育指導論	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数: 栄養教諭一種 4単位						

別表第4の3 教員免許状の種類（2020年度入学生）

免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科		免許状の種類	免許教科	
工 学 部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技 術 数 学	
		高等学校教諭一種免許状	工 業 数 学	
	応用化学科	中学校教諭一種免許状	理 科	
		高等学校教諭一種免許状	工 業 理 科	
	情 報 学 部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工 業
				情 報
創 造 工 学 部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工 業	
	ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技 術	
		高等学校教諭一種免許状	工 業	
	ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技 術	
高等学校教諭一種免許状		工 業		
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状	理 科	
		高等学校教諭一種免許状	理 科	
看 護 学 部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状		



**【略】**

別表第4の4 学芸員課程に関する科目（2020年度入学生）

## 【略】

### 別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

- ・ 工学部 機械工学科
- ・ 工学部 電気電子情報工学科
- ・ 工学部 応用化学科
- ・ 情報学部 情報工学科
- ・ 情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
- ・ 情報学部 情報メディア学科
- ・ 創造工学部 自動車システム開発工学科
- ・ 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科
- ・ 創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科
- ・ 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
- ・ 看護学部 看護学科

別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

看護学部 管理栄養学科

教育区分		必選別	卒業必要 単位数	
共通基盤教育	導入系	必修	1	
	倫理系	必修	2	
	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）	選択	2	
	健康・スポーツ系	選択	1	
	英語基礎系	選択	4	
	言語応用系	選択	3	
	数理情報系	必修	6	
		(小計)	(27)	
専門教育		必修	64	
		選択	29	
			(小計)	(93)
任意			4	
合計			124	

\*注1

注1) 任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他  
 大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO<sub>2</sub>プログラム科目、自  
 由科目、教職に関する一部修得単位

別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

看護学部 臨床工学科

教育区分		必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系	必修	1	
	倫理系	必修	2	
	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系	選択	1	
	英語基礎系	選択	4	
	言語応用系	選択	3	
	数理情報系	選択	2	
		(小計)	(21)	
専門教育	専門基礎分野	人体の構造及び機能	必修	6
		医学的基礎	必修	14
		理工学的基礎	必修	20
		医療情報技術とシステム工学の基礎	必修	8
				(小計)
	専門分野	医用生体工学	必修	10
		医用機器学	必修	8
		生体機能代行技術学	必修	13
		医用安全管理学	必修	6
		関連臨床医学	必修	6
		臨床実習	必修	4
		その他	必修	4
				(小計)
			選択	4
	任意			12
合計			136	

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

卒業研究の単位を取得するためには、卒業研究と卒業判定試験の両方で一定水準以上の成績を収めなければならない。

別表第6 入学検定料・学生納付金（2020年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次	3年次	4年次
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学科				1年次	1,370,000円	1年次	1,570,000円
				2年次	1,390,000円	2年次	1,390,000円
				3年次	1,410,000円	3年次	1,410,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケ 情報メディア学科	① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	4年次	1,430,000円	4年次	1,430,000円	
創造工学部 自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学							
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科							

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次	3年次	4年次
看護学部 管理栄養学科			200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
				2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
				3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
看護学部 臨床工学科	① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次	1,660,000円	
			2年次	1,480,000円	2年次	1,480,000円	
			3年次	1,500,000円	3年次	1,500,000円	
			4年次	1,520,000円	4年次	1,520,000円	
看護学部 看護学科			200,000円	1年次	1,660,000円	1年次	1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次	1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次	1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次	1,720,000円

- (注) 1. この表の学生納付金は2020年度以降に入学する学生に適用する。但し、2019年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

【略】

別表第7 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金（2020年度入学生）

## 2020年度神奈川工科大学学則の一部変更

### 1. 変更事項及び変更理由

- (1) 第1条の4（人材の養成及び教育研究上の目的）の「別表B」を一部変更する。
- (2) 第2条（学部・学科及び収容定員）を一部変更する。
- (3) 第15条（授業科目及び単位数）の「別表第1」（共通基盤教育）、「別表第2」（専門教育・工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科）、「別表第3」（Stop the CO<sub>2</sub>プログラム）、「別表第4の2」（教職）、「別表第4の3」（教員免許状の種類）を一部変更する。
- (4) 第21条（卒業）の「別表第5」を一部変更する。
- (5) 第43条（入学検定料・学生納付金）の「別表第6」を一部変更する。

理由：工学部臨床工学科及び応用バイオ科学部栄養生命科学科の改組再編のため

### 2. 変更年月日

2020年4月1日

### 3. 新旧対照表

別添のとおり

以上

## 神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）											
(2020年度入学生)	(2019年度入学生)											
第1条の4	第1条の4											
別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」	別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」											
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="241 338 1115 375">前略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="241 375 1115 774"> <p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="241 774 1115 805">中略</th> </tr> <tr> <td data-bbox="241 805 1115 1061"> <p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1061 1115 1276"> <p><b>【看護学部】</b> 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○<b>管理栄養学科</b> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1276 1115 1412"> <p>○<b>臨床工学科</b> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p> </td> </tr> </tbody> </table>	前略	<p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p>	中略	<p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p>	<p><b>【看護学部】</b> 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○<b>管理栄養学科</b> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>	<p>○<b>臨床工学科</b> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="1120 338 1991 375">前略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1120 375 1991 774"> <p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="1120 774 1991 805">中略</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 805 1991 1061"> <p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 1061 1991 1412"> <p><b>【看護学部】</b> 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> </td> </tr> </tbody> </table>	前略	<p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>	中略	<p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>	<p><b>【看護学部】</b> 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p>
前略												
<p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p>												
中略												
<p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p>												
<p><b>【看護学部】</b> 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○<b>管理栄養学科</b> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>												
<p>○<b>臨床工学科</b> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>												
前略												
<p><b>【工学部】</b> 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>												
中略												
<p><b>【応用バイオ科学部】</b> バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>												
<p><b>【看護学部】</b> 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p>												

※下線の部分は変更箇所



## 神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）				現行（旧）			
(2020年度入学生)				(2019年度入学生)			
前略				前略			
(学部・学科及び収容定員)				(学部・学科及び収容定員)			
第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。				第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。			
学部	学 科	入学定員	収容定員	学部	学 科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	120名	480名	工学部	機械工学科	120名	480名
	電気電子情報工学科	78名	312名		電気電子情報工学科	78名	312名
	応用化学科	60名	240名		応用化学科	60名	240名
情報学部	情報工学科	155名	620名	情報学部	情報工学科	155名	620名
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100名	400名		情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100名	400名
	情報メディア学科	165名	660名		情報メディア学科	165名	660名
創造工学部	自動車システム開発工学科	55名	220名	創造工学部	自動車システム開発工学科	55名	220名
	ロボット・メカトロニクス学科	50名	200名		ロボット・メカトロニクス学科	50名	200名
	ホームエレクトロニクス開発学科	40名	160名		ホームエレクトロニクス開発学科	40名	160名
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	125名	500名	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	125名	500名
看護学部	看護学科	80名	320名	看護学部	看護学科	80名	320名
	管理栄養学科	80名	320名		管理栄養学科	80名	320名
	臨床工学科	40名	160名		臨床工学科	40名	160名
計		1,148名	4,592名	計		1,148名	4,592名
2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。				2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。			
以下省略				以下省略			
附 則 1. から 45. 省略				附 則 1. から 45. 省略			
46. この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。 なお、第2条の2、第2条の2の2、第2条の2の3の留学生別科を削除する。 特別課程に係る修了証明書の交付として第23条の2を追加する。				46. この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。 なお、第2条の2、第2条の2の2、第2条の2の3の留学生別科を削除する。 特別課程に係る修了証明書の交付として第23条の2を追加する。			
47. <u>この学則の改正は、2020年4月1日から施行する。</u> <u>なお、工学部臨床工学科、応用バイオ科学部管理栄養生命科学科を募集停止し、</u> <u>看護学部管理栄養学科、看護学部臨床工学科に改組する。</u>							



神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）

別表第1（2020年度入学生）

外国語系科目 (△自由、一配当なし)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L				△	
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
合計																		10				

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目 (○選択、一配当なし)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L				△	
言語と文化Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	2		
言語と文化Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	2		
自己表現法Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	3		
自己表現法Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	3		
日本語・日本事情Ⅰ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	1		
日本語・日本事情Ⅱ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	△	△	2	1		
合計																		12				

- (注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。  
 2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。  
 3. 但しC Jコース生に読み替えはしない。

現行（旧）

別表第1（2019年度入学生）

外国語系科目 (△自由、一配当なし)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	L	U					
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2		
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4		
合計																		10				

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目 (○選択、一配当なし)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次			
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部			特別専攻		
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	L	U					
言語と文化Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	2		
言語と文化Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	2		
自己表現法Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	3		
自己表現法Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	3		
日本語・日本事情Ⅰ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	1		
日本語・日本事情Ⅱ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	2	1		
合計																		12				

- (注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。  
 2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。  
 3. 但しC Jコース生に読み替えはしない。

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）					現行（旧）						
別表第2 専門教育（2020年度入学生） 看護学部 臨床工学科					別表第2 専門教育（2019年度入学生） 工学部 臨床工学科						
(◎必修、○選択)					(◎必修、○選択)						
科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次	科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次		
専門基礎科目	医学概論	◎	2	1	専門基礎科目	医学概論	◎	2	1		
	解剖学	◎	2	1		解剖学	◎	2	1		
	基礎医学実習	◎	2	1		基礎医学実習	◎	2	1		
	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2		1	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2	1
		生理学	◎	2		1		生理学	◎	2	1
		病理学	◎	2		2		病理学	◎	2	2
		生化学	◎	2		2		生化学	◎	2	2
		免疫学	◎	2		2		免疫学	◎	2	2
		薬理学	◎	2		2		薬理学	◎	2	2
		看護学概論	◎	2		2		看護学概論	◎	2	2
	理工学的基礎	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	◎	2		1	理工学的基礎	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	◎	2	1
		電気工学Ⅱ（過渡現象、電磁気学）	◎	2		1		電気工学Ⅱ（過渡現象、電磁気学）	◎	2	1
		電気工学実習	◎	1		1		電気工学実習	◎	1	1
		電子工学Ⅰ（基礎）	◎	2		2		電子工学Ⅰ（基礎）	◎	2	2
		電子工学Ⅱ（発展）	◎	2		2		電子工学Ⅱ（発展）	◎	2	2
		電子工学実習	◎	1		2		電子工学実習	◎	1	2
		医用電気電子工学実習	○	1		3		医用電気電子工学実習	○	1	3
		機械工学	◎	2		1		機械工学	◎	2	1
		機械工学演習	◎	1		1		機械工学演習	◎	1	1
		材料工学	◎	2		2		材料工学	◎	2	2
計測工学		◎	2	2	計測工学	◎		2	2		
応用数学	◎	2	1	応用数学	◎	2	1				
応用数学演習	◎	1	1	応用数学演習	◎	1	1				
システム情報技術の基礎	医療統計学	○	1	2	システム情報技術の基礎	医療統計学	○	1	2		
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	◎	2	3		システム制御工学Ⅰ（基礎）	◎	2	3		
	システム制御工学Ⅱ（発展）	◎	2	3		システム制御工学Ⅱ（発展）	◎	2	3		
	システム制御工学実習	◎	1	3		システム制御工学実習	◎	1	3		
	情報処理工学	◎	2	1		情報処理工学	◎	2	1		
情報処理工学実習	◎	1	1	情報処理工学実習	◎	1	1				
医療情報セキュリティ	○	2	3	医療情報セキュリティ	○	2	3				
専門科目	医用工学概論	◎	2	1	専門科目	医用工学概論	◎	2	1		
	生体計測機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	1		生体計測機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	1		
	生体計測機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2		生体計測機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2		
	生体計測機器学実習	◎	2	2		生体計測機器学実習	◎	2	2		
	生体物性工学	◎	2	3		生体物性工学	◎	2	3		
	医用機器学	医用機器学概論	◎	2		1	医用機器学	医用機器学概論	◎	2	1
		医用治療機器学Ⅰ（基礎）	◎	2		2		医用治療機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	2
		医用治療機器学Ⅱ（発展）	◎	2		2		医用治療機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2
		医用治療機器学実習	◎	2		2		医用治療機器学実習	◎	2	2
		放射線概論	○	2		3		放射線概論	○	2	3
	画像診断機器学	○	2	3		画像診断機器学	○	2	3		
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	◎	2		2	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	◎	2	2
		生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	◎	2		2		生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	◎	2	2
		血液浄化装置学	◎	2		2		血液浄化装置学	◎	2	2
		呼吸療法装置学	◎	2		3		呼吸療法装置学	◎	2	3
体外循環装置学		◎	2	3	体外循環装置学	◎		2	3		
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）		◎	2	3	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	◎		2	3		
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）		◎	1	3	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	◎		1	3		
医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3	医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3		
	医用機器安全管理学実習	◎	2	3		医用機器安全管理学実習	◎	2	3		
	関係法規	◎	2	2		関係法規	◎	2	2		
	人間工学	○	2	2		人間工学	○	2	2		
臨床人間工学	○	2	3	臨床人間工学	○	2	3				
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	◎	2	2	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	◎	2	2		
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	◎	2	3		臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	◎	2	3		
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）	◎	2	3		臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）	◎	2	3		
	臨床検査概論	○	2	3		臨床検査概論	○	2	3		
	救急救命医学	○	2	3		救急救命医学	○	2	3		
	チーム医療論	○	2	4		チーム医療論	○	2	4		
臨床実習	◎	4	4	臨床実習	◎	4	4				
その他	臨床工学セミナー	○	2	4	その他	臨床工学セミナー	○	2	4		
	卒業研究	◎	4	4		卒業研究	◎	4	4		
合計			119		合計			119			

※下線の部分は変更箇所

改正後（新）				
別表第2 専門教育（2020年度入学生） 看護学部 管理栄養学科				
教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	化学基礎	◎	2	1
	化学基礎実験	◎	1	1
	生物学概論	◎	2	1
	生物有機化学	◎	2	1
	生命科学概論	◎	2	1
	社会・環境と健康	◎	2	1
	健康管理論	◎	2	2
	公衆衛生学	◎	2	2
	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
	解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
専門基礎	解剖生理学実験	◎	1	2
	生化学Ⅰ	◎	2	1
	生化学実験Ⅰ	◎	1	1
	生化学Ⅱ	◎	2	2
	生化学実験Ⅱ	◎	1	2
	微生物学	◎	2	1
	微生物学実験	◎	1	1
	病理生理学Ⅰ	◎	2	2
	病理生理学Ⅱ	◎	2	3
	食品学Ⅰ	◎	2	1
専門基礎	食品学実験Ⅰ	◎	1	2
	食品学Ⅱ	◎	2	2
	食品学実験Ⅱ	◎	1	2
	食品衛生学	◎	2	2
	食品衛生学実験	◎	1	2
	調理学	◎	2	1
	調理学実習Ⅰ	◎	1	1
	調理学実習Ⅱ	◎	1	1
	調理学実験	◎	1	2
	基礎栄養学	◎	2	2
専門基礎	基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
	応用栄養学Ⅱ	◎	2	3
	応用栄養学Ⅲ	◎	2	3
	応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
	栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
	栄養教育論Ⅲ	◎	2	3
	栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
	栄養教育論実習Ⅱ	◎	1	3
専門基礎	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅲ	◎	2	3
	臨床栄養学Ⅳ	◎	2	3
	臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
	臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2
	公衆栄養学Ⅱ	◎	2	3
	公衆栄養学実習	◎	1	3
	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
専門基礎	給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
	給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習	◎	2	3・4
	臨床栄養A臨地実習	◎	3	4
	臨床栄養B臨地実習	◎	2	4
	公衆栄養臨地実習	◎	1	4
	給食経営臨地実習	◎	1	3
	給食運営臨地実習	◎	1	3
	輪講	◎	2	4
	卒業研究	◎	4	4
専門	栄養サポートチーム(NST)論	◎	2	3
	食品加工学	◎	2	3
	食品工学	◎	2	3
	食品官能評価論	◎	2	3
	食品物性学	◎	2	3
	食品分析学	◎	2	3
	食品機能学	◎	2	3
	管理栄養士基礎セミナー	◎	2	2
	専門演習Ⅰ	◎	1	4
	専門演習Ⅱ	◎	1	4
専門	給食経営システム論	◎	2	3
	分子栄養学	◎	2	3
	臨床生化学	◎	2	4
	Web技術入門	◎	2	2
	画像情報処理	◎	2	2
	情報統計	◎	2	3
	基礎栄養学概論	◎	2	1
	+α資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅢ(家庭)	◎	2	3・4
+α資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	◎	2	3・4	
+α資格取得プロジェクトⅤ(食育)	◎	2	3・4	
合計			143	
(Stop the CO <sub>2</sub> プログラム)				
Stop the CO <sub>2</sub> 入門				
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅠ				
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅡ	Stop the CO2プログラム			
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅢ	別表第3参照			
Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	(注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。			
環境と新エネルギー				
新素材と省エネ技術				
(教職関連)				
学校栄養指導論				
食育指導論	別表第4-2参照			
	(注1)卒業要件単位数には含まない。			
	(注2)教職課程登録者のみ履修可。			

現行（旧）				
別表第2 専門教育（2019年度入学生） 応用バイオ科学部 栄養生命科学科				
教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	化学基礎	◎	2	1
	化学基礎実験	◎	1	1
	生物学概論Ⅰ	◎	2	1
	生物有機化学	◎	2	1
	生命科学概論	◎	2	1
	社会・環境と健康	◎	2	1
	健康管理論	◎	2	2
	公衆衛生学	◎	2	2
	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
	解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
専門基礎	解剖生理学実験	◎	1	2
	生化学Ⅰ	◎	2	1
	生化学実験Ⅰ	◎	1	1
	生化学Ⅱ	◎	2	2
	生化学実験Ⅱ	◎	1	2
	微生物学	◎	2	1
	微生物学実験	◎	1	1
	病理生理学Ⅰ	◎	2	2
	病理生理学Ⅱ	◎	2	3
	食品学Ⅰ	◎	2	1
専門基礎	食品学実験Ⅰ	◎	1	2
	食品学Ⅱ	◎	2	2
	食品学実験Ⅱ	◎	1	2
	食品衛生学	◎	2	2
	食品衛生学実験	◎	1	2
	調理学	◎	2	1
	調理学実習Ⅰ	◎	1	1
	調理学実習Ⅱ	◎	1	1
	調理学実験	◎	1	2
	基礎栄養学	◎	2	2
専門基礎	基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
	応用栄養学Ⅱ	◎	2	3
	応用栄養学Ⅲ	◎	2	3
	応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
	栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
	栄養教育論Ⅲ	◎	2	3
	栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
	栄養教育論実習Ⅱ	◎	1	3
専門基礎	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅲ	◎	2	3
	臨床栄養学Ⅳ	◎	2	3
	臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
	臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2
	公衆栄養学Ⅱ	◎	2	3
	公衆栄養学実習	◎	1	3
	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
専門基礎	給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
	給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習	◎	2	3・4
	臨床栄養A臨地実習	◎	3	4
	臨床栄養B臨地実習	◎	2	4
	公衆栄養臨地実習	◎	1	4
	給食経営臨地実習	◎	1	3
	給食運営臨地実習	◎	1	3
	輪講	◎	2	4
	卒業研究	◎	4	4
専門	栄養サポートチーム(NST)論	◎	2	3
	食品加工学	◎	2	3
	食品工学	◎	2	3
	食品官能評価論	◎	2	3
	食品物性学	◎	2	3
	食品分析学	◎	2	3
	食品機能学	◎	2	3
	管理栄養士基礎セミナー	◎	2	2
	専門演習Ⅰ	◎	1	4
	専門演習Ⅱ	◎	1	4
専門	給食経営システム論	◎	2	3
	分子栄養学	◎	2	3
	臨床生化学	◎	2	4
	Web技術入門	◎	2	2
	画像情報処理	◎	2	2
	情報統計	◎	2	3
	基礎栄養学概論	◎	2	1
	+α資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅢ(家庭)	◎	2	3・4
+α資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	◎	2	3・4	
+α資格取得プロジェクトⅤ(食育)	◎	2	3・4	
合計			143	
(Stop the CO <sub>2</sub> プログラム)				
Stop the CO <sub>2</sub> 入門				
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅠ				
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅡ	Stop the CO2プログラム			
Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトⅢ	別表第3参照			
Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	(注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。			
環境と新エネルギー				
新素材と省エネ技術				
(教職関連)				
学校栄養指導論				
食育指導論	別表第4-2参照			
	(注1)卒業要件単位数には含まない。			
	(注2)教職課程登録者のみ履修可。			

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<p><b>別表第3 Stop the CO<sub>2</sub>プログラム（2020年度入学生）</b></p> <p>Mー工学部機械工学科（MS クリエイティブエンジニアリングコース、MJ グローバルエンジニアリングコース、MF 航空宇宙学専攻）            Eー工学部電気電子情報工学科（EA 実践的エンジニアリングコース、EB グローバルエンジニアリングコース、EC 電気主任技術者コース）            Cー工学部応用化学科（CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアリングコース）</p> <p>Iー情報学部情報工学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Dー情報学部情報メディア学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Vー創造工学部自動車システム開発工学科            Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科（RS一般コース、RE-教員養成コース）            Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科（HA一般コース、HS-健康福祉コース、HE-教員養成コース）            Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科</p> <p>Uー看護学部看護学科            Lー看護学部管理栄養学科            Aー看護学部臨床工学科</p> <p>特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター            （○選択、△自由、一配当無し）</p>	<p><b>別表第3 Stop the CO<sub>2</sub>プログラム（2019年度入学生）</b></p> <p>Mー工学部機械工学科（MS クリエイティブエンジニアリングコース、MJ グローバルエンジニアリングコース、MF 航空宇宙学専攻）            Eー工学部電気電子情報工学科（EA 実践的エンジニアリングコース、EB グローバルエンジニアリングコース、EC 電気主任技術者コース）            Cー工学部応用化学科（CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアリングコース）</p> <p><u>Aー工学部臨床工学科</u>            Iー情報学部情報工学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Dー情報学部情報メディア学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む）            Vー創造工学部自動車システム開発工学科            Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科（RS一般コース、RE-教員養成コース）            Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科（HA一般コース、HS-健康福祉コース、HE-教員養成コース）            Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科  <u>Lー応用バイオ科学部栄養生命科学科</u>            Uー看護学部看護学科</p> <p>特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター            （○選択、△自由、一配当無し）</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">授業科目</th> <th colspan="19">必選別</th> <th rowspan="3">単位数</th> <th rowspan="3">標準年次</th> </tr> <tr> <th colspan="9">工学部</th> <th colspan="10">情報学部</th> </tr> <tr> <th>MS</th><th>MJ</th><th>MF</th><th>EA</th><th>EB</th><th>EC</th><th>CA</th><th>CJ</th><th></th> <th>I</th><th>N</th><th>D</th><th>V</th><th>RS</th><th>H</th><th>B</th><th></th><th>U</th><th>L</th><th>A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="21">[Stop the CO<sub>2</sub>専用科目群]</td> </tr> <tr> <td>a群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>入門</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトI</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>1</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>b群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトII</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトIII</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>c群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>最前線</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境と新エネルギー</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新素材と省エネ技術</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="21">[各学科提供StopTheCO<sub>2</sub>関連科目群]</td> </tr> <tr> <td>伝熱工学</td> <td>[M科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境・エネルギー</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギーと電力システム制御</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境保全・エコロジー</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>大気・水質環境</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー化学入門J</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>自動車エンジン工学</td> <td>[V科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>スマートハウスとエネルギー管理</td> <td>[H科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>微生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1. [Stop the CO<sub>2</sub>専用科目群・各学科提供StopTheCO<sub>2</sub>関連科目群]の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。            2. Stop the CO<sub>2</sub>プログラムの科目から、11単位以上を修得した場合に修了証を交付する。            なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。</p>	授業科目	必選別																			単位数	標準年次	工学部									情報学部										MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ		I	N	D	V	RS	H	B		U	L	A	[Stop the CO <sub>2</sub> 専用科目群]																					a群	Stop the CO <sub>2</sub> 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1		Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	b群	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2		Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	c群	Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3		環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3		新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	[各学科提供StopTheCO <sub>2</sub> 関連科目群]																					伝熱工学	[M科開講科目]																						環境・エネルギー	[E科開講科目]																						エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																						環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																						大気・水質環境	[C科開講科目]																						エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																						自動車エンジン工学	[V科開講科目]																						スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																						微生物学	[B科開講科目]																						生物学	[B科開講科目]																						<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">授業科目</th> <th colspan="19">必選別</th> <th rowspan="3">単位数</th> <th rowspan="3">標準年次</th> </tr> <tr> <th colspan="9">工学部</th> <th colspan="10">情報学部</th> </tr> <tr> <th>MS</th><th>MJ</th><th>MF</th><th>EA</th><th>EB</th><th>EC</th><th>CA</th><th>CJ</th><th>A</th> <th>I</th><th>N</th><th>D</th><th>V</th><th>RS</th><th>H</th><th>B</th><th>L</th><th>U</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="21">[Stop the CO<sub>2</sub>専用科目群]</td> </tr> <tr> <td>a群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>入門</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトI</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>1</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>b群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトII</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>プロジェクトIII</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>c群</td> <td>Stop the CO<sub>2</sub>最前線</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境と新エネルギー</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新素材と省エネ技術</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="21">[各学科提供StopTheCO<sub>2</sub>関連科目群]</td> </tr> <tr> <td>伝熱工学</td> <td>[M科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境・エネルギー</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギーと電力システム制御</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境保全・エコロジー</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>大気・水質環境</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー化学入門J</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>自動車エンジン工学</td> <td>[V科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>スマートハウスとエネルギー管理</td> <td>[H科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>微生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1. [Stop the CO<sub>2</sub>専用科目群・各学科提供StopTheCO<sub>2</sub>関連科目群]の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。            2. Stop the CO<sub>2</sub>プログラムの科目から、11単位以上を修得した場合に修了証を交付する。            なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。</p>	授業科目	必選別																			単位数	標準年次	工学部									情報学部										MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	A	I	N	D	V	RS	H	B	L	U	[Stop the CO <sub>2</sub> 専用科目群]																					a群	Stop the CO <sub>2</sub> 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1		Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	b群	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2		Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	c群	Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3		環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3		新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	[各学科提供StopTheCO <sub>2</sub> 関連科目群]																					伝熱工学	[M科開講科目]																						環境・エネルギー	[E科開講科目]																						エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																						環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																						大気・水質環境	[C科開講科目]																						エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																						自動車エンジン工学	[V科開講科目]																						スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																						微生物学	[B科開講科目]																						生物学	[B科開講科目]																					
授業科目		必選別																					単位数	標準年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		工学部									情報学部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ		I	N	D	V	RS	H	B		U	L	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
[Stop the CO <sub>2</sub> 専用科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
a群	Stop the CO <sub>2</sub> 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
b群	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
c群	Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
[各学科提供StopTheCO <sub>2</sub> 関連科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
伝熱工学	[M科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
環境・エネルギー	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
大気・水質環境	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
微生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
授業科目	必選別																			単位数	標準年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	工学部									情報学部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	A	I	N	D	V	RS	H	B	L	U																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
[Stop the CO <sub>2</sub> 専用科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
a群	Stop the CO <sub>2</sub> 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
b群	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	Stop the CO <sub>2</sub> プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
c群	Stop the CO <sub>2</sub> 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
[各学科提供StopTheCO <sub>2</sub> 関連科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
伝熱工学	[M科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
環境・エネルギー	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
大気・水質環境	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
微生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
*下線の部分は変更箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）							現行（旧）						
別表4の2 栄養に係る教育に関する科目（2020年度入学生）							別表第4の2 栄養に係る教育に関する科目（2019年度入学生）						
管理栄養学科(栄養教諭)							栄養生命科学科(栄養教諭)						
(◎必修)							(◎必修)						
免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考	免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次		科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次	
栄養 に係る 教育に 関する 科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	学校栄養指導論	◎	2	2	◎	栄養 に係る 教育に 関する 科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	学校栄養指導論	◎	2	2	
	・食生活に関する歴史的及び文化的事項							・食生活に関する歴史的及び文化的事項					
	・食に関する指導の方法に関する事項	食育指導論	◎	2	3			・食に関する指導の方法に関する事項	食育指導論	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数:栄養教諭一種 4単位							教員免許状取得の必修単位数:栄養教諭一種 4単位						

※下線の部分は変更箇所

## 神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）			現行（旧）					
別表第4の3 教員免許状の種類（2020年度入学生）			別表第4の3 教員免許状の種類（2019年度入学生）					
免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科	免許状の種類	免許教科	免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科	免許状の種類	免許教科			
工学部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技術	工学部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技術	
		高等学校教諭一種免許状	数学			高等学校教諭一種免許状	数学	
	応用化学科		工業		応用化学科		工業	
		中学校教諭一種免許状	数学			中学校教諭一種免許状	理科	
	高等学校教諭一種免許状	理科	高等学校教諭一種免許状		工業			
	高等学校教諭一種免許状	理科	高等学校教諭一種免許状		理科			
情報学部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工業	情報学部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工業	
	自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科	高等学校教諭一種免許状	工業		創造工学部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
		中学校教諭一種免許状	技術			ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技術
高等学校教諭一種免許状	工業	高等学校教諭一種免許状	工業					
ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技術	ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技術			
	高等学校教諭一種免許状	工業	高等学校教諭一種免許状	工業				
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状	理科	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状	理科	
		高等学校教諭一種免許状	理科			高等学校教諭一種免許状	理科	
看護学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状	看護学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状			



## 神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）				現行（旧）					
別表第5（2020年度入学生）				別表第5（2019年度入学生）					
看護学部 臨床工学科				工学部 臨床工学科					
教育区分		必選別	卒業必要単位数	教育区分		必選別	卒業必要単位数		
共通基盤教育	導入系	必修	1	共通基盤教育	導入系	必修	1		
	倫理系	必修	2		倫理系	必修	2		
	人文社会系	a 群	選択		4	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択		2		b 群	選択	2
		c 群	選択		2		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系	選択	1		健康・スポーツ系	選択	1		
	英語基礎系	選択	4		英語基礎系	選択	4		
	言語応用系	選択	3		言語応用系	選択	3		
	教理情報系	選択	2		教理情報系	選択	2		
		(小計)	(21)			(小計)	(21)		
以下省略				以下省略					
看護学部 管理栄養学科				応用バイオ科学部 栄養生命科学科					
教育区分		必選別	卒業必要単位数	教育区分		必選別	卒業必要単位数		
共通基盤教育	導入系	必修	1	共通基盤教育	導入系	必修	1		
	倫理系	必修	2		倫理系	必修	2		
	人文社会系	a 群	選択		4	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択		2		b 群	選択	2
		c 群	選択		2		c 群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）	選択	2		倫理系、人文社会系（自由選択）	選択	2		
	健康・スポーツ系	選択	1		健康・スポーツ系	選択	1		
	英語基礎系	選択	4		英語基礎系	選択	4		
	言語応用系	選択	3		言語応用系	選択	3		
教理情報系	必修	6	教理情報系	必修	6				
		(小計)	(27)			(小計)	(27)		
以下省略				以下省略					

## 神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）

現行（旧）

別表第6（2020年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計
				1年次	2年次	
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学科		① 30,000円	200,000円	1年次	1,370,000円	1年次 1,570,000円
				2年次	1,390,000円	2年次 1,390,000円
				3年次	1,410,000円	3年次 1,410,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科		② 15,000円	200,000円	4年次	1,430,000円	4年次 1,430,000円
				1年次	1,470,000円	1年次 1,670,000円
				2年次	1,490,000円	2年次 1,490,000円
創造工学部 自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学科			200,000円	3年次	1,510,000円	3年次 1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次 1,530,000円
				1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科		① 30,000円	200,000円	2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
看護学部 管理栄養学科		② 15,000円	200,000円	1年次	1,660,000円	1年次 1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次 1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次 1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次 1,720,000円

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計
				1年次	2年次	
看護学部 管理栄養学科		① 30,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
				2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
看護学部 臨床工学科		② 15,000円	200,000円	1年次	1,660,000円	1年次 1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次 1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次 1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次 1,720,000円
看護学部 看護学科			200,000円	1年次	1,660,000円	1年次 1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次 1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次 1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次 1,720,000円

別表第6（2019年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計
				1年次	2年次	
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学科		① 30,000円	200,000円	1年次	1,370,000円	1年次 1,570,000円
				2年次	1,390,000円	2年次 1,390,000円
				3年次	1,410,000円	3年次 1,410,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科		② 15,000円	200,000円	4年次	1,430,000円	4年次 1,430,000円
				1年次	1,470,000円	1年次 1,670,000円
				2年次	1,490,000円	2年次 1,490,000円
創造工学部 自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学科			200,000円	3年次	1,510,000円	3年次 1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次 1,530,000円
				1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科		① 30,000円	200,000円	2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
看護学部 管理栄養学科		② 15,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
				2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
工学部 臨床工学科		① 30,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
				2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
看護学部 看護学科		② 15,000円	200,000円	1年次	1,660,000円	1年次 1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次 1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次 1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次 1,720,000円

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計
				1年次	2年次	
看護学部 管理栄養学科		① 30,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次 1,670,000円
				2年次	1,490,000円	2年次 1,490,000円
				3年次	1,510,000円	3年次 1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次 1,530,000円
工学部 臨床工学科		② 15,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次 1,660,000円
				2年次	1,480,000円	2年次 1,480,000円
				3年次	1,500,000円	3年次 1,500,000円
				4年次	1,520,000円	4年次 1,520,000円
看護学部 看護学科			200,000円	1年次	1,660,000円	1年次 1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次 1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次 1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次 1,720,000円

1. この表の学生納付金は2020年度以降に入学する学生に適用する。但し、2019年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

- (注) この表の学生納付金は2019年度以降に入学する学生に適用する。但し、2018年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

## 神奈川工科大学 教授会運営規程

- 第 1 条 教授会の運営については学則第 7 条に定めるもののほか本規程の定めるところによる。
- 第 2 条 教授会は教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。但し、長期病欠者及び公務出張者は、ここでの現在員に含まれないものとする。
- 第 3 条 教授会の議事は、出席構成員の過半数によって決し、賛否同数のときは議長の決するところによる。
- 第 4 条 教授会は原則として、月 1 回開くものとする。但し、学長が必要と認めた場合は、臨時に教授会を開くことができる。
- 第 5 条 本規程は、合同教授会を召集する場合に準用する。
- 第 6 条 本規程の改正は、学長が発議する。
- 附 則 1. 本規程は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。  
2. 本規程の改正は、平成 2 7 年 4 月 1 日から実施する。

## 学校法人 幾徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神奈川工科大学					神奈川工科大学				
工学部					工学部				
機械工学科	120	-	480		機械工学科	120	-	480	
電気電子情報工学科	78	-	296		電気電子情報工学科	78	-	296	
応用化学科	60	-	240		応用化学科	60	-	240	
臨床工学科	40	-	160			0	-	0	令和2年4月学生募集停止
情報学部					情報学部				
情報工学科	155	-	590		情報工学科	155	-	590	
情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390		情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390	
情報メディア学科	165	-	630		情報メディア学科	165	-	630	
創造工学部					創造工学部				
自動車システム 開発工学科	55	-	210		自動車システム 開発工学科	55	-	210	
ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180		ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180	
ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160		ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160	
応用バイオ科学部					応用バイオ科学部				
応用バイオ科学科	125	-	490		応用バイオ科学科	125	-	490	
栄養生命科学科	80	-	320			0	-	0	令和2年4月学生募集停止
看護学部				⇒	看護学部				
看護学科	80	-	320		看護学科	80	-	320	
					管理栄養学科	80	-	320	学科設置(届出)
					臨床工学科	40	-	160	学科設置(届出)
計	1,148	-	4,466		計	1,148	-	4,466	
神奈川工科大学大学院					神奈川工科大学大学院				
工学研究科 博士前期課程					工学研究科 博士前期課程				
機械工学専攻	14	-	28		機械工学専攻	14	-	28	
電気電子工学専攻	16	-	32		電気電子工学専攻	16	-	32	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32		応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32	
機械システム工学専攻	14	-	28		機械システム工学専攻	14	-	28	
情報工学専攻	18	-	36		情報工学専攻	18	-	36	
ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12		ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12	
計	84	-	168		計	84	-	168	
工学研究科 博士後期課程					工学研究科 博士後期課程				
機械工学専攻	2	-	6		機械工学専攻	2	-	6	
電気電子工学専攻	2	-	6		電気電子工学専攻	2	-	6	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6		応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6	
機械システム工学専攻	2	-	6		機械システム工学専攻	2	-	6	
情報工学専攻	2	-	6		情報工学専攻	2	-	6	
計	10	-	30		計	10	-	30	

## 進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

## □臨床工学技士の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、今後の臨床工学技士の採用見込みについて質問したところ、回答件数 73 件の約 72.60%にあたる 53 件が「増加すると思う」と回答していることから、病院や企業等における臨床工学技士の採用見込みの高さをうかがうことができる。

## 問1 臨床工学技士の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	53	72.60
2	増加すると思わない	19	26.03
	未回答・不明	1	1.37
	合計	73	100.00

## □臨床工学科の社会的な必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 73 件の約 93.15%にあたる 68 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性を認めている。

## 問2 臨床工学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	68	93.15
2	必要性を感じない	5	6.85
	未回答・不明	0	0.00
	合計	73	100.00

## □臨床工学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材について質問したところ、回答件数 73 件の約 89.04%にあたる 65 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材の必要性を認めている。

## 問3 臨床工学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	65	89.04
2	必要性を感じない	6	8.22
	未回答・不明	2	2.74
	合計	73	100.00

#### □臨床工学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 73 件の約 80.82%にあたる 59 件が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用に積極的な意向を示している。

##### 問 4 臨床工学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	59	80.82
2	採用したいと思わない	11	15.07
	未回答・不明	3	4.11
	合計	73	100.00

#### □臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問 4 で神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した病院や企業等のうち、「採用人数 1 人」と回答したのが 8 件、「採用人数 2 人」と回答したのが 6 件、「採用人数 3 人以上」と回答したのが 1 件となっている。

なお、「採用人数 3 人以上」と回答した 28 件の採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した 44 件の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 67 人となり、この採用人数からも神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

##### 問 4 × 問 5 卒業生の採用 × 卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	8	8
1*2	採用したいと思う/2人	6	12
1*3	採用したいと思う/3人以上	1	3
1*4	採用したいと思う/人数は未定	44	44
	未回答・不明	0	-
	合計	59	67

## 職員就業規則

### 第1章 総 則

（原 則）

第 1 条 この規則は職員の就業に関して労働基準法、その他法令および労働協約に定められるもののほかについて定めたものである。

（適用範囲）

第 2 条 この規則において職員とは、第7条に定められた手続きによって採用された期間の定めのない教育職員、事務職員およびその他の職員をいう。

2. 前項の事務職員には、准職位制度に基づく事務職員を含むものとする。ただし、別段の定めがあるときは、これを優先して適用する。

3. 期間の定めのある雇用により採用された職員が、一定の期間経過を含む法律上の条件等を具備することにより期間の定めのない雇用への転換が認められたときは、別段の定めがある場合を除き、同じく第1項を適用する。

### 第2章 服 務

（服 務 心 得）

第 3 条 職員はこの規則を遵守し、教育に携るものとしての自覚のもとにはつらつとした創意をもって、積極的に職務の推進に努めるものとする。

（服 務 基 準）

第 4 条 職員はつぎに掲げる行為をしてはならない。

- (1) 法人又は大学の名誉を毀損し、または職務上の機密をもらすこと。
- (2) 法人又は大学の職員としての品位を傷つけるような行為をすること。
- (3) 職場において、他の職員の勤務環境または学生の勉学環境が害されるような性的な言動をすること。
- (4) その他法人または大学の不利益になること。

（兼職の制限）

第 5 条 職員が法人または大学以外の職を兼ねようとするときは教育職員にあっては学長、

その他職員にあっては理事長の許可をあらかじめ得ることとする。

（掲示等の手続）

第 6 条 大学内において集会、演説、掲示その他これに類する行為をするときは、教育職員にあっては学長、その他職員にあっては担当理事の許可を事前に得ることとする。

### 第3章 人 事

（採 用）

第 7 条 職員は選考試験および身体検査に合格したものを採用する。

2. 前項の採用にあたっては、つぎのものを必要とする。

- (1) 履歴書（写真付）
- (2) 健康診断書

- (3) 卒業証明書または学業成績証明書
  - (4) その他法人または大学で指示した書類
  - 3. 第1項の採用は、原則として4月に行う。  
(試用期間)
- 第7条の2 新たに採用した職員については、採用日から6箇月間を試用期間とする。ただし、
- 法人が適当と認めるときは、この期間を短縮し、または、設けないことがある。
  - 2. 試用期間中に職員として不適格と認められた者は、解雇することがある。
  - 3. 試用期間が満了し本採用となるときは、辞令を交付して、その旨を明示する。
  - 4. 試用期間は、勤続期間、勤続年数に通算する。  
(辞令交付)
- 第8条 新たに採用した職員に対しては、辞令を交付して職務および給与その他の労働条件を明示する。  
(提出書類)
- 第9条 採用決定した職員は遅滞なく庶務課につきの書類を提出しなければならない。
- (1) 家族調書および現住所略図
  - (2) 年金保険被保険者証
  - (3) 雇用保険被保険者証
  - (4) 扶養申告書
  - (5) 源泉徴収票
  - (6) その他法人または大学で指示したもの。ただし第2号、第3号および第5号は前職歴のある者に限る。  
(変更の届出)
- 第10条 職員はつぎの各号に異動を生じたときは遅滞なく庶務課に届け出なければならない。
- (1) 本籍地および現住所
  - (2) 姓 名
  - (3) 学 歴 (学位)
  - (4) 通勤の方法、その他人事管理上必要な身上異動事項
  - 2. 前項の届け出を怠ることによって生ずる職員の不利益に対しては、法人および大学はその責を負わない。  
(異 動)
- 第11条 業務上その他の都合により、職員に勤務の配置転換、出向、職務の変更等を命ずることがある。
- 2 前項の異動を命ぜられたときは、正当な理由なしに、これを拒むことはできない。
  - 3. 第1項に定める出向については、別に定める職員出向規程による。(附帯規程第6条)

#### 第4章 休 職

(休 職)

- 第12条 職員がつぎの各号の一に該当するときは、休職を命ずる。ただし、特別の理由に



より法人が認めたときは別に考慮することがある。

- (1) 業務外の傷病により欠勤が引続き3箇月に及んだとき。
- (2) 私用のため欠勤が引続き1箇月に及んだとき。
- (3) 公職につき長期にわたり業務に支障があるとき。
- (4) 別に定める育児休業規程（附帯規程第4）、または介護休業規程（附帯規程第5）により業務に従事できないとき。
- (5) 出向を命じられたとき。
- (6) その他特別の事由があると認めたとき。

（休職期間）

- 第 13 条 前条による休職期間をつぎのとおりとする。
- (1) 業務外の傷病の場合は2箇年間。ただし、結核性患者の場合は事情によりこれを延期することがある。
  - (2) 私用のため欠勤したときは1箇月間。
  - (3) 前条第3号乃至第6号の場合はその都度定める期間。
2. 前項に定める期間中であっても、休職の原因となる事由が消滅したときは休職を解くものとする。
3. 休職期間中の給与については別に定める給与規程による。

（勤続年数）

- 第 14 条 休職期間は勤続年数に算入しない。

## 第5章 解職・退職・定年

（解 職）

- 第 15 条 職員がつぎの各号の一に該当するときは、その30日前に予告するか、又は30日分の平均賃金を支給して解職する。
- (1) 休職期間満了後復職しないとき。
  - (2) 職員としての適格性を欠くとき。
  - (3) 勤務状態、勤務実績がよくない場合
  - (4) その他前各号に準ずる事由のあるとき。

（解職猶予期間）

- 第 16 条 前条の規定にかかわらずつぎの期間は解職しない。
- 日
- (1) 業務上負傷、または疾病にかかり療養のため休業する期間およびその後30日間。
  - (2) 6週間（多胎妊娠の場合は14週間）以内に出産する予定の女子職員が休暇を
- 請求した場合、その期間および産後8週間とその後30日間。

（退 職）

- 第 17 条 職員が退職を希望するときは、書面をもって退職の30日前までに退職願を理事長
- に提出しなければならない。
2. 前項により退職をする者はその業務につき引継書を作成し、後任者を所属長に引

継がなければならない。

3. 職員が法人の理事に就任するときは、就任の前日までに職員を退職しなければならない。ただし、特段の理由により、理事長が許可したときはこの限りでない。

(定 年)

第 18 条 職員の定年は、つぎのとおりとする。

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| (1)教授、准教授、専任講師       | 満 6 5 歳 |
| (2)助教、助手             | 満 6 0 歳 |
| (3)事務職員（部長・担当部長）     | 満 6 3 歳 |
| (4)第 1 号乃至第 3 号以外の職員 | 満 6 0 歳 |

2. 満年齢は、誕生日の前日とする。

3. 第 1 項の規定に該当した職員は、その日の属する年度末をもって解職する。

(使用証明)

第 19 条 解職された者が、法人または大学における使用期間、業務の種類、地位、給与および退職の事由について証明書を請求したときは、法人または大学は遅滞なくこれを交付する。

(定年退職後の再雇用制度)

第19条の2 法人は、定年退職後も本人が勤務の継続を希望し、かつ、定年退職日において一定の基準を満たす職員について、再雇用を行う。

2. 定年退職後の再雇用については、別に定める定年退職者再雇用規程による。（附帯規程第7）

(事務職員管理者職位定年制)

第19条の3 法人は、事務職員の管理者について、人事の円滑化を促進するとともに、若手職員

の登用による組織の活性化および組織の競争力強化を図ることを目的として、管理者職位（役職）定年制を実施する。

2. 管理者職位定年制については、別に定める「管理者職位定年制に関する規程」による。

## 第 6 章 表彰・懲戒

(表 彰)

第 20 条 職員がつぎの各号の一に該当するときは、選考のうえで表彰する。

- (1) 永年誠実に勤務したとき。
- (2) 善行があり職員の模範となるとき。
- (3) 災害を未然に防止し、また非常の際特に功労のあったとき。
- (4) 社会的功績があり法人または大学の名誉となる行為のあったとき。
- (5) その他褒賞に値すると認めるとき。

(表彰方法)

第 21 条 表彰は賞状を授与して法人がこれを行う。賞状には副賞として賞品、賞金、昇格または特別休暇を付することがある。

(懲 戒)

第 22 条 懲戒処分は、譴責、減給、出勤停止、諭旨解雇および懲戒解雇とする。

- (1) 譴責は始末書を取り将来を戒める。
- (2) 減給は始末書を取り、1回について平均賃金の1日分の半額の減給を行う。ただし、その総額が当該支払期間の総収入の10分の1を超えることはない。

い。

- (3) 出勤停止は、始末書を取り、7日以内出勤を停止しこれを欠勤として取扱

い、

当該期間の賃金を支払わない。

- (4) 諭旨解雇は退職を勧告し、退職願を提出させてこれを行う。ただし、これに応じない場合は、第5号による。
- (5) 懲戒解雇は予告期間を設けないで行う。ただし、この場合行政官庁の認定を受けるものとする。

(減給事由)

第23条 職員がつぎの各号の一に該当するときは、減給に処する。ただし、情状により譴責に止めることがある。

- (1) 本就業規則に違反したとき。
- (2) 責務を尽さず業務に支障を生ぜしめたとき。
- (3) 正当な事由なしにしばしば遅刻、早退、欠勤したとき。
- (4) その他前各号に準ずる行為があったとき。

(懲戒解雇事由)

第24条 職員がつぎの各号の一に該当するときは、懲戒解雇する。ただし、情状により減給、出勤停止、または諭旨解雇に止めることがある。

- (1) 重要な経歴を詐り、その他不正な方法を用いて雇入れられたとき。
- (2) 無届欠勤14日以上に及んだとき。
- (3) 第5条に違反したとき。
- (4) 職務上の地位を利用し、私利をはかるため学外より金品、その他利益を受取りまたは与えたとき。
- (5) 職務上の機密を漏し、または漏らそうとしたとき。
- (6) 正当な理由なく、しばしば職務上の指示・命令に従わなかったとき。
- (7) 故意または重大な過失により法人または大学に重大な損害を与えたとき。
- (8) 法人または大学内外において刑法その他刑罰法規の各規定に違反する行為を行い、その犯罪事実が明らかとなったとき（当該行為が軽微な違反である場合を除く）。
- (9) 素行不良により著しく法人または大学内の秩序または風紀を乱したとき。
- (10) 数回にわたり懲戒を受けたにもかかわらず勤務態度等に関し改善の見込みがないと認められたとき。
- (11) 各種ハラスメントにより、教職員または学生に対してつぎのような事態を招いたとき。

①円滑な職務遂行を妨げまたは職場環境を悪化させたとき。

②勉学環境を害しまたは退学を招くなど学習の妨げとなる不利益を与えたとき。

き。

③重大な精神的苦痛等を与えたことにより健康上の障害を生じさせたとき。

(12) 私生活上の非違行為、法人または大学に対する誹謗中傷等により、法人または大学の名誉・信用を傷つけ職務に重大な悪影響を及ぼす行為があったと認められるとき。

(13) その他前各号に準ずる行為があったとき。

(懲戒方法)

第 25 条 前条の懲戒は、職員の代表を含む審議機関の議を経て法人がこれを行う。

(法人の求償権)

第 26 条 法人は本章の規定による処分を行うほか、その被った損害の全部または一部を賠償させることがある。

## 第7章 勤 務

(出 退 勤)

第 27 条 職員は、出退勤の際、自ら所定の方法により、出退勤時刻を打刻しなければならない。

(就 業 時 間)

第 28 条 職員の就業時間は原則として実働7時間10分とし、午前9時始業、午後5時終業とする。ただし、運営上必要ある場合は始業または終業時間を変更することができる。

2. 前項の定めにかかわらず、1箇月以内の一定の期間を平均し1週間当たりの就業時間が40時間を越えない範囲で、特定された週に40時間または特定された日に8時間を超えて労働させることができる。

(休 憩 時 間)

第 29 条 職員の休憩時間は、つぎのとおりとする。ただし、運営上必要ある場合は休憩時間を変更することができる。

(1) 教育職員は、講義間隔時および昼食時を按配して合計50分間とする。

(2) 教育にかかわるその他の職員は、前号に準ずる。

(3) (1)、(2)号以外の職員は、11時40分から50分間とする。ただし、受付係については12時30分から50分間とする。

2. 職員は休憩時間を自由に利用することができる。

(育 児 時 間)

第 30 条 生後1歳に達しない生児を育てる職員は、1日2回、各々少なくとも30分の育児時間をうけることができる。

(出 張)

第 31 条 業務、研究のため、出張または学外において勤務する時は、事前に教育職員にあっては学長、その他職員にあっては担当理事の承認を得なければならない。ただし、海外出張の場合には事前に理事長の承認を得なければならない。

(欠勤、遅刻、早退、私用外出)

第 32 条 病気、その他やむを得ない事由によって欠勤または遅刻、早退、私用外出をしようとするときは、教育職員にあっては学長、その他の職員にあっては担当理事に届

け出なければならない。

2. 病気欠勤が引継ぎ7日以上に及ぶ場合は、前項の届け出に医師の診断書をそえなければならない。

(休日)

第 33 条 休日をつぎのとおり定める。ただし、業務の都合により他の日と振替えることがある。

- (1) 毎日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 毎土曜日
- (4) 創立記念日（5月7日）
- (5) 年末年始（12月28日より1月5日まで）
- (6) 夏季休業中の休暇

- ① 7月21日から9月15日までの20労働日

ただし、この期間内において必要あれば一斉休暇期間を定めることができる。

- ② ①の定めにかかわらず、業務の都合により休暇中に出勤を命ずることがある。

(年次有給休暇)

第 34 条 職員は1年間につぎの年次有給休暇をうけることができる。

- (1) 当年度採用された者

- ① 勤続6箇月未満の者 2箇月に 1日
- ② 勤続6箇月以上の者 10日

(ただし、勤続6箇月未満のうちに取得した日数は除く。)

- (2) 勤続年数1年以上4年未満の者 15日
- (3) 勤続年数4年以上6年未満の者 18日
- (4) 勤続年数6年以上の者 20日

2. 休暇の日数算定の基礎となる勤続年数は、毎年4月1日現在で満年計算する。
3. この休暇は前年度において全勤務日数の8割以上出勤した者に与える。ただし、別に定める育児休業規程により休職した者の取扱いについては、育児休業期間を出勤したもののみならず。
4. 休暇は請求する時期に与える。ただし、業務上支障がある場合には他の時期に与え、または分割して与えることがある。
5. 当該年度の休暇の残日数は、翌年度に限り繰越すことができる。
6. 前項の繰越分がある場合は、繰越分より与えるものとする。
7. 欠勤はこの休暇と振替えることができる。
8. 第1項の休暇を請求するときは、事前に教育職員にあっては学長、その他職員にあっては担当理事に届け出なければならない。

(慶弔休暇)

第 35 条 職員はつぎの場合慶弔休暇をうけることができる。ただし、いずれも必要なる旅程日数を加える。

- (1) 本人結婚のとき 5日

- (2) 配偶者出産のとき 2日
- (3) 服喪のとき
  - ① 父母、配偶者または子 7日
  - ② 祖父母、兄弟姉妹、配偶者の父母 3日  
(養子の場合実父母を含む。)
  - ③ ①及び②に該当しない3親等以内の親族 1日

2. 前項の休暇を請求するときは、事前または事後遅滞なく教育職員にあつては学長、

その他職員にあつては担当理事に届け出なければならない。

(生理日の就業が著しく困難な女子職員に対する取扱)

第 36 条 生理日の就業が著しく困難な女子職員が休暇を請求したときは、生理日に就業させない。ただし、教育職員にあつては学長、その他職員にあつては担当理事に届け出なければならない。

(特別休暇)

第 37 条 職員はつぎの期間、特別休暇をうけることができる。

- (1) 職務上の負傷、疾病の場合のその期間
- (2) 女子職員の産前6週間(多胎妊娠14週間)、産後8週間
- (3) 公民権の行使、または公の職務執行の期間
- (4) 天災地変その他職員の責に帰すことができない事由によって就業できない場合、法人が認めた期間
- (5) 伝染病予防法適用区域内に居住する者の隔離期間
- (6) その他前各号に準じ法人の認めた場合、その期間

2. 前項第2号および第3号の請求をする場合、教育職員にあつては学長、その他職員にあつては担当理事に届け出なければならない。

## 第8章 時間外労働・休日労働・深夜業

(時間外および休日労働)

第 38 条 業務上その他やむを得ない場合には、職員の代表と協定して労働時間を延長し、または第33条の休日に労働させることがある。

2. 休日に勤務した場合には、原則として振替日を与える。

(時間外労働等の特例)

第 39 条 妊娠中の女子職員が請求した場合、前条第1項の規定にかかわらず、時間外労働、

深夜業または休日労働をさせない。

2. 別に定める育児休業規程または介護休業規程により、子の養育または家族の介護を行う職員が請求した場合も、前項と同様の取扱いとする。ただし、業務の正常な運営を妨げるときはこの限りでない。

(時間外、休日、深夜手当)

第 40 条 前2条の規程により、労働時間を延長し、もしくは休日に労働したときまたは深夜(22時から5時まで)に労働したときは、その時間またはその日の労働に対し

給

与規程の定めるところにより手当を支給する。ただし、休日を他の労働日に振替えたときはこの限りでない。

## 第9章 給与・退職金・旅費

(給与規程)

第 41 条 職員の給与については、別に定める職員給与規程による。(附帯規程第1)

(退職金規程)

第 42 条 職員の退職金については、別に定める職員退職金規程による。(附帯規程第2)

(旅費規程)

第 43 条 職員の旅費については、別に定める職員旅費規程による。(附帯規程第3)

## 第10章 安全・衛生

(遵守事項)

第 44 条 職員は、労働安全衛生法によるほか、特につぎの事項を遵守し、職場の安全ならびに衛生に努めなければならない。

- (1) 所定の危害防止設備は取りはずしをしないこと。
- (2) 爆発性、発火性、引火性の物品ならびに電気、ガスその他エネルギーに対する取扱いについては、細心の注意をすること。
- (3) 担当係員以外の者は、原動機の始動または停止をしないこと。
- (4) 作業前に機械器具および保護装置を点検すること。
- (5) 必ず所定の保護具を使用すること。

(健康診断)

第 45 条 法人は全職員に対し少なくとも年1回健康診断を行う。ただし、必要と認めたときは、職員の全部または一部に対し随時に健康診断を行う。

2. 前項の場合、職員は正当な事由なしにこれを拒みまたは回避してはならない。ただし、他の医師の診断を求めて、その結果を証明する書面を提出したときはこの限りでない。

(性的言動に関する雇用管理上の配慮)

第45条の2 法人は、職場において職員の勤務環境または学生の勉学環境が害されるような性的言動が行われないように、その防止等に関する施策につき企画立案を行い、また、

職員等に対し、防止等のために実施する措置につき調整、指導および助言を行うものとする。

2. 法人は、前項の性的な言動を防止および排除するための措置、並びにこれに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置につき、必要な事項を定める。

## 第11章 災害補償

(補償)

第 46 条 職員が業務上負傷し、あるいは疾病、廃疾、死亡した場合には、労働者災害補償保険法による補償を行う。





- (5) 介護休業規程（ ” 第5）
- (6) 職員出向規程（ ” 第6）
- (7) 定年退職者再雇用規程（ ” 第7）

## 神奈川工科大学 特任教員規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、神奈川工科大学（以下、「本学」という。）の教育研究または組織運営上等の目的で、先端的、学際的、総合的な教育研究、短期間の教育研究、専門的な企画・運営上の諸問題等で特別な任務に従事できる教員（以下、「特任教員」という。）に関する事項について定めるものとする。

(対象・資格)

第 2 条 この規程において特任教員とは、つぎの職位を対象とする。

- (1) 教 授 (特任教授)
- (2) 准 教 授 (特任准教授)
- (3) 専任講師 (特任講師)

2. 特任教員は、別に定める「教育職員選考規程」第 2 条（教授の資格）、第 3 条（准教授の資格）または第 5 条（専任講師の資格）の要件を満たし、かつ、本学教員に準じて教育研究の振興発展に貢献できると認められる者とする。ただし、職位の資格要件については、これに拠り得ない特段の理由があるときはこの限りでない。

(態 様)

第 3 条 特任教員は、常勤（専任）と非常勤を区別し、各態様によりその内容を定める。

(特任教員の申請)

第 4 条 特任教員を必要とする場合、各専攻、各学科、基礎・教養教育センター、各附属センターおよび研究所の長（以下、「所属長」という。）は、文書により、特任教員選考委員会（以下、「選考委員会」という。）の設置を学長に申請する。

(選考委員会の設置)

第 5 条 所属長の申請に基づき、学長が特任教員の必要を認めるときは、選考委員会を設置する。ただし、選考委員会については、別に定める「教育職員の採用候補者の選考に関する申合せ」を準用する。

(選考・採用手続き)

第 6 条 選考委員会の委員長は、選考結果につき、人事委員会の意見を求めたうえ、学長の承認を得るものとする。

2. 学長は、選考結果を承認した特任教員候補者の採用につき、教授会に報告するとともに理事会に提案する。

(常勤の特任教員)

第 7 条 常勤の特任教員（以下、単に「特任教員」という。）は、別表に定める場合に限り採用の申請ができるものとし、かつ採用時に 70 歳未満でなければならないものとする。

2. 特任教員の雇用期間は、1 年以上 5 年以下の期間で、その都度定める。ただし、当初の雇用期間から連続して 8 年以内であれば、雇用期間の更新ができるものとする。
3. 雇用期間の更新時に 70 歳以上の者については、雇用期間を更新できないものとする。ただし、余人をもって替えがたく後任者の雇用が著しく困難な場合は、雇用期間を 1 年毎に、かつ連続して 3 年以内（当初の雇用期間から連続して 8 年以内）に限りこの期間を更新することができるものとする。

(会議等の構成員)

第 8 条 特任教員は、原則として、研究科委員会、教授総会、教授会、各種委員会等の構成員としない。

(勤務条件)

第9条 特任教員の授業担当時間その他の勤務条件は、採用の際、その都度定める。

(処遇の決定)

第10条 特任教員の給与、その他の処遇内容は、学長の申請により、その都度理事会が決定する。

(研究指導、研究費等)

第11条 学長は、特任教員が学生の卒業研究、研究指導等を行うことを認める場合、その都度教授会または研究科委員会にその旨を報告する。

2. 前項の卒業研究、研究指導等を行う場合は、原則として、所属する組織の予算、施設、設備等の範囲内で実施するものとする。

(新研究科・専攻、新学部・学科等開設の場合の特例)

第12条 別表に定める新研究科・専攻、または新学部・学科等の開設にあたり、本学にとって特別な専門分野の教員を特任教員として採用する場合は、つぎの各号に定める特段の規定によるものとする。

- (1) 採用時において70歳以上の者を採用することができる。ただし、雇用期間は5年以内を限度とし、雇用期間の更新はできないものとする。
  - (2) 大学院および学部の授業を担当することができる。
  - (3) 研究科委員会、教授会、各種委員会等の構成員になることができる。
2. 前項の場合、学長は、選考委員会の設置を要しないものとする。ただし、選考の経緯、結果等については、人事委員会に報告するものとする。

(教育研究に不可欠な場合)

第13条 専攻または学科の教育研究を実施するうえで必要不可欠と認められる場合は、当該専攻または学科において、特任教員を採用できるものとする。ただし、専任教員に準ずる勤務を必要とする場合に限る。

(その他必要とする場合)

第14条 第1条に定める目的を達成するため、特段の必要性があり、かつ理事会がその必要性を事前に承認する場合、学長は、別表4に示す特任教員の選考に着手できるものとする。

2. 前項による特任教員の採用にあたり、学長は、採用の趣旨および理由に基づき、具体的な採用手続き、処遇内容等を明確にして理事会に提案するとともに、選考委員会の設置を要しない場合、または学長の判断によりこれを要しないとする場合は、当該選考の経緯、結果等について、人事委員会に報告するものとする。

(自己点検・評価義務等)

第15条 特任教員は、専任教員と同様に、自己点検・評価を実施し、授業を担当する場合は、授業アンケートを実施しなければならないものとする。

2. 前項により、授業評価が著しく劣り改善されない場合は、当該特任教員の担当授業を打ち切るものとする。

(非常勤の特任教員)

第16条 非常勤の特任教員(以下、「非常勤者」という。)は、つぎに定める区分に該当する者で、かつ採用時に70歳未満でなければならないものとする。

- (1) 本学に経理を任された外部資金もしくは競争的資金による研究費(以下、「特定経費」という。)により実施する事業、または本学が規程を定めて行う特定の事業(以下、「特定事業」という。)における教育研究を行う教授、准教授または専任講師に相当する者

(2) 寄附講座もしくは連携大学院講座における教育研究を行う教授、准教授または専任講師に相当する者

2. 同一の特定経費の事業もしくは特定事業または寄附講座等において複数の非常勤者を同時に選考しようとする場合は、個々に選考委員会を設置することなく、単一の選考委員会において選考することができる。
3. 前項の定めにかかわらず、存続期間または事業年度が定められている場合等にあつては、その都度選考委員会を設置することなく、単一の選考委員会を当該存続期間または定められた事業年度の間、継続して設置し、非常勤者を選考することができる。
4. 第1項第1号に定める非常勤者の雇用期間は、当該事業等が存続する期間を超えない範囲内で、非常勤者毎に定める。ただし、雇用期間は連続して8年以内とし、雇用期間を更新できる場合も、当初の雇用期間から連続して8年以内とする。
5. 第1項第2号に定める非常勤者の雇用期間は、1年を超えない範囲内で非常勤者毎に定める。ただし、雇用期間を更新できる場合も、当初の雇用期間から連続して8年以内とする。
6. 非常勤者の処遇は、学長の申請により、その都度理事会が決定する。ただし、第1項の事業等の場合は、計画内予算で対応することがある。

(常勤者に関する規定の準用等)

- 第17条 常勤の特任教員に関する定めは、非常勤の性質に反しない範囲で、非常勤の特任教員に準用する。ただし、採用または雇用期間の更新等の手続きに関しては、学長の判断により、手続きを簡略にし、または省略することができるものとし、その場合、学長は、人事委員会にその旨および手続きの結果を報告する。
2. 非常勤者が、大学院または学部の授業を担当する場合は、別に定める非常勤講師に関する内規に基づく手当相当額を支給する。ただし、授業の担当が雇用目的に含まれるとき、または、理事会がこの点も含めて処遇を決定しているときは、この限りでない。

(雇用以外の契約)

- 第18条 特段の理由により、常勤または非常勤の特任教員を雇用以外の契約で採用するときは、雇用の場合に準じて取り扱うものとする。

(改 廃)

- 第19条 この規程の改廃は、学長が発議する。

- 附 則
1. この規程は、平成20年4月1日から実施する。
  2. この規程の一部改正は、平成21年3月5日から実施する。
  3. この規程の一部改正は、平成27年4月1日から実施する。ただし、雇用期間の制限は、平成25年4月1日以降に締結する契約（採用、更新）から対象とする。

(別 表) 常勤の特任教員採用申請が認められる場合

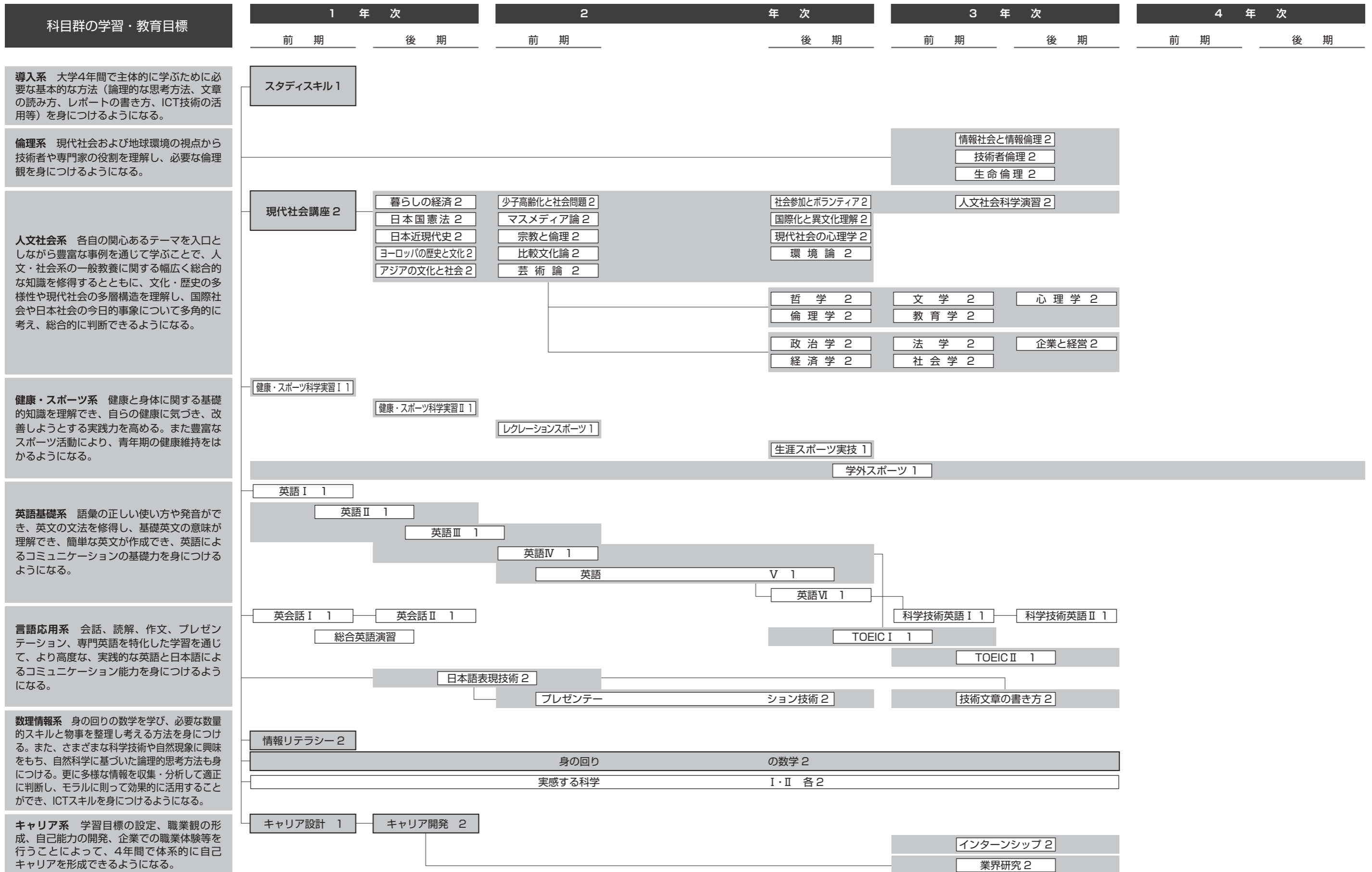
	対 象 者	採 用 の 申 請 条 件
1	本学を定年退職した教員	昇任人事により定年が短縮された教員について、所属部署の要請があり、短縮前の定年を限度として雇用する場合
2	新研究科・専攻、または新学部・学科等において必須とする特別な専門分野の教員	新学部学科準備会、学内検討委員会等の要請により、採用が必要と認められた場合
3	専攻または学科で先端的、学際的、総合的な教育研究を実施するうえで必要不可欠であり、専任教員に準ずる勤務の教員	専攻または学科の要請により、教育研究を実施するうえで不可欠であり採用が必要と認められた場合
4	その他、特任教員として必要とする教員	本学に附置する各センター、機構、研究所において、企画、運営等の高度な知識と経験を有する専門家、特定の研究分野で顕著な研究成果が期待できる国内外の研究者など、特段の合理的な必要性があり、かつ理事会がその必要性を事前に承認する場合

資料5 (本文P12)

臨床工学科 昇格人事及び新規教員の採用に関する人事計画

教員配置計画	令和5年度(完成年度)末	令和6年度～令和9年度
退職予定	定年規程により教授3名が退職予定	定年規程により教授1名が退職予定
昇格予定	生体工学分野の准教授1名について、教育研究業績等の評価に基づき教授に昇格予定 生体機能代行技術学分野の助教2名について、教育研究業績等の評価に基づき准教授に昇格予定	
新規採用	公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、生体医工学分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用 公募等により、大学等における教育歴、病院における臨床歴、医用機器学分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用 公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、生体機能代行技術学分野に関する研究実績を有する助教1名を採用	公募等により、博士の学位、医師免許、関連臨床医学分野に関する研究実績を有する教授1名を採用

# 共通基盤教育 [カリキュラムツリー]



# 看護学部 臨床工学科 [カリキュラムツリー]

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには\*印の付してある科目を履修しなければならない

■: 必修 □: 選択

**科目群の学習・教育目標**

基礎的な医学的知識や、(医学と工学のかかわりについて学習できる。) また、身体的・精神的・社会的に健康な生活を送るための課題や事象、看護の概念や目的・役割・機能について学習できる。

電気・電子工学および機械工学分野で扱う基本原理や法則あるいは解析手法を学習できる。また、人工材料の安全性評価、生体計測に必要な計測技術などの基礎を身につける。

数値(データ)の統計学的な解析法やシステム制御の基礎理論を学習できる。また、セキュリティ対策や、病院情報システムの基本構造、プログラミング技術を身につける。

工学と医学・生物学の境界領域である医用工学や、生体計測装置の原理や得られるデータの特長、物理的エネルギーと生体とのかかわり合いについて学習できる。また、これらの装置の適切な操作と維持・管理を身につける。

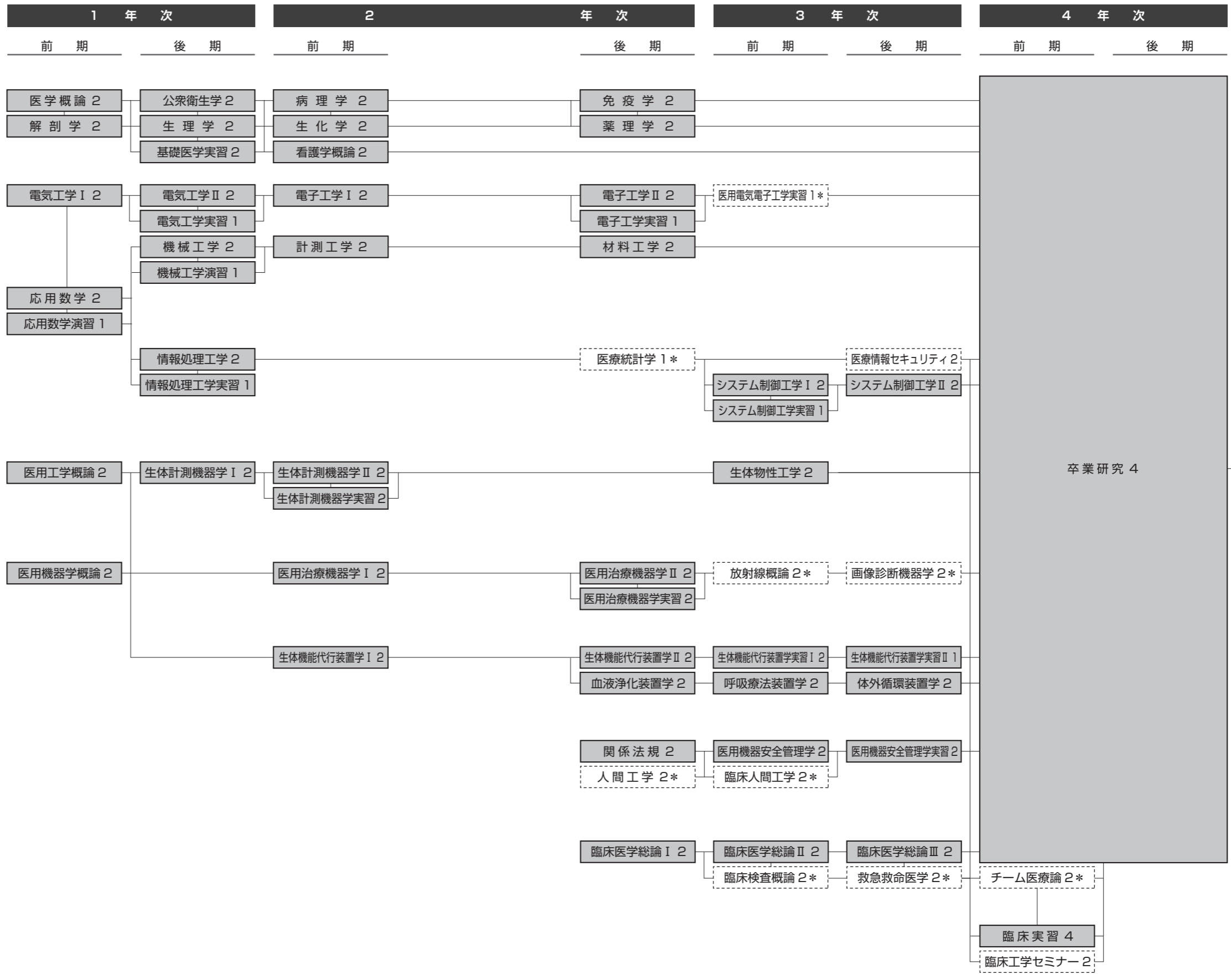
放射線の取り扱いや、画像診断装置などの医用機器の原理・構造・役割について学習できる。また、各種治療器等の原理・操作法・安全管理・保守・点検法を身につける。

生命維持装置(血液浄化装置、呼吸療法装置、体外循環装置など)の原理や装置構成・操作方法などを理解し身につける。

医療機器の安全管理に関する法令や、安全を確保する要素技術に関して学習できる。また、医療現場の作業環境や安全確保・作業設計などにおいて必要な人間工学の考え方・人的エラーの構造などについて学習できる。

臨床医学の知識を学習できる。また、検体の取り扱いに関する注意と安全確保、各種臨床検査用機器の原理や操作法、集中治療医学について学習できる。

臨床工学技士に必要な知識や技術・主な業務について、最新の診断技法や治療装置・治療法などを学習できる。



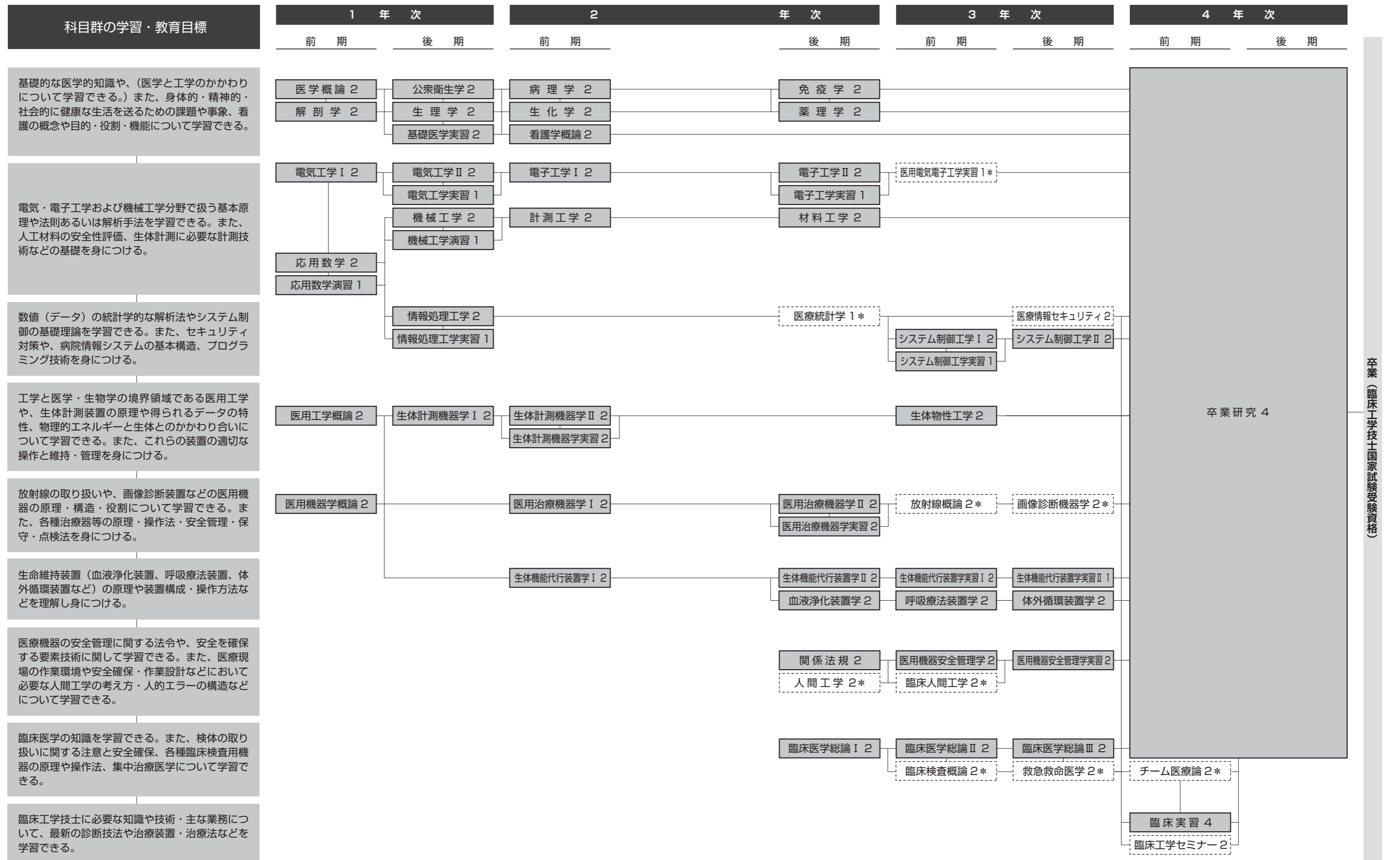
卒業(臨床工学技士国家試験受験資格)



# 看護学部 臨床工学科 [カリキュラムツリー]

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには\*印の付してある科目を履修しなければならない

■: 必修 □: 選択



卒業(臨床工学技士国家試験受験資格)

## 臨床工学科 実習施設一覧

	病院名	所在地	電話番号
1	厚木市立病院	神奈川県厚木市水引1-16-36	046-221-1570
2	海老名総合病院	神奈川県海老名市河原口1320	046-233-1311
3	秦野赤十字病院	神奈川県秦野市立野台1-1	0463-81-3721
4	平塚市民病院	神奈川県平塚市南原1-19-1	0463-32-0015
5	相模原協同病院	神奈川県相模原市緑区橋本2-8-18	042-772-4291
6	小田原循環器病院	神奈川県小田原市矢作296-1	0465-48-7211
7	東邦大学医療センター大橋病院	東京都目黒区大橋2-22-36	03-3468-1251
8	湘南鎌倉総合病院	神奈川県鎌倉市岡本1370-1	0467-46-1717
9	慶應義塾大学病院	東京都新宿区信濃町35	03-3353-1211
10	東海大学医学部附属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	0463-93-1121
11	横須賀共済病院	神奈川県横須賀市米が浜通1-16	046-822-2710
12	東京女子医科大学病院	東京都新宿区河田町8-1	03-3353-8111
13	河北総合病院	東京都杉並区阿佐谷北1-7-3	03-3339-2121
14	伊勢原協同病院	神奈川県伊勢原市田中345	0463-94-2111
15	東名厚木病院	神奈川県厚木市船子232	046-229-1771
16	東京山手メディカルセンター	東京都新宿区百人町3-22-1	03-3364-0251
17	浜松医科大学医学部附属病院	静岡県浜松市東区半田山1-20-1	053-435-2111



## 各施設での指導者の配置状況

実習施設名	実習施設における実習指導者 (所属・資格名・臨床経験年数)		
厚木市立病院	市河三欧	(臨床工学室、臨床工学技士)	17年)
	今井正貴	(臨床工学室、臨床工学技士)	14年)
	浦島磨里雄	(臨床工学室、臨床工学技士)	14年)
海老名総合病院	村上弘	(臨床工学科、臨床工学技士)	19年)
	志知純慈	(臨床工学科、臨床工学技士)	17年)
秦野赤十字病院	竹内政則	(医療技術課、臨床工学技士)	22年)
	鈴木誠	(医療技術課、臨床工学技士)	14年)
平塚市民病院	熊澤義雄	(臨床工学科、臨床工学技士)	30年)
	中西利基	(臨床子学科、臨床工学技士)	19年)
	杉本明久	(臨床工学科、臨床工学技士)	10年)
	田邊進也	(臨床工学科、臨床工学技士)	10年)
相模原協同病院	小俣利幸	(臨床工学室長血液浄化、臨床工学技士)	26年)
	斉藤慎一	(臨床工学室手術室、臨床工学技士)	26年)
	佐藤健太郎	(臨床工学室ME科管理、臨床工学技士)	21年)
	新美文子	(臨床工学室血液浄化、臨床工学技士)	20年)
	井上知	(臨床工学室不整脈・心カテ、臨床工学技士)	14年)
	廣瀬智明	(臨床工学室、臨床工学技士)	19年)
	吉田昌浩	(臨床工学室、臨床工学技士)	18年)
	榎本洋平	(臨床工学室、臨床工学技士)	11年)
	山田拓平	(臨床工学室、臨床工学技士)	11年)
	高橋直子	(臨床工学室、臨床工学技士)	10年)
	小金乙起	(臨床工学室、臨床工学技士)	10年)
川久保雄太	(臨床工学室(人工心肺)臨床工学技士)	8年)	
小田原循環器病院	田澤四男	(臨床工学科、臨床工学技士)	31年)
	渡邊節夫	(臨床工学科、臨床工学技士)	29年)
東邦大学医療センター大橋病院	森下正樹	(臨床工学部、臨床工学技士)	28年)
	別所郁夫	(臨床工学部、臨床工学技士)	28年)
	大沢光行	(臨床工学部、臨床工学技士)	28年)
	加藤文彦	(臨床工学部、臨床工学技士)	28年)
	日野由香里	(臨床工学部、臨床工学技士)	18年)
	岡本裕美	(臨床工学部、臨床工学技士)	18年)
	斉藤拓郎	(臨床工学部、臨床工学技士)	10年)
	高梨準一	(臨床工学部、臨床工学技士)	5年)
	功力未夢	(臨床工学部、臨床工学技士)	5年)
湘南鎌倉総合病院	福寿 彰	(ME機器管理、集中治療、臨床工学技士)	11年)
	種山かよ子	(血液浄化、臨床工学技士)	28年)
	岩村庸平	(人工心肺・手術室、臨床工学技士)	11年)
	満岡宏介	(心カテ、臨床工学技士)	11年)
慶應義塾大学病院	平林則行	(医用工学センター、臨床工学技士)	19年)
	富永浩史	(医用工学センター、臨床工学技士)	15年)
東海大学医学部附属病院	小森恵子	(臨床工学技術科、臨床工学技士)	31年)
	西原英輝	(臨床工学技術科、臨床工学技士)	23年)
	齊木力	(臨床工学技術科、臨床工学技士)	22年)
	原田潤平	(臨床工学技術科、臨床工学技士)	16年)
	河村吉文	(臨床工学技術科、臨床工学技士)	32年)
横須賀共済病院	左成昭生	(臨床工学科、臨床工学技士)	20年)
	森下達雄	(臨床工学科、臨床工学技士)	16年)
	濱崎誠之	(臨床工学科、臨床工学技士)	13年)

## 各施設での指導者の配置状況

実習施設名	実習施設における実習指導者 (所属・資格名・臨床経験年数)		
東京女子医科大学病院	酒井基広	(ME機器管理、臨床工学技士)	34年)
	村上淳	(血液浄化、臨床工学技士)	36年)
	加藤篤志	(人工心肺・手術室、臨床工学技士)	23年)
	新井秀二	(手術室・集中治療、臨床工学技士)	28年)
	大久保政彦	(心カテ、臨床工学技士)	30年)
	石森勇	(血液浄化、臨床工学技士)	27年)
	小林博之	(救急・集中治療、臨床工学技士)	27年)
	相馬泉	(集中治療・人工呼吸、臨床工学技士)	25年)
河北総合病院	松島茂嘉	(臨床工学科、臨床工学技士)	27年)
伊勢原協同病院	安藤純一	(臨床工学室、臨床工学技士)	27年)
	茅野敬典	(臨床工学室、臨床工学技士)	21年)
東名厚木病院	小池一彦	(透析センター、臨床工学技士)	27年)
	中村丈彦	(病院院内機器管理、臨床工学技士)	30年)
	坂本隆行	(手術室危機管理、臨床工学士)	14年)
	四元夏織	(透析クリニック、臨床工学士)	21年)
東京山手メディカルセンター	中井歩	(臨床工学部、臨床工学技士)	24年)
	渡邊研人	(臨床工学部、臨床工学技士)	14年)
浜松大学医学部附属病院	水口智明	(医療機器管理部、臨床工学技士)	25年)
	江間信吾	(血液浄化療法部、医療機器管理部兼任、臨床工学技士)	16年)
	伊藤裕美	(血液浄化療法部・医療機器管理部兼任、臨床工学技士)	15年)
	川村 茂之	(医療機器管理部、臨床工学技士)	14年)
	鈴木咲子	(医療機器管理部、臨床工学技士)	14年)
	加茂嗣憲	(医療機器管理部、臨床工学技士)	13年)

## 資料 10 (本文 P 20)

### 臨床工学科 臨床実習における事故防止・事故発生時の対応に関する事項

緊急連絡先として、大学所在地および、実習責任者、実習担当教員、学科事務室の電話番号、FAX 番号、メールアドレスを周知している。また、実習生は、実習施設の実習指導者の連絡先(電話番号とメールアドレス)を確認することとしている。

事故防止にあたり、実習生への事前教育で、実習中の注意点や実習中に起こしやすい事故・トラブルについて十分に教育している。また、実習担当者は実習施設の実習指導者と、前年度の実習の実施状況の確認と意見交換を行い、事故防止に努めている。

臨床実習中に事故が発生した場合は、実習生は、発生後速やかに実習指導者および本学実習担当者に連絡し、「遅刻・早退・欠席・事故報告書」を実習指導者に、写しを実習担当者に提出する。事故が発生した場合、実習指導者は、直ちに事故状況を把握し適切な処置を行い、実習担当者に連絡する。実習中の事故により保険適応の事態が発生した場合、実習指導者は速やかに本学実習責任者まで連絡する。事故発生後、今後の事故防止に向け、実習担当者と実習指導者は、事故発生の原因と問題を明らかにし、防止策を検討する。

## 2019年度FD活動計画(案)

FD活動は、教員の自己改善に向けた自主的な活動を支援し、大学が社会的役割を果たすために掲げる教育改善・意識改革を支援するものと位置付け、以下のように計画し、実施することとする。

### 【具体的な内容】

#### A. 集合研修の実施

1. (仮称) 教育課程の適正な運用のための3ポリシーの構成: 授業者に求められるカリキュラム開発の視点(実施時期未定)
2. (仮称) 授業を語ろう【手挙げ式(定員40名: 学生との協働)】(6月)
3. (仮称) 授業公開研究会(7月または11月の「授業公開にあわせて実施」)
4. (仮称) 授業アンケート研究会(手挙げ式(定員40名: 学生との協働))(10月)
5. シラバスFD研修会(12~1月)

#### B. 新採用教員研修会の実施

1. 新採用教員研修会(4月3日 水)

#### C. 教育力向上ワークショップ

1. 「授業設計のための目標と評価の設定」(4月24日 水)
2. 「学生の主体的学びに向けた授業の設計」(5月24日 金)
3. 「ティーチング・ポートフォリオ入門(初級: チャートの作成)」(6月21日 金)
4. 「manaba活用入門」(7月19日 金)
5. 「(仮) 発達障害学生の支援」(9月20日 金)
6. 「授業における知的財産法入門」(10月18日 金)
7. 「授業設計のための知識構造理解と課題分析」(11月22日 金)
8. 「学生の興味を喚起する授業デザイン」(12月20日 金)
9. 「主体的な学修を支援する評価方法」(2月21日 金)

※このうち1, 2, 3, 4, 7, 8, 9は、オンデマンドで通年受講可とする。

#### D. 高大連携 授業見学・研究会

1. 本学教員協定高校訪問 授業見学・研究会(年間2校を計画)
2. 協定高校教員本学訪問 授業見学・研究会(11月)

#### E. 授業アンケート・教員授業アンケートの実施(前期7月・後期12月)

#### F. 授業公開の実施(実施時期・方法も含めて要検討)

#### G. センターニュースの発行(年4回)

#### H. 3ポリシー運用のためのFD(教育開発センター運営委員会にて検討・必要に応じ実施)

#### I. SCOT(※) 育成のための研修会の実施(6~2月)

※SCOT(StudentsConsultingonTeaching): 研修を受けた学生が教員の要望により学生目線で授業観察を行い、授業改善の支援をする活動

以上

## 2019 年度 S D 活動計画 (案)

教職員が同時に参加することが困難であることから、研修内容については、映像化して学内限定WEBにて配信し、全員が内容を理解できるようにする。

事務職員を対象としたSDについては、個々の能力向上を目的とするが、第一段階として各部署の重点テーマについての共有を図るための研修の企画・運営を主に進めていく。

4月22日(月) 14:30~15:30

- (1) 認証評価結果と今後の対応について
- (2) 改組の趣旨と進捗状況および今後の予定

6月7日(金) 教授会(拡大)

- (1) ハラスメント研修会

6月17日(月) 14:30~15:30

- (1) 2018年度事業報告と2019年度事業計画のポイント

7月22日(月) 14:30~15:30

- (1) 高大接続、入試改革、2020年度入試のポイント

9月6日(金) 13:00~16:00

- (1) エンロールマネジメントと学生本位主義

10月21日(月) 14:30~15:30

- (1) 本学の学生サポートについて

以 上



## ① 設置の趣旨及び必要性

### 1 本学の沿革 —教育研究組織の整備状況—

本学では、開学以来、伝統的な工学分野に関する教育研究を中心として、生活の利便向上のための技術教育を展開してきたが、現代社会においては、科学と技術の融合なくしては、真の技術者教育は困難なことから、自然認識を深めるための科学教育を加えた幅広い科学技術教育としての充実を図るとともに、この本学の教育目的を適切に表現するために、昭和63年4月より、大学名称を幾徳工業大学から神奈川工科大学へと改称した。

以来、工学分野における教育内容を基盤として、科学技術としての教育内容の整備と充実に努め、平成15年4月には、工学部の情報系学科の発展的な改組による情報学部を設置し、平成18年4月には、機械工学、電気電子工学、情報工学などの基幹分野における教育内容の融合による自動車システム開発工学科とロボット・メカトロニクス学科、平成20年4月からは、ホームエレクトロニクス開発学部を設置するとともに、上記の3学科構成の創造工学部を新設した。

一方、学則第一章、第一条に掲げている本学の目的である「教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与すること」のさらなる具現化にむけて、特に、「人類福祉の増進に寄与すること」の具現化を目指して、工学分野及び情報分野に加え、生命・健康分野を新たな教育研究対象とすることとした。

具体的には、平成18年4月に工学部の応用化学科の教育内容を基礎として、生命科学やバイオテクノロジーを教育研究対象とし、健康・医療バイオなどに関する教育内容を教授する応用バイオ科学科を設置し、その後、平成20年4月には、工学部から応用バイオ科学科を発展的に独立させ、応用バイオ科学部を設置した。

また、平成22年4月には、地域における保健医療や産業社会の多様化による栄養管理を取り巻く諸情勢を踏まえ、応用バイオ科学部に管理栄養士の養成を目的とする栄養生命科学科を設置し、NST（栄養サポートチーム）に対応できる管理栄養士の育成にむけて、臨床栄養のプロジェクト教育を推進している。

さらに、学則第一章、第一条に掲げている大学の目的を具現化するものとして推進してきた生命・健康分野の新たな教育研究組織として、平成27年4月に看護学部を設置するとともに、工学部に臨床工学科を設置し、大学の目的として掲げている「人類福祉の増進に寄与すること」の具現化にむけて、生命・健康分野の教育研究組織の整備と充実に努めてきた。

### 2 設置の趣旨及び必要性

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革と教育改革に格

段の努力を注ぐことが重要である。

一方、18歳人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く環境が変化しており、その方向性も多様化していることから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展に向けた、特色ある教育研究に取り組むことによる、独自性を発展的に実現する必要性が生じている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えていくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を勘案した教育組織の充実が求められている。

このような高等教育を取り巻く社会環境が変化する中、平成27年4月に設置した看護学部が、平成31年3月をもって、当初計画の通りに完成年度を迎えることから、昨今の地域社会における保健・医療・福祉サービスの動向を踏まえて、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科を発展的に改組転換し、令和2年4月より看護学部へ管理栄養学科と臨床工学科として設置することとした。(資料1)

なお、今般の管理栄養学科と臨床工学科の設置計画では、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科における教育研究上の目的、養成する人材、教育課程、授与する学位の分野等に変更がない計画としていることから、開設年次を第1年次から第4年次とし、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科に在籍している学生について、管理栄養学科と臨床工学科に移籍させることとしている。

既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科からの移籍に関する在学生への対応については、平成30年11月15日付けで、学長名により本学の掲示板とKait Walkerにおいて、対象となる全ての在学生に対して告知したうえで、平成30年11月15日～11月30日まで、対象となる在学生に対する個別説明の窓口を設けることにより対応し、同意を得ている。

また、保護者等への対応については、平成30年11月15日付けで、学長名による説明文を対象となる全ての保護者等宛に通知したうえで、平成30年11月15日～11月30日まで、対象となる保護者等に対する個別説明の窓口を設けることにより対応し、同意を得ている。

### 3 看護学部へ臨床工学科を設置する理由

既設の看護学部へ臨床工学科を設置する理由は、臨床工学技士の業務は「医師の指導の下に、人の呼吸、循環又は代謝の機能の一部を代替し、又は補助することが目的とされている生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者」とされており、臨床工学技士には、今後、ますます増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手として医療現場をはじめとするチーム医療に貢献することが期待されている。

特に、近年の動向として、医療現場における集中治療室、手術室、心臓カテーテル検査室、ペースメーカーなど業務の拡大が著しく、また、平成28年度診療報酬改定における特

定集中治療室管理料1の施設基準に「専任の臨床工学技士が、常時、院内に勤務していること」と明記されたことで、集中治療室における臨床工学技士配置の必要性が高まっており、このような臨床工学技士が担う役割や業務とチーム医療などの観点から、看護学部臨床工学科を設置し、看護学科、管理栄養学科、臨床工学科の3学科体制とすることで、「地域社会における保健・医療・福祉サービスの発展と向上に貢献する」ための学部教育の機能の充実を目指すものである。

なお、看護学部管理栄養学科と臨床工学科が設置された場合には、管理栄養学科と臨床工学科の設置に伴う学部教育における教育研究の目的や養成する人材、組織として研究対象とする中心的な学問分野について、地域社会や受験生に分かり易い名称とすることから、学部の名称を現在の看護学部から健康医療科学部に変更することとしている。

#### 4 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

##### (1) 卒業後の進路

臨床工学科の卒業後の進路としては、病院や診療所等の医療機関において、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器等の生命維持管理装置の操作や医療機器の管理業務等をはじめ、医療機器の開発や製造に関わる業務に携わることが想定される。

##### (2) 卒業生の採用意向調査

臨床工学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、医療機関等を対象として臨床工学技士の採用見込みや臨床工学科の設置の必要性と養成する人材及び臨床工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、医療機関等における臨床工学技士の採用見込については、有効回答数72機関の約73.61%にあたる53機関が「増加すると思う」と回答していることから、医療機関等における今後の臨床工学技士の採用見込はあるものと考えられる。

また、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性については、有効回答数73機関の約93.15%にあたる68機関が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材については、有効回答数71機関の約91.55%にあたる65機関が「必要性を感じる」と回答していることから、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

さらに、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用については、有効回答数70機関の約84.29%にあたる59機関が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数については、「3人以上」と回答した医療機関等の採用人数を3人、「人数は未定」と回答した医療機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると67人となり、この採用人数からもみても、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような限定された一部の医療機関等に対する調査結果においても、神奈川工科

大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向は高いことから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料2)

## 5 教育研究の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

### (1) 健康医療科学部 ※看護学部から名称変更予定

健康医療科学部では、人間の健康や医療に関する教育研究を通して、「看護学分野・栄養学分野・臨床工学分野に関する基礎的な知識と実践的な能力の習得とともに、幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と高い職業観、主体的な判断力と行動力、生涯にわたり自発的な職能開発を継続するための基礎的な研究能力を習得する」ことを教育研究上の目的とする。

また、健康医療科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「看護学分野」、「栄養学分野」、「臨床工学分野」として、「看護学分野・栄養学分野・臨床工学分野の基礎知識や専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を育成する」ことを目的とする。

### (2) 臨床工学科

臨床工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「臨床工学分野」として、「臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この養成する人材の目的を達成するために、以下の通り、学位授与の方針を定めることとし、教育課程における「共通基盤教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の各科目群に配置している講義と演習や実習を通して、学位授与の方針に掲げる知識及び能力を習得させるための教育を行うこととする。

養成する人材の目的を達成するための学位授与の方針は、以下の通りとする。

#### 1. 創造的思考力

- (1) 臨床工学技士としての専門知識と技術を応用・発展させて、医療現場における問題を発見・解決し、臨床工学技士の新たな役割を見出すことができる。
- (2) 工学と医学の基本的な知識と、臨床工学技士としての専門知識と技術を身につけ、それらを駆使して、医療現場における幅広い課題を解決することができる。
- (3) 臨床工学技士として、チーム医療において自らやるべきことを見つけ、計画をたてて積極的かつ確実に実行することができる。

#### 2. チームワーク

- (1) 臨床工学技士としての専門知識と技術や応用について、工学と医学の基本的な知

識をもとに、わかりやすく説明ができる。また、医療現場における課題に対する自分の意見を伝えること、相手の意見を理解することができる。

- (2) チーム医療の一員として臨床工学技士の役割を把握して、常に患者の安全を考えて行動することができる。また、医療従事者としてのルールを遵守し、患者への共感と受容の必要性、臨床工学技士としての倫理を理解している。

### 3. 基礎学力

- (1) 臨床工学に関連する工学と医学の基本的な知識と、臨床工学技士として必要な専門知識と技術を体系的に理解している。
- (2) 臨床工学技士の素養としての数理・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識を理解している。

## ② 学部、学科等の特色

臨床工学科における教育研究上の目的は、「臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させる」こととしている。

また、臨床工学科における人材養成の目的は、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

特に、臨床工学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うことを特色としている。

具体的には、学部段階における教育は、職業人としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視することとしている。

このことから、臨床工学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うとともに、「特定の専門的分野の教育・研究」に比重を置いた教育研究に取り組むことを特色とする。

## ③ 学部、学科等の名称及び学位の名称

### 1 学部、学科等の名称及び学位の名称

臨床工学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野は「臨床工学分野」であり、「臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」ことを人材養成の目的としている。

このような、臨床工学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「臨床工学科」、学位を「学士(工学)」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Clinical Engineering」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称 臨床工学科 「Department of Clinical Engineering」

学位の名称 学士(工学) 「Bachelor of Engineering」

#### ④ 教育課程の編成の考え方及び特色

##### 1 教育課程の編成の基本方針

臨床工学科では、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」ことから、教育課程を「共通基盤教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」から編成することとし、特に、「専門基礎科目」及び「専門科目」では、4年間の学習期間を通して、講義から演習、演習から実習へと発展させるための体系的な教育課程の編成とする。

また、臨床工学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととしている。

具体的には、学部段階における教育は、職業人としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した教育課程の編成とする。

##### 2 教育課程編成・実施の方針

臨床工学科では、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針を次のとおり定めることとする。

## 1. 創造的思考力

- (1) 専門科目の「臨床実習」、「臨床工学セミナー」、「卒業研究」などの実践型教育により、専門知識・技術を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。
- (2) 専門基礎科目群および専門科目群の講義、演習、実習により、課題解決のための専門知識・技術を修得する。また、専門科目の「臨床実習」、「臨床工学セミナー」、「卒業研究」の実践型教育により課題を解決する方法を学ぶ。
- (3) 専門基礎科目群および専門科目群の講義、演習、実習をとおして、臨床工学技士としての目的設定と計画にもとづく実施方法を学ぶ。

## 2. チームワーク

- (1) 共通基盤教育の「情報リテラシー」、『言語応用系』科目群の講義、演習をとおして、知識や意見の伝達と傾聴の方法の基礎を学ぶ。また、国際的なコミュニケーションの基礎となる英語基礎力を『英語基礎系』科目群の講義、演習で修得する。さらに、専門基礎科目群および専門科目群の演習、実習での協働作業とプレゼンテーション実習により、知識や意見の伝達力、質問力を修得する。
- (2) 共通基盤教育『倫理系』の「生命倫理」の講義をとおして医療従事者に期待される社会のルールと職業倫理を学ぶ。また、専門教育科目の「チーム医療論」および他医療職種に関連する講義をとおして、チーム医療について学ぶ。さらに、専門教育科目の「臨床実習」により、臨床工学技士の役割の把握と期待される行動を学ぶ。

## 3. 基礎学力

- (1) 専門基礎科目群の講義、演習、実習をとおして、工学と医学の基礎知識を修得する。また、専門科目群の講義、演習、実習をとおして臨床工学技士に必要な専門知識と技術を修得する。
- (2) 共通基盤教育の『数理情報系』、『人文社会系』、『健康・スポーツ系』科目群の講義、演習、実習をとおして、自然、社会、多様な文化、グローバル化する社会に関する基礎知識を修得する。

## 3 教育課程の編成の考え方

臨床工学科では、教育研究上の目的に沿った人材を養成することから、教育課程を「共通基盤教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の科目区分により編成する。

### (1) 共通基盤教育科目

「共通基盤教育科目」は、臨床工学技士の素養としての数理・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識の理解を目的とすることから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「英語基礎系」、「言語応用系」、「数理情報系」の科目群から構成する。

「導入系」では、高校教育から大学教育への円滑な接続を図るための学習スキルを高めるための科目として、「スタディスキル」1単位を配置し、「倫理系」では、生命倫理に関する知識の理解と倫理観を養うための科目として、「生命倫理」2単位を必修科目として

配置した。

「人文社会系」は、「a群」、「b群」、「c群」の科目群から構成することとしている。

「a群」では、多面的に物事を理解するための基本的な知識を習得するための科目として、「暮らしの経済」2単位、「日本国憲法」2単位、「日本近現代史」2単位、「ヨーロッパの歴史と文化」2単位、「アジアの文化と社会」2単位、「少子高齢化と社会問題」2単位、「マスメディア論」2単位選択科目として配置した。

また、「宗教と倫理」2単位、「比較文化論」2単位、「芸術論」2単位、「社会参加とボランティア」2単位、「国際化と異文化理解」2単位、「現代社会の心理学」2単位、「環境論」2単位、「人文社会科学演習」2単位を選択科目として配置した。

「b群」では、人間と人間理解のための基礎的な知識を習得するための科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「文学」2単位、「教育学」2単位、「心理学」2単位を選択科目として配置した。

「c群」では、現代の社会を理解するための基礎的な知識を習得するための科目として、「政治学」2単位、「経済学」2単位、「法学」2単位、「社会学」2単位、「企業と経営」2単位を選択科目として配置した。

「健康・スポーツ系」では、健康維持や健康習慣のための基本的な知識と方法を習得するための科目として、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」1単位、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」1単位、「レクリエーションスポーツ」1単位、「生涯スポーツ実技」1単位、「学外スポーツ」1単位を選択科目として配置した。

「英語基礎系」では、英語による「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の言語能力を高めるための科目として、「英語Ⅰ」1単位、「英語Ⅱ」1単位、「英語Ⅲ」1単位、「英語Ⅳ」1単位、「英語Ⅴ」1単位、「英語Ⅵ」1単位を選択科目として配置した。

「言語応用系」では、英語の実践的かつ総合的な運用能力を高めるための科目として、「科学技術英語Ⅰ」1単位、「科学技術英語Ⅱ」1単位、「英会話Ⅰ」1単位、「英会話Ⅱ」1単位、「総合英語演習」1単位、「TOEICⅠ」1単位、「TOEICⅡ」1単位を選択科目として配置するとともに、日本語の運用能力を高めるための科目として、「日本語表現技術」2単位、「プレゼンテーション技術」2単位、「技術文章の書き方」2単位を選択科目として配置した。

「数理情報系」では、数理科学に関する基礎的な知識を習得するための科目として、「身の回りの数学」2単位、「実践する科学Ⅰ」2単位を選択科目として配置するとともに、情報の収集や分析と効果的に活用するための基本的な知識と技能を習得するための科目として、「情報リテラシー」2単位を選択科目として配置した。

## (2) 専門基礎科目

「専門基礎科目」では、工学と医学の基本的な知識を理解することから、「人体の構造及び機能」、「医学的基礎」、「理工学的基礎」、「医療情報技術とシステム工学の基礎」の科目区分により編成する。



#### 1) 人体の構造及び機能

「人体の構造及び機能」では、人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、関連科目を習得するための基礎的能力を養うための科目として、「医学概論」2単位、「解剖学」2単位、「基礎医学実習」2単位を必修科目として1年次に配置した。

#### 2) 医学的基礎

「医学的基礎」では、臨床工学に必要な臨床医学の基礎及び各種疾患の病態を体系的に学び、チーム医療の一員として、医療の内容を把握し理解する能力を養うための科目として、「公衆衛生学」2単位、「生理学」2単位、「病理学」2単位、「生化学」2単位、「免疫学」2単位、「薬理学」2単位、「看護学概論」2単位を必修科目として配置した。

#### 3) 理工学的基礎

「理工学的基礎」では、臨床工学に必要な理工学的基礎知識を習得し、医療に応用される理工学的技術・機器を理解するための能力を養うための科目として、「電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）」2単位、「電気工学Ⅱ（過渡現象、電磁気学）」2単位、「電気工学実習」1単位、「電子工学Ⅰ（基礎）」2単位、「電子工学Ⅱ（発展）」2単位、「電子工学実習」1単位、「機械工学」2単位、「機械工学演習」1単位、「材料工学」2単位、「計測工学」2単位、「応用数学」2単位、「応用数学演習」1単位を必修科目として配置し、「医用電気電子工学実習」1単位を選択科目として配置した。

#### 4) 医療情報技術とシステム工学の基礎

「医療情報技術とシステム工学の基礎」では、医療分野で利用される情報処理技術及びシステム工学を学び、その実践応用を理解する基礎的能力を養うための科目として、「システム制御工学Ⅰ（基礎）」2単位、「システム制御工学Ⅱ（発展）」2単位、「システム制御工学実習」1単位、「情報処理工学」2単位、「情報処理工学演習」1単位を必修科目として配置し、「医療統計学」1単位、「医療情報セキュリティ」2単位を選択科目として配置した。

### (3) 専門科目

「専門科目」では、臨床工学技士としての専門知識と技術を習得することから、「医用生体工学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」、「医用安全管理学」、「関連臨床医学」、「臨床実習」、「その他」の科目区分により編成する。

#### 1) 医用生体工学

「医用生体工学」では、工学の基礎概念を用いて生体を理解し、工学的技術を医療機器に応用するための知識・技術を習得するための科目として、「医用工学概論」2単位、「生体計測機器学Ⅰ（基礎）」2単位、「生体計測機器学Ⅱ（発展）」2単位、「生体計測機器学実習」2単位、「生体物性工学」2単位を必修科目として配置した。

#### 2) 医用機器学

「医用機器学」では、臨床で利用される計測機器・治療機器の原理・構造・構成を工学的に理解し、その適正かつ安全な使用法や保守管理に関する実践的知識・技術を習得する

ための科目として、「医用機器学概論」2単位、「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」2単位、「医用治療機器学Ⅱ（発展）」2単位、「医用治療機器学実習」2単位を必修科目として配置し、「放射線概論」2単位、「画像診断機器学」2単位を選択科目として配置した。

### 3) 生体機能代行技術学

「生体機能代行技術学」では、人の呼吸・循環・代謝に関わる生命維持管理装置の原理・構造を工学的に理解し、その適正かつ安全な使用法や保守管理に関する実践的知識・技術を習得するための科目として、「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」2単位、「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」2単位、「血液浄化装置学」2単位、「呼吸療法装置学」2単位、「体外循環装置学」2単位、「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」2単位、「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」1単位を必修科目として配置した。

### 4) 医用安全管理学

「医用安全管理学」では、医用工学機器を中心とした医療の安全確保のために、機器及び関連施設・設備のシステム安全工学を理解し、併せて関連法規・各種規格等を学習し、医用安全管理技術を習得するための科目として、「医用機器安全管理学」2単位、「医用機器安全管理学実習」2単位、「関係法規」2単位を必修科目として配置し、「人間工学」2単位、「臨床人間工学」2単位を選択科目として配置した。

### 5) 関連臨床医学

「関連臨床医学」では、臨床工学業務を行う上で必要な関連疾患の病態及び治療法を理解するための科目として、「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」2単位、「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」2単位、「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」2単位を必修科目として配置し、「臨床検査概論」2単位、「救急救命医学」2単位、「チーム医療論」2単位を選択科目として配置した。

### 6) 臨床実習

「臨床実習」では、臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚するための科目として、「臨床実習」4単位を必修科目として配置した。

### 7) その他

「その他」では、専門分野の教育内容ごとに修得した知識と技能を基に、学生の興味と関心に応じて、自ら課題を設定し、調査・研究を行うことで、研究意識の涵養と調査方法や分析手法、文献購読や資料分析などの基礎的な研究能力を養うための科目として、「卒業研究」4単位を必修科目として配置するとともに、「臨床工学セミナー」2単位を選択科目として配置した。

## ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

### 1 教員組織の編成の考え方

臨床工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「臨床工学分野」として、「臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この臨床工学科における教育研究上の目的及び人材養成の目的を踏まえたうえで、教育課程の編成においては、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した編成としていることから、専任教員の配置については、臨床工学分野における主要な授業科目を中心に配置することとしている。

## 2 教員組織の編成の特色

臨床工学科では、教育課程の編成における専門領域を専門基礎、医用生体工学、医用機器学、生体機能代行技術学、医用安全管理学、関連臨床医学の領域から構成していることから、教員組織の編成については、大学設置基準の規定を踏まえたうえで、専門領域ごとの授業科目数及び単位数に応じて、臨床工学分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授8人、准教授2人、助教2人、合計12人を配置することとしている。

具体的には、専門基礎は、教授8人、准教授2人、助教2人、医用生体工学は、教授1人、准教授2人、医用機器学は、教授4人、准教授1人、助教2人、生体機能代行技術学は、教授2人、准教授1人、助教2人、医用安全管理学は、教授2人、准教授1人、助教2人、関連臨床医学は、教授2人を配置している。（専門領域が複数領域にまたがっている専任教員は、各々の専門領域においてカウント）

専任教員の配置に当たっては、博士号等の学位の保有状況をはじめ、それぞれの領域における教育実績や研究業績、実務経験などと担当予定の授業科目との適合性について、十分な検討のもとに配置しており、また、職業人養成機能を果たすことから、理論と実践の融合に向けて、実技系の授業科目については、当該科目の特質を踏まえて、臨床工学に関する豊富な実務経験を有する教員を配置するとともに、学部教育としての一定の研究機能を果たすことから、博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を配置することとしている。

## 3 教員組織の年齢構成

臨床工学科の年齢構成については、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成とすることから、30歳台1人、40歳台3人、50歳台4人、60歳台

2人、70歳台2人の構成としており、教授の平均年齢は約59歳、准教授は約49歳となっており、次世代を担う教員の育成を視野に入れ、特定の年齢に偏ることのないように配慮した教員の配置としている。

定年規程との関係については、定年年齢は65歳と定めている。完成年度までにこの年齢（満65歳）を超える教授が4名いるが、このうち2名は同規則第47条第8項の但書に該当する教育職員として満70歳が定年になること、さらに4名とも任期制との併用により、定年年齢を超えて採用できる規程を設けている。また、臨床工学科の設置に際して新規に採用する者3人（内1人は平成31年度採用済）については、定年年齢にかかわらず、臨床工学科の完成年度まで在籍することができる規程となっている。（資料3）（資料4）

#### 4 教員組織編成の採用構想にかかる対応方針

今般の臨床工学科の専任教員の配置計画において、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える者4名を配置していることから、教員組織編成の将来構想について検討し、既に定年に達している者1名と完成年度までに定年を迎える者3名を配置することから、その対応方針として、中堅教員と若手教員の育成計画に基づく昇格人事及び新規教員の採用人事に関する中期的な人事計画を策定し、この人事計画に基づく計画的な採用を行うことにより、教員配置の適正化を図ることとし、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めることとする。（資料5）

### ⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

#### 1 教育方法

##### （1）授業の方法

臨床工学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実験形式や実習形式による授業形態を採ることとする。

##### （2）学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は40人、演習形式は40人、実習形式及び実験形式は2人から8人とする。

##### （3）配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮

した配当としている。

#### (4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点から踏まえ、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、履修単位数の年間登録の上限（CAP）を48単位とする。

#### (5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

### 2 履修指導方法

臨床工学科における履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では、臨床工学の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえ、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応したカリキュラムツリーを提示する。(資料6)

### 3 卒業要件

臨床工学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、136単位以上を修得することとし、共通基盤教育については、必修科目3単位を含む21単位以上、専門教育科目については、必修科目99単位を含む103単位以上を修得することとする。

#### ⑦ 施設、設備等の整備計画

本学では、昭和38年の開学以来、教育・研究環境の整備と充実に積極的に取り組んできており、大学の教育・研究のために必要な校地及び校舎等は十分に整備されており、今般、設置する臨床工学科については、既設の工学部の臨床工学科を基礎として設置することから、既存の校地、校舎等を有効的に活用することとしている。

##### (1) 校地、運動場の整備計画

臨床工学科の設置を計画している本学のキャンパスは、神奈川県厚木市下荻野に位置し、現在、校地面積約125,685㎡を有していることから、学生の休息その他の利用

のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されており、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、約38,015㎡の面積を校舎と同じ敷地内に確保しており、運動用設備としては、全天候対応人工芝フィールドおよび陸上400mトラックを設け、サッカー・ラグビー及び長短距離走の競技はもとより、フットサルやソフトボール等多目的に活用している。

さらに、隣接して両翼95m、センター120mの人工芝野球場を設け、硬式野球、ソフトボールやフットサルも可能としているとともに、全天候型テニスコート4面も有しており、授業及び学生の課外活動に利用している。

また、校地中心部に約6,000㎡の中央緑地公園を設け、170席のベンチや芝地での学生の休憩やコミュニケーションの場として活用しており、この公園は、屋外の催し物を開催する場合は、約1,500人がステージを観覧可能で、さらに万一の災害時には、石畳部分も利用することで、約2,000人の一時避難を可能としている。

## (2) 校舎等施設の整備計画

本学では、現在、32棟の校舎等の施設を有しており、延床面積は約98,309㎡で、教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室77室、演習室34室、実験実習室94室、情報処理室14室、語学学習室1室を整備しており、その他、教員研究室227室、講師室、助手室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えていることから、これらの施設等を有効的に活用することとしている。

また、臨床工学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するための臨床工学科の専用の施設として、講義室2室、実験実習室3室（基礎医学実習室、基礎工学実習室、臨床工学実習室）、そのほか、更衣室、国家試験対策室などを設け、専任教員の研究室については、20室を設けており、十分な教育研究環境を整えている。

設備は、臨床工学科における教育研究上の達成するための専用の設備として、教具652点、校具255点を整備していることから、教育に支障を生じることはないものと考えている。

本学では、開設以来、常に教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組み、特に施設・設備については、十分な整備に努めてきたことから、臨床工学科を設置した場合においても、十分に対応することが可能であると考えている。

## (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

### 1) 図書等の資料の整備計画

本学キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書185,290冊（うち外国書24,033冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌336種（うち外国雑誌2種）のほか、電子ジャーナル3,537種、ビデオやDVDなどの視聴覚資料5,749点の整備がなされていることから、これらを有効的に転共用することとしている。

また、臨床工学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するために必要となる図書等の資料としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書のうち、臨床工学に密接に関連する専門図書690冊を所蔵しており、雑誌についても11種を備えていることから、教育・研究に支障はないものと考えている。

## 2) 図書館の整備計画

図書館の機能としては、大学全体の収容定員の約13%にあたる629席の閲覧座席数を整備しており、また、学生の主体的な学習の場として、電子黒板・ディスカッションテーブル等のIT機器と可動機、壁面ホワイトボードを備えたActive Learning Room4室とシラバス図書を集めたReference Learning RoomからなるActive Learning spaceを設けているとともに、視聴覚ブース、サービスカウンター、レファレンスカウンターなどを有し、人的サービスを提供している。

さらに、館内に検索・電子資料閲覧・レポート作成等用途の汎用利用者パソコン30台、検索用パソコン7台を備え、また利用可能な電子・冊子体資料を垣根なく適切にナビゲート可能なディスカバリーサービス“WorldCat Discovery Services”を導入し、図書館ホームページの検索窓からの使用を可能としている。

図書館システムは株式会社富士通製の「iLiswave-J」が稼働しており、国立情報学研究所の所蔵目録の検索、医学中央雑誌や看護文献基本データベース CINAHL 等の論文検索、他大学図書館等との文献複写・相互貸借等サービスを可能としているほか、ディスカバリーサービスにより世界最大の目録データベース OCLC の WorldCat データの参照も可能としている。

また、検索学術情報リポジトリとして、研究紀要論文(1,161件)、学位論文(14件)のほか、日産自動車カタログコレクション目録データ(497件)、地域資料として「NPO 法人雨岳文庫を活用する会」と連携し、伊勢原市歴史史料である雨岳文庫データベース(10,365件)等を公開し、学内学術情報だけでなく地域と結びついた特色ある情報発信を行っている。

## ⑧ 入学者選抜の概要

### 1 基本方針

臨床工学科における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の目的、教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることとする。

### 2 受入方針

臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有し

た幅広い職業人を養成する」ことから、この養成する人材の趣旨を実現するために必要な教育課程の編成としている。

このような臨床工学科における養成する人材や教育課程との関連性を踏まえて、入学者選抜の基本的な受入方針は、臨床工学に対する強い興味と関心及び臨床工学技士に対する高い職業意識、さらには、国家試験の受験資格の取得及び国家試験の合格に向けての学習意欲を有している者を受け入れることを基本としつつ、学部教育を受けるに相応しい基礎学力と適性能力を有している者を受け入れることとする。

臨床工学科の具体的な受入方針は、以下の通りとする。

- 1 臨床工学技士に必要な工学と医療に関連する分野に関する学びに明確な意欲を有している。
- 2 学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有している。または入学前教育と初年次教育を通じてこれらの基礎学力を修得しようとする意志を持っている。

### 3 選抜方法

#### (1) 実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、臨床工学科における入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、AO入試、推薦入試、一般入試、センター方式入試により実施することとし、募集定員の割合については、AO入試の募集定員を4名、推薦入試の募集定員を11名、一般入試の募集定員を17名、センター方式入試の募集定員を8名とする。

#### (2) AO入試

AO入試では、臨床工学技士に必要な工学と医療に関連する分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書、志望理由書、その他の提出書類、実験・実習課題、レポート、面接、口頭試問、プレゼンテーション、グループ討論などにより多面的に評価する。

#### (3) 推薦入試

推薦入試では、臨床工学技士に必要な工学と医療に関連する分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書等、推薦書、その他の提出書類、面接、口頭試問、適性検査により評価する。

#### (4) 一般入試及びセンター方式入試

一般入試及びセンター方式入試では、臨床工学技士に必要な工学と医療に関連する分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書等及び学力検査で評価する。



⑨ 資格取得を目的とする場合

ア 取得可能な資格

臨床工学技士（国家試験受験資格）

イ 資格取得の条件

臨床工学技士については、卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格の取得が可能であるが、受験資格の取得を卒業の必須条件とはしていない。

⑩ 実習の具体的計画

ア 実習の目的

臨床実習では、臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚することを目的とする。

また、臨床実習の教育目標は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、適切な医療実践を行うために必要となる専門的知識及び技術の統合を図ることによる実践能力を高めることとしており、学内で修得した知識や技術を実際の医療実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できることをねらいとする

イ 実習先の確保の状況

実習先の確保については、学生数、臨床実習の種別、実習施設の種類の種類、実習時間と期間などを勘案して、実習施設の種別別に必要な実習施設を確保するとともに、実習施設については、本学から交通が便利な地域の施設を中心として確保することにより、学生や教員の負担軽減を図ることとする。

実習先の確保の状況としては、40名の入学定員に対して厚木市立病院、海老名総合病院、秦野赤十字病院、平塚市民病院、相模原協同病院、東邦大学医療センター大橋病院、小田原循環器病院、湘南鎌倉総合病院、慶應義塾大学病院、東海大学医学部附属病院、横須賀共済病院、東京女子医科大学病院、河北総合病院、伊勢原協同病院、東名厚木病院、東京山手メディカルセンター、浜松大学医学部附属病院の医療機関17病院を確保している。（資料7）

イ 実習先との契約内容

実習の依頼については、実習施設の環境や業務内容、受入体制などを確認したうえで、事前に実習施設の責任者に実習内容の要望と期間や人数などを伝え、実習受入れの了解を得た後に、実習施設の長に文書による正式な実習の依頼と契約を行っている。

また、実習生の受入に際しては、個人情報保護や事故防止に関する取り決めを行うこととしており、特に、事故防止については、事故防止策や事故発生時の対処方法などについて取り決めるとともに、事故が発生した場合の緊急連携体制についても明確に定めている。

ウ 実習水準の確保の方策

臨床実習の教育目標は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、適切な医療実践を行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図ることによる実践能力を高めることとしており、学内で修得した知識や技術を実際の医療実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できることをねらいとしていることから、臨床実習の教育目標の達成に向けて、各教育内容の目標に則した実習内容とすることで、実習水準の確保を図ることとしている。

また、臨床実習では、実習担当教員による実習施設の管理責任者及び直接指導に当たる臨床工学技士と実習内容等について十分協議のうえ、臨床実習を実施することとしており、教育効果をあげるために、原則として、少人数グループにより実施するとともに、各演習等学内における十分な事前指導及び事後評価を行う体制を整備することで、実習水準の確保を目指すこととしている。

一方、実習先の実習指導者については、臨床工学技士の資格を有し、かつ十分な実務経験を有するとともに、これまで臨床工学技士学校養成施設からの実習生に対する実習指導実績を有する者としているが、実習教育の水準の確保を図ることから、実習施設の実習指導者と実習担当教員とによる臨床実習における実習内容や実習方法の改善を図るための組織的な取組みを実施している。

具体的には、年度当初に実習施設の実習指導者と実習担当教員及び実習助手による実習指導者連絡会を開催し、本学の教育研究上の目的や人材養成の目的と教育課程編成の考え方、臨床実習における到達目標などについての共通認識を得るとともに、定期的な連絡会や報告会を開催し、臨地実習の総括や問題点の抽出、課題の検討を行うなど、指導力の向上に努めている。

## エ 実習先との連携体制

臨床実習の実施に際しては、本学と実習施設との信頼関係が不可欠であり、臨床実習における教育効果は、相互の信頼関係が深いほど高いものとなることが期待されることから、実習施設に対して学生の受入れを依頼するにあたり、次の点について十分な配慮のもとに、実習前、実習中、実習後等における緊密な連携体制をとることとする。

- 1) 実習の日程や人員と内容について、事前に連絡し、実習施設の実習指導者の理解を得たうえで、実習施設の長に対して正式な依頼文書を提出する。
- 2) 学生に対する十分な事前指導を行うとともに、前年度の実習時において要望が出された事項については必ず対応する。
- 3) 実習期間中は、実習指導者と日程を調整した上で実習先を訪問し、実習の実施状況を確認するとともに、意見交換をはじめとする必要な調整を行うこととする。
- 4) 実習担当教員と実習指導者による連絡会や報告会を開催することにより、実習体制や実習内容の整備に向けての意見交換などを行うこととする。
- 5) 実習施設の臨床工学技士の研究や研修の支援として、講師派遣依頼への対応、図書館の利用を認めるなど、実習施設の発展と向上に協力する。

## オ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

### 1 感染予防対策

実習生及び実習受入先における感染予防対策として、臨床実習の開始前に、学生に対する感染予防に関する基本的な知識を教授するとともに、感染症に関する既往検査や抗体検査の実施と予防接種を行うこととする。

### 2 保険等の加入状況

実習生が実習中又は実習先への往復途上に被った不慮の災害事故の補償と第三者に怪我を負わせた場合や第三者の所有物を破損した場合の補償などに備えて、学生教育研究災害障害保険及び実習賠償責任保険に加入する。

## カ 事前・事後における指導計画

臨床地実習では、実践の場での「課題発見、問題解決」と「専門的知識と技術の統合」を重視することから、実習の前に関連科目の履修を終えるとともに、事前準備に十分な時間をかけて、実習の目的や目標、実習施設の概略の周知、動機付け、知識の整理、研究課題の検討などを行うこととする。

また、実習終了後においても、それぞれの実習施設における実習内容や研究課題の報告、実践の場で学んだ事項などの情報交換や指導など、総合的な事後学習を行い、学内での学習と臨床実習をより有効的に結び付け、知識と技術の統合を図ることとする。

### 1 事前教育内容

- ・実習の目的や目標などの理解
- ・実習にあたっての心構え
- ・事前の準備の徹底
- ・実習開始時と実習中の注意
- ・患者への訪問時の注意点
- ・病気や怪我をした時の対応
- ・休憩時間の過ごし方
- ・緊急時の連絡体制等
- ・実習終了時の対応

### 2 事後教育内容

- ・各班や個人からの実習課題への取り組みへの報告と討論
- ・実習施設への礼状の作成
- ・実習時に起きたトラブルや注意された事の報告
- ・臨床工学技士の仕事に関する感想
- ・実習レポートの作成と提出

## キ 教員の配置並びに巡回指導計画

教員の配置については、実習グループごとに実習担当教員を配置するとともに、実習期間中の巡回指導計画については、実習担当教員を中心として、専門教育科目を担当す

る専任教員全員により行うこととする。

実習期間中の巡回指導については、実習開始後、実習生全員に対する巡回指導を行うこととし、巡回指導の際には、実習施設の実習指導者に対して、実習の実施における周知不足や不都合の有無、学生の実習態度、教育上の改善事項、日程や内容の確認、意見交換などを行うことにより、相互理解を深めることとする。(資料8)

#### ク 実習施設における指導者の配置計画

実習施設における実習指導者の配置については、実習施設ごとの各グループに臨床工学技士の資格を有した実習指導者を配置することとしている。(資料9)

また、年度当初に、実習施設の実習指導者と実習担当教員による実習指導者連絡会を開催することとしており、各実習施設の実習指導者との連携体制の強化を図ることとしている。

なお、実習期間中における緊急時の連絡体制等については、「実習要領」に詳細に記載し、実習の事前教育において周知を図ることとしている。(資料10)

#### ケ 成績評価体制及び単位認定方法

臨床実習における成績評価については、予め定める実習評価基準に基づいて、実習担当教員が行うこととし、実習施設における実習指導者の評価及び出欠等の状況、実習記録、実習レポート、自己評価表、面接などにより、実習目標の到達度合に照らしながら、総合的な判断の基に評価を行い、単位の認定を行うこととする。

### ⑪ 管理運営

#### ア 教授会

教授会は、専任の教授をもって組織され、「学生の入学、卒業及び課程の修了」、「学位の授与」、「教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの」について決定を行うに当たり意見を述べるものとするもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしており、原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催している。

#### イ 大学協議会

大学協議会は、大学全般の重要事項を審議するために設置されており、審議事項については、「大学協議会規程」に規定され、構成員は、学長、副学長、学部長、学科長、自己評価委員長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工学教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長及び同センター系列総会会長、大学担当理事及び学長が指名した者とし、毎月1回定例で開催している。

#### ウ 教授会以外の委員会

教授会以外の委員会としては、「学生部委員会」、「教務委員会」、「入学委員会」、「キャリア就職委員会」をはじめ、各種委員会を組織し、学生の修学支援に努めており、各委員会の審議事項については、各委員会規程により規定されており、構成員は各学部から選出され、定例的に開催している。

## ⑫ 自己点検・評価

### 1 基本方針

本学では、自らが掲げる目的の達成および理念の実現のため、継続的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、本学の教育研究の水準を保証し向上させ、本学に対する社会の信頼を一層確実なものとする。

### 2 実施体制

本学では、内部質保証に関する規程において、自己点検・評価を継続的かつ総合的に実施するため、自己点検・評価に関する統括委員会として（1）理事長、（2）学長、（3）研究科長、（4）専務理事、（5）常務理事、（6）副学長、（7）担当理事、（8）教員自己点検・評価委員長で構成する「内部質保証委員会」を置き、自己点検・評価に関する定期的な実務を担当する組織として（1）学長、（2）研究科長、（3）専務理事、（4）常務理事、（5）副学長、（6）担当理事、（7）入学委員長、（8）教務主任、（9）学生部長、（10）キャリア就職委員長、（11）3つのポリシー運営委員会委員長、（12）教育開発センター所長、（13）教員自己点検・評価委員長、（14）工学教育研究支援機構長、（15）事務部門の担当部長による「自己評価委員会」を置くことを規定している。

### 3 実施方法

自己評価委員会は、次の各事項について、審議し、決定し、実施する。（1）自己点検・評価項目の設定および変更、（2）評価のあり方に関する事項、（3）自己点検・評価の実施に関する事項、（4）改善・改革に向けた方策の実施に関する事項、（5）教員の自己点検・評価に関する事項、（6）自己点検・評価結果の公表に関する事項、（7）認証評価機関の評価に関する事項、（8）その他、大学の自己点検・評価に関する事項について審議し、決定し、実施している。また、自己点検・評価結果については、その内容を内部質保証委員会に報告している。さらに、改善等を要すると認められる事項については、関連ある学内組織に適切な対応策を検討し、実施することを要請している。

内部質保証委員会は、自己評価委員会から提出された定期的な点検・評価結果および外部評価委員会の検証結果について審議し、課題等に関する方針の策定、実施、点検および改善について常に検討し、必要な事項を実施する。また、文部科学省、認証評価機関等からの指摘事項について、迅速かつ適切に対応するものとしている。

内部質保証委員会で策定・決定した方針、課題および改善策などの実施を自己点検・評価に関する日常的な実務を担う各組織に要請し、各組織はこれを適切、適正に実施するとともに実施状況を絶えず点検・評価を行い、改善等を要すると認められる事項については

適切な対応策を検討、実施し、点検・評価結果を自己評価委員会へ報告している。その内容については、自己評価委員会で審議し、結果を内部質保証委員会へ報告している。また、教員の自己評価については毎年行い、分析内容を教授会へ報告している。

#### 4 評価項目

- ① 理念・目的
- ② 内部質保証
- ③ 教育研究組織
- ④ 教育課程・学習成果
- ⑤ 学生の受け入れ
- ⑥ 教員・教員組織
- ⑦ 学生支援
- ⑧ 教育研究等環境
- ⑨ 社会連携・社会貢献
- ⑩ 大学運営・財務

#### 5 結果の活用及び公表

評価の結果については、教育活動や研究活動などの改善策を検討し、改善計画や教育活動や研究活動などで達成すべき目標を設定する際に活用し、評価結果を反映させることにしている。また、評価の結果は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書を作成し、配布することにより公表することとしている。

### ⑬ 情報の公表

#### 1 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供する。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしており、ホームページのアドレスは、「<http://joho.kait.jp>」であり、検索方法については、「トップ>>情報公表」により検索することができる。

## 2 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表している。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- ⑩ その他の関連する情報
  - ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
  - ・学則等各種規程
  - ・設置認可申請書
  - ・設置届出書
  - ・設置計画履行状況等報告書
  - ・自己点検・評価報告書
  - ・認証評価の結果

## 3 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえでを行っている。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- ② 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- ③ 教員組織に関する情報については、組織内の役割分担や年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを明らかにする。
- ④ 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。
- ⑤ 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に

留意したうえで公表する。

- ⑥ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
  - ⑦ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
  - ⑧ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
  - ⑨ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
  - ⑩ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、寄宿舎や学生寮等の宿舎に関する費用、教材購入費、施設利用料等の費用に関することをできるだけ明らかにする。
  - ⑪ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。
- ⑭ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等
- 1 授業の内容及び方法の改善のための組織的な研修等
    - (1) 実施体制

教育内容等の改善の組織的なFD活動の推進については、「教育開発センター」が担うとともに、業務を円滑に果たすため、教育開発センター運営委員会を設置し、授業の内容及び方法の改善を図るための計画の立案と実施の推進を行っている。（資料11）
    - (2) 実施内容

教育内容等の改善の組織的な研修等の実施内容については、従来の活動の中でさらに充実した取り組みを行う。

      - ① シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する整備をするとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。
      - ② 学生による授業アンケート調査を実施するとともに、評価結果に基づき、各教員が授業の内容や方法の改善に役立てる。
      - ③ 授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などの接続関係につい



て教員の相互理解を図る。

- ④ 授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するための教育手法や評価方法等の研修会を実施する。
- ⑤ 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。
- ⑥ 授業技術や教材開発に関する定期的な研究会と研究成果の発表会を開催するとともに、授業公開の一環として報告書を作成する。

## 2 大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等

### (1) 実施体制

大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組みについては、「神奈川県立大学 職員研修企画運営委員会 規程」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育・研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の修得及び能力・資質の向上のための活動（SD活動）を推進することとしており、「情報セキュリティ」「ハラスメント」「高大接続」「キャリア就職支援」「文献データベース」「高等教育政策の動向」といった大学を取巻く問題を定期的に取上げて実施することとしている。

また、事務職員を対象とした研修等は、職員研修企画運営委員会が中心となっており、教員に対する研修等は、教育開発センターが中心となっており、教育開発センターが主催する研修等についても、事務職員も積極的に参加することとしている。（資料12）

### (2) 実施内容

具体的なSD活動については、以下に掲げる項目により行う。

- ① 3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関する事項
- ② 教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関する事項
- ③ 大学改革に関する事項
- ④ 学生の厚生補導に関する事項
- ⑤ 業務領域の知見の獲得を目的とする事項
- ⑥ その他職員研修企画運営委員会で企画運営することが適当とされる事項

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学等が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別している。

## ⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### 1 教育課程内における取組み

「共通基盤教育科目」においては、「臨床工学技士の素養としての数理・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識の理解を目的とする」ことから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「英語基礎系」、「言

語応用系」、「数理情報系」の各科目群から構成することとしており、「共通基盤教育科目」全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。

専門教育においては、1年次の前期に担当している「医用工学概論」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する導入科目として位置付け、臨床工学を取り巻く諸情勢や臨床工学技士が果たす役割の理解とともに、専門分野への興味と関心を深めさせることにより、自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

また、臨床実習では、実践現場における体験学習を通じて、職業人としての役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場で必要となる実践的な能力の養成を図ることとしており、教育課程内の取組みにおける組織体制としては、実習担当教員と教務委員会及びキャリア就職委員会による社会的・職業的自立に関する指導等に関する連絡協議会を設けることとしている。

## 2 教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、国家試験対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、臨床検査技士の仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、医療機関等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導などを行うこととしており、教育課程外の取組みにおける組織体制としては、キャリア就職委員会及びキャリア就職課が担当することとしている。

## 臨床工学科志願者状況 (過去5年間)

年度	27	28	29	30	31	平均
志願者数 (人)	253	175	220	240	303	238.2
倍率 (志願者数/入学定員)	6.33	4.38	5.50	6.00	7.58	5.96
受験者数	246	171	206	235	294	230.4
合格者数	99	78	74	114	134	99.8
倍率 (受験者数/合格者数)	2.48	2.19	2.78	2.06	2.19	2.31
入学者数	44	47	47	39	37	42.8
入学定員充足率	110.0%	117.5%	117.5%	97.5%	92.5%	107.0%

※ 志願者数・受験者数に選考対象となった志願順位制志願者を含む

※ 合格者数には追加合格者を含まない

※ 入学者数は各年度4/1現在

## 進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

## □臨床工学科の受験希望

神奈川工科大学への進学実績のある高等学校の2年生に、神奈川工科大学の臨床工学科の受験希望について質問したところ、回答者数5,567人の約7.35%にあたる409人が「受験を希望する」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科の受験意向の高さがうかがえる。

## 問6 臨床工学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	409	7.35
2	受験を希望しない	4805	86.31
	未回答・不明	353	6.34
	合計	5567	100.00

## □臨床工学科への進学希望

神奈川工科大学の臨床工学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、臨床工学科に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は164人となっている。

## 問6×問7 臨床工学科の受験を希望×臨床工学科への進学を希望

No.	カテゴリ	件数／人
1*2	受験を希望／臨床工学科への進学を希望	164

資料3 (本文P2)

他大学の初年次学生納付金 (他大学は平成31年度実績)

大学名	学部・学科名	初年度納入額合計	入学金	授業料等
神奈川工科大学	看護学部 臨床工学科	1,708,000	200,000	1,508,000※
桐蔭横浜大学	医用工学部 臨床工学科	1,630,000	200,000	1,430,000
北里大学	医療衛生学部 医療工学科	1,800,000	300,000	1,500,000

※授業料等の内訳：授業料 1,460,000、大学委託徴収金 48,000

## 募集活動の実績等

年度	資料 請求者数	オープン キャンパス 参加者数	高校進学 ガイダンス 実施回数	進学相談会 実施回数	出前講義 実施回数	高校団体 大学見学 実施回数	志願者 総数
平成26年度 (平成27年度入試)	36,645	5,620	500	179	148	39	6,677
平成27年度 (平成28年度入試)	37,230	5,819	516	194	140	32	5,910
平成28年度 (平成29年度入試)	41,445	5,467	646	243	168	28	6,094
平成29年度 (平成30年度入試)	46,664	5,961	689	198	123	31	7,420
平成30年度 (平成31年度入試)	51,541	5,765	726	205	129	29	8,617

※ 志願者数は選考の対象となった志望順位制志願者を含む。

## 資料5（本文P2）

### 高校・予備校・塾訪問実施状況・今後の実施計画

#### 【実施状況】

志願者の多い重点地域に進学アドバイザーを設置し、進学アドバイザー1人につき、年間で50校～100校の高校について複数回の高校訪問を実施する。

#### ・進学アドバイザー設置地区と人数

（高校）

北海道（1人）、青森（1人）、岩手（1人）、宮城（1人）、秋田（1人）、山形（1人）、福島（1人）、茨城（1人）、栃木（1人）、群馬（1人）、千葉（1人）、首都圏（東京23区、埼玉）（1人）、東京都下（1人）、神奈川（3人）、新潟（1人）、山梨（1人）、長野（1人）、静岡（3人）、宮崎・鹿児島（1人）、沖縄（1人）

（塾・予備校）

神奈川（1人）

\* 神奈川以外の上記地区は、高校訪問担当者が塾・予備校を一部訪問。

総数：21地区25名

#### ・訪問時期と訪問目的

前期：4月～7月

在籍生の状況報告、大学の案内、推薦入試（指定校制）の案内、オープンキャンパスの案内等

中期：8月～11月

AO入試や推薦入試の志望状況確認、一般入試の案内、オープンキャンパスの案内等

後期：12月～3月

一般入試の志望状況確認、AO入試・推薦入試合格者に対する入学までの対応の案内、オープンキャンパスの案内等

#### ・訪問校数

進学アドバイザー1人につき、60校～100校を担当する。

（高校訪問2018年度実績：約2,095校 述べ訪問数：約6,401校）

#### 【今後の実施計画】

今後の高校訪問実施計画は、今までの方法を踏襲し、今回設置予定学科の認知度を高めていくこととする。

以上

## オープンキャンパスの実施日時期・テーマ

月	平成30年(7回実施)	平成31年(7回実施)	平成32年
3月	<p>◆3/24(土)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 「大学」の基本的なところから徹底解剖 理工系大学の魅力 系統別学科探究&amp;体験 専門高校生対象ガイダンス (9:40~16:00)</p>	<p>◆3/23(土)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 系統別学科探究&amp;体験 専門高校生対象ガイダンス ※系統別ガあり ※1学科1教室集結型プログラム (9:40~15:00)</p>	<p>◆3/22(日)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 系統別学科探究&amp;体験 専門高校生対象ガイダンス ※系統別ガあり ※1学科1教室集結型プログラム (9:40~15:00)</p>
6月	<p>◆6/10(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、AO/推薦入試対策 専門高校生対象入試対策 系統別学科探究&amp;体験 (10:00~15:30)</p>	<p>◆6/9(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、AO/推薦入試対策 専門高校生対象入試対策 系統別学科探究&amp;体験 (10:00~15:30)</p>	
7月	<p>◆7/22(日)オープンキャンパス 研究室大公開 (10:00~15:30)  ◆7/29(日)オープンキャンパス 研究室体験(予約制)(10:00~15:30)</p>	<p>◆7/21(日)オープンキャンパス 研究室大公開 (10:00~15:30)  ◆7/28(日)オープンキャンパス 研究室体験(予約制)(10:00~15:30)</p>	
8月	<p>◆8/18(土)オープンキャンパス 授業体験(専門・実習)(予約制) (10:00~15:30)</p>	<p>◆8/18(日)オープンキャンパス 授業体験(専門・実習)(予約制) (10:00~15:30)</p>	
9月	<p>◆9/30(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、推薦入試対策 (10:00~15:00)</p>	<p>◆9/29(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、推薦入試対策 (10:00~15:00)</p>	
11月	<p>◆11/24(土)オープンキャンパス 自己推薦・一般入試対策 高校1,2年生対象ガイダンス ※系統別ガなし ※1学科1教室で取組み紹介 (13:00~16:00)</p>	<p>◆11/23(土)オープンキャンパス 自己推薦・一般入試対策 高校1,2年生対象ガイダンス ※系統別ガなし ※1学科1教室集結型プログラム (13:00~16:00)</p>	



オープンキャンパス実施結果報告--平成30年度・平成29年度--

	平成30年度									平成29年度							
	新2.3年 (3/24)	学部学科 (6/10)	研究室 (7/22)	マルチ型 (7/29)	マルチ型 (8/18)	学部学科 (9/30)	自己推一般 (11/24)	合計	新2.3年 (3/25)	学部学科 (6/11)	研究室 (7/23)	マルチ型 (7/30)	マルチ型 (8/20)	学部学科 (10/1)	自己推一般 (11/18)	合計	
●参加者数	生徒	325	666	661	655	956	230	234	3,727	336	688	732	631	878	347	232	3,844
	父母等	197	377	348	366	470	144	136	2,038	228	359	360	319	522	212	117	2,117
	合計	522	1043	1009	1021	1,426	374	370	5,765	564	1047	1092	950	1,400	559	349	5,961
●高等学校所在地別参加者人数	北海道	3	1		5			1	10	1		1	2		2		6
	青森	2		1	4	8	1	3	19	6	3	5	2	4	2	1	23
	岩手	1	2	1	3	2	3	1	13	3		2	1	4	2		12
	宮城	1	3	1	2	8	2		17		1	5	5	3	1	1	16
	秋田		1			1	2		4	1	4		2	2	2		11
	山形	2	2	4	2	2	1	2	15	3		4	6	4	4	1	22
	福島	4	10	7	8	6	5	2	42	9	13	7	11	6	2		48
	茨城	4	8	6	5	20	4	4	51	3	16	10	8	11	4	2	54
	栃木	5	5	7	10	16	4	3	50	6	13	13	16	16	5	17	86
	群馬	7	7	7	8	15	3	1	48	8	7	7	11	11	1	2	47
	埼玉	2	7	11	20	7	1	4	52	5	3	4	7	4	3		26
	千葉	3	6	5	2	4	4		24	8	6	6	7	6	2	2	37
	東京	18	58	78	56	74	31	26	341	33	62	80	56	84	36	24	375
	神奈川	193	455	424	382	609	125	129	2,317	187	475	455	389	575	203	144	2,428
	新潟	2	3	1	1	9	5	1	22	2	3	4	8	8	4		29
	富山		1		2	4			8	1	1	1	2	1			6
	石川								0				1				1
	福井				1	1			2								0
	山梨	3	8	7	14	14	2	3	51	2	7	12	21	18	11	3	74
	長野	10	18	27	36	21	3	6	121	14	14	19	16	13	7	5	88
	岐阜					1			1			2		1		1	4
	静岡	59	63	67	86	117	33	41	466	42	52	87	52	96	52	21	402
	愛知	1	2	2	2			2	9		2	3		1			6
	三重								0				1	2			3
	滋賀								0								0
	京都	1	2						3								0
	兵庫								0	2	4						6
	奈良								0						1		1
	大阪	1							1								0
	和歌山								0								0
	鳥取					1			1								0
	島根			1		1			2								0
	岡山								0								0
	広島				1				1			1				1	2
	山口		1		1	3			5							1	1
	徳島		1					1	2		1						1
	愛媛		1			1			2				1				1
香川					1			1								2	
高知								0					1			1	
福岡					3			3					2			2	
佐賀								0								0	
長崎								0								0	
熊本								0								0	
大分				1				1		1						1	
宮崎								0				1				1	
鹿児島					1	1		2			2	1				3	
沖縄	2			3	3		1	9			1		1		1	3	
専修・高認								0								0	
外国								2			1					1	
記載なし	1	1	4		3			9				4	2	3	5	14	
合計	325	666	661	655	956	230	234	3,727	336	688	732	631	878	347	232	3,844	

## ○施設基準に提示される臨床工学技士

## 第26 呼吸ケアチーム加算

## 1 呼吸ケアチーム加算の施設基準

- (1) 当該保険医療機関内に、以下の4名から構成される人工呼吸器離脱のための呼吸ケアに係るチーム（以下「呼吸ケアチーム」という。）が設置されていること。
- ア人工呼吸器管理等について十分な経験のある専任の医師
- イ人工呼吸器管理や呼吸ケアの経験を有する専任の看護師
- ウ人工呼吸器等の保守点検の経験を3年以上有する専任の臨床工学技士
- エ呼吸器リハビリテーション等の経験を5年以上有する専任の理学療法士
- (2) (1)のイに掲げる看護師は、5年以上呼吸ケアを必要とする患者の看護に従事し、呼吸ケアに係る適切な研修を修了した者であること。なお、ここでいう研修とは、次の事項に該当する研修のことをいう。
- ア国及び医療関係団体等が主催する研修であること。（6月以上かつ600時間以上の研修期間で、修了証が交付されるもの）
- イ呼吸ケアに必要な専門的な知識・技術を有する看護師の養成を目的とした研修であること。
- ウ講義及び演習は、次の内容を含むものであること。
- (イ) 呼吸ケアに必要な看護理論及び医療制度等の概要
  - (ロ) 呼吸機能障害の病態生理及びその治療
  - (ハ) 呼吸ケアに関するアセスメント（呼吸機能、循環機能、脳・神経機能、栄養・代謝機能、免疫機能、感覚・運動機能、痛み、検査等）
  - (ニ) 患者及び家族の心理・社会的アセスメントとケア
  - (ホ) 呼吸ケアに関する看護技術（気道管理、酸素療法、人工呼吸管理、呼吸リハビリテーション等）
  - (ヘ) 安全管理（医療機器の知識と安全対策、感染防止と対策等）
  - (ト) 呼吸ケアのための組織的取組とチームアプローチ
  - (チ) 呼吸ケアにおけるリーダーシップとストレスマネジメント
  - (リ) コンサルテーション方法
- エ実習により、事例に基づくアセスメントと呼吸機能障害を有する患者への看護実践
- (3) 当該患者の状態に応じて、歯科医師又は歯科衛生士が呼吸ケアチームに参加することが望ましい。
- (4) 呼吸ケアチームによる診療計画書には、人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、人工呼吸器離脱計画、呼吸器リハビリテーション等の内容を含んでいること。
- (5) 病院勤務医の負担軽減及び処遇の改善に資する体制が整備されていること。当該体制については、第1の1の(7)と同様であること。

- (6) 呼吸ケアチームは当該診療を行った患者数や診療の回数、当該患者のうち人工呼吸器離脱に至った患者数、患者の1人当たりの平均人工呼吸器装着日数等について記録していること。
- (7) 保険医療機関の屋内における禁煙の取扱いについて、基準を満たしていること。当該基準については、第1の1の(11)と同様であること。

## 第2 特定集中治療室管理料

### 1 特定集中治療室管理料1に関する施設基準

- (1) 専任の医師が常時、特定集中治療室内に勤務していること。当該専任の医師に、特定集中治療の経験を5年以上有する医師を2名以上含むこと。
- (2) **専任の臨床工学技士が、常時、院内に勤務していること。**
- (3) 特定集中治療室管理を行うにふさわしい専用の特定集中治療室を有しており、当該特定集中治療室の広さは、内法による測定で、1床当たり20平方メートル以上であること。ただし、新生児用の特定集中治療室にあつては、1床当たり9平方メートル以上であること。
- (4) 当該管理を行うために必要な次に掲げる装置及び器具を特定集中治療室内に常時備えていること。
  - ア救急蘇生装置（気管内挿管セット、人工呼吸装置等）
  - イ除細動器
  - ウペースメーカー
  - エ心電計
  - オポータブルエックス線撮影装置
  - カ呼吸循環監視装置
- (5) 新生児用の特定集中治療室にあつては、(3)に掲げる装置及び器具のほか、次に掲げる装置及び器具を特定集中治療室内に常時備えていること。
  - ア経皮的酸素分圧監視装置又は経皮的動脈血酸素飽和度測定装置
  - イ酸素濃度測定装置
  - ウ光線治療器
- (6) 自家発電装置を有している病院であつて、当該病院において電解質定量検査、血液ガス分析を含む必要な検査が常時実施できること。
- (7) 原則として、当該治療室内はバイオクリーンルームであること。
- (8) 当該治療室勤務の医師及び看護師は、当該治療室に勤務している時間帯は、当該治療室以外での当直勤務を併せて行わないものとする。
- (9) 当該入院料を算定している全ての患者の状態を、別添6の別紙17の「特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票」を用いて測定し、その結果、基準を満たす患者が9割以上いること。

- (10) 「特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票」の記入は、院内研修を受けたものが行うものであること。なお、院内研修は、次に掲げる所定の研修を修了したもの（修了証が交付されているもの）若しくは評価に習熟したものが行う研修であることが望ましい。

ア国及び医療関係団体等が主催する研修であること（1日程度）

イ講義及び演習により、次の項目を行う研修であること

(イ) 重症度、医療・看護必要度の考え方、重症度、医療・看護必要度に係る評価票の構成と評価方法

(ロ) 重症度、医療・看護必要度に係る院内研修の企画・実施・評価方法

## 2 特定集中治療室管理料2（広範囲熱傷特定集中治療管理料）に関する施設基準

- (1) 特定集中治療室管理料1の施設基準を満たすほか、広範囲熱傷特定集中治療管理を行うにふさわしい治療室を有しており、当該治療室の広さは、内法による測定で、1床当たり20平方メートル以上であること。
- (2) 当該保険医療機関に広範囲熱傷特定集中治療を担当する常勤の医師が勤務していること。

## 第12の2 医療機器安全管理料

### 1 医療機器安全管理料1に関する施設基準

- (1) **医療機器安全管理に係る常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**
- (2) 医療に係る安全管理を行う部門（以下「医療安全管理部門」という。）を設置していること。
- (3) 当該保険医療機関において、医療機器の安全使用のための責任者（以下「医療機器安全管理責任者」という。）が配置されていること。
- (4) 当該保険医療機関において、従業者に対する医療機器の安全使用のための研修が行われていること。
- (5) 当該保険医療機関において医療機器の保守点検が適切に行われていること。

## 第57の2 透析液水質確保加算

### 1 透析液水質確保加算1の施設基準

- (1) 関連学会から示されている基準に基づき、水質管理が適切に実施されていること。
- (2) **透析機器安全管理委員会を設置し、その責任者として専任の医師又は専任の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**

### 2 透析液水質確保加算2の施設基準

- (1) 月1回以上水質検査を実施し、関連学会から示されている基準を満たした血液透析濾過用の置換液を作製し、使用していること。

- (2) **透析機器安全管理委員会を設置し、その責任者として専任の医師又は専任の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**

### 第58の3 頭蓋内腫瘍摘出術

#### 1 頭蓋内腫瘍摘出術（原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算を算定する場合に限る。）に関する施設基準

次の要件のいずれにも該当する保険医療機関において実施された場合に算定する。

- (1) 脳神経外科を標榜している病院であること。
- (2) 5年以上の脳神経外科の経験を有する常勤の医師が1名以上配置されており、このうち1名以上は関係学会から示されている悪性脳腫瘍患者に対する光線力学療法に関する所定の研修を修了していること。
- (3) 脳腫瘍摘出術中の病理検査が可能な体制が整っていること。
- (4) 脳腫瘍摘出術に伴う合併症への対応ができる体制が整っていること。
- (5) 当該療養に用いる機器について、適切に使用管理区域の設定がなされていること。
- (6) 悪性脳腫瘍患者に対する**光線力学療法の研修プログラムを受講した機器管理責任者（医師又は臨床工学技士）**が選定されており、本レーザ装置が適切に保守管理されていること。
- (7) 実際の手技に当たって、5年以上の脳神経外科の経験を有する常勤の医師であって関係学会から示されている所定の研修を修了している医師が1名以上参加すること。

### 第63の5 経皮的カテーテル心筋焼灼術（磁気ナビゲーション加算を算定する場合に限る。）

#### 1 経皮的カテーテル心筋焼灼術（磁気ナビゲーション加算を算定する場合に限る。）に関する施設基準

- (1) 循環器科及び麻酔科を標榜している病院であること。
- (2) 経皮的カテーテル心筋焼灼術を年間50例以上実施していること。
- (3) 循環器科についての専門の知識及び5年以上の経験を有する常勤の医師が2名以上配置されており、このうち1名以上は不整脈についての専門的な研修の経験を5年以上有していること。
- (4) 麻酔科の標榜医が1名以上配置されていること。
- (5) 緊急手術が可能な体制を有していること。
- (6) **常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**
- (7) 当該療養に用いる機器について、適切に保守管理がなされていること。

## 第 64 経皮的中隔心筋焼灼術

### 1 経皮的中隔心筋焼灼術に関する施設基準

- (1) 循環器科を標榜している保険医療機関であること。
- (2) 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術又は経皮的冠動脈ステント留置術に関し、10年以上の経験を有する常勤の医師が1名以上配置されていること。
- (3) 5年以上の心臓血管外科の経験を有する常勤の医師が1名以上配置されていること。ただし、5年以上の心臓血管外科の経験を有する常勤の医師が配置されている保険医療機関との連携（当該連携について、文書による契約が締結されている場合に限る。）により、緊急事態に対応するための体制が整備されている場合は、この限りでない。
- (4) **常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**
- (5) 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術又は経皮的冠動脈ステント留置術を年間合計100例以上実施していること。

## 第 80 の 4 内視鏡手術用支援機器加算

### 1 内視鏡手術用支援機器加算に関する施設基準

- (1) 泌尿器科及び麻酔科を標榜している病院であること。
- (2) 泌尿器科において常勤の医師2名を有し、いずれも泌尿器科について専門の知識及び5年以上の経験を有すること。
- (3) 麻酔科の標榜医が配置されていること。
- (4) 前立腺悪性腫瘍手術に係る手術（区分番号「K843」（「K939を併せて算定する場合を含む。）」、「K843-2」又は「K843-3」）を1年間に合わせて20例以上実施されていること。
- (5) 緊急手術が可能な体制を有していること。
- (6) **常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。**
- (7) 当該療養に用いる機器について、適切に保守管理がなされていること。

**医療機器産業ビジョン2013**

～次元の違う取組で、優れた医療機器を迅速に世界の人々に届ける～

厚生労働省（平成25年6月26日）－抜粋－

**第5章 今後の方向性を踏まえた提言**

**1. 産業界への提言**

**（3）人材づくり**

医療現場におけるニーズと薬事法など医療機器に関わる規制の両方に精通した人材の育成のためには、企業、病院、アカデミア、承認・認証機関及び行政などとの人事交流が有効な方法であり、交流を通じて、経験を積むことができるほか、互いの立場や役割を認め合うことも可能となる。そのため、人事交流の実現に向けて、各種規程や処遇のあり方などについて具体的な協議を早急に進めることが期待される。また、医療ニーズを実用的な医療技術や医療機器創出に結びつけることができる目利き力のある人材を育成する仕組みも必要である。

**2. アカデミア・医療機関等への提言**

**（4）医工学部の創設**

医療機器の実用化にあたっては、医学、工学、理学などが連携した学際的な教育・研究体制が必要であることから、医療機器を専門的な学問領域とする医工学部の創設を期待したい。

## 進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

## □臨床工学技士の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、今後の臨床工学技士の採用見込みについて質問したところ、回答件数 73 件の約 72.60%にあたる 53 件が「増加すると思う」と回答していることから、病院や企業等における臨床工学技士の採用見込みの高さをうかがうことができる。

## 問1 臨床工学技士の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	53	72.60
2	増加すると思わない	19	26.03
	未回答・不明	1	1.37
	合計	73	100.00

## □臨床工学科の社会的な必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 73 件の約 93.15%にあたる 68 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性を認めている。

## 問2 臨床工学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	68	93.15
2	必要性を感じない	5	6.85
	未回答・不明	0	0.00
	合計	73	100.00

## □臨床工学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材について質問したところ、回答件数 73 件の約 89.04%にあたる 65 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材の必要性を認めている。

## 問3 臨床工学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	65	89.04
2	必要性を感じない	6	8.22
	未回答・不明	2	2.74
	合計	73	100.00



#### □臨床工学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 73 件の約 80.82%にあたる 59 件が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用に積極的な意向を示している。

##### 問 4 臨床工学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	59	80.82
2	採用したいと思わない	11	15.07
	未回答・不明	3	4.11
	合計	73	100.00

#### □臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問 4 で神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した病院や企業等のうち、「採用人数 1 人」と回答したのが 8 件、「採用人数 2 人」と回答したのが 6 件、「採用人数 3 人以上」と回答したのが 1 件となっている。

なお、「採用人数 3 人以上」と回答した 1 件の採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した 44 件の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 67 人となり、この採用人数からも神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

##### 問 4 × 問 5 卒業生の採用 × 卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	8	8
1*2	採用したいと思う/2人	6	12
1*3	採用したいと思う/3人以上	1	3
1*4	採用したいと思う/人数は未定	44	44
	未回答・不明	0	-
	合計	59	67

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み（概要）

臨床工学科の入学定員設定の考え方は、基礎となる既設の工学部の臨床工学科の開設以降4年間における志願者状況等を踏まえるとともに、神奈川県を中心に所在する高等学校に在籍している2年生に対する進学需要調査の結果などを総合的に勘案したうえで、入学定員を40名としていることから、十分な学生確保を見込むことができるものと考えている。

なお、臨床工学科の入学定員40人については、看護学部で臨床工学科が設置された場合に募集停止を予定している既設の工学部の臨床工学科から40人を振り替えることとしている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 基礎となる既設学科の学生確保の状況

臨床工学科の基礎となる既設の工学部の臨床工学科の開設以降5年間の志願者数は、入学定員40人に対して、平成27年度253人、平成28年度175人、平成29年度220人、平成30年度240人、平成31年度303人と安定した志願者数の確保を維持しており、開設以降の平均志願者数は238人、入学定員に対する志願者数の平均倍率は5.96倍、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の平均倍率は2.31倍、平均入学定員充足率は107.0%となっており、18歳人口の減少期においても安定的な学生確保の状況を維持している。（資料1）

2 進学意向に関するアンケート調査結果

臨床工学科の設置計画は、既設の工学部の臨床工学科の学生確保の状況を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、看護学部の臨床工学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、神奈川県を中心に所在する高等学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、神奈川工科大学の臨床工学科の「受験を希望する」と回答した409人のうち、神奈川工科大学の臨床工学科に合格した場合「臨床工学科への進学を希望する」と回答した者は約40.1%にあたる164人となっており、神奈川県を中心に所在する一部の高等学校の2年生に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の臨床工学科への進学意向の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあるものと考えられる。（資料2）

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点とを踏まえるとともに、設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学（桐蔭横浜大学、北里大学）の学生納付

金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や経常経費依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。(資料3)

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内や学科パンフレット等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けSNS等の電子媒体による情報の提供、進学情報誌や進学ネット等の各種メディアを活用したPR活動を行うとともに、資料等請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の提供を行うこととしている。

また、高校訪問、オープンキャンパス、高校進学ガイダンス、出前講義、本学見学会などを通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路など様々な教育情報について、設置圏域を中心とする高校生や保護者、高校教員に対して広く周知を図ることとしている。

また、募集活動に対する効果、反応等を示す資料として、過去の募集活動の実績推移について、別紙に示す。(資料4)

### ア 高校訪問

高校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略の強化を図ることとしており、具体的には、地元神奈川県や志願者の多い地域に専属の進学アドバイザーを設置し、企画入学課の教職員と連携して各地域の高校と大学とのネットワーク構築の強化を図っており、看護学部臨床工学科についても同様に取り組む計画である。進学アドバイザーの設置地区・人数は21地区25名であり、重要な募集戦略として位置づけている。(資料5)

高校訪問は、募集対象者が多数在籍している高校の教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高校の教員との信頼関係を築くことができるものであり、高校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえるなどの効果が期待される。

### イ オープンキャンパス

本学への入学を希望・考慮している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとしてオープンキャンパスの実施を予定しており、大学概要や入試概要に関するガイダンス、在学生や教職員による施設見学会、各学科による体験授業、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深め

てもらおうとともに、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。(資料6)

#### ウ 高校進学ガイダンス、進学相談会、出前講義

高校からの直接の依頼または広告代理店等が主催する高校進学ガイダンスや出前講義に参加する機会を増やすことで、高校生に直接、大学の魅力を伝えていくことを重視している。出前講義では、年度初めに「出前講義プログラム」を制作し、212の講座を紹介する等、高校側が直接依頼できる工夫を行っている。大学教職員の説明や授業を聞くことにより、大学進学又は本学進学を希望する高校生が大学を決定する際に役立ててもらおうことが期待できる。

なお、平成30年度においては、高校内での進学ガイダンスに参加した回数は726回、本学企画入学課職員や進学アドバイザーが参加した進学相談会は205回、本学教員が高校で行った出前講義は129回に及んでいる。

#### エ 高校団体の本学見学会

高校の行事の一環として行われる高校生の本学見学会について、進学アドバイザー等の高校訪問を通して高校から直接受ける依頼または広告代理店等が間に入って受ける依頼について、積極的な受け入れを行っている。具体的には、高校側の希望に合わせて「大学基本講座」「本学概要説明会」「体験授業」「施設見学」等を組み合わせ合わせて対応するとともに、できる限り、来校する高校出身の学生へ協力を依頼し、先輩の活躍している姿を高校生に見てもらおうような内容を盛り込んでいる。大学を直接見学することは、高校生が進学を考える際、大学をイメージすることができ、適切な判断ができると期待される。

平成30年度においては29校の高校が単独で本学を見学している。

## 2 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的

臨床工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「臨床工学分野」として、「臨床工学の学問体系の理解の基に、臨床工学分野に関する専門的な知識と技術の習得及び総合的に実践する応用能力を身に付け、他職種連携の中で臨床工学技士としての役割を果たせる態度を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、臨床工学科では、臨床工学分野に関する教育研究を通して、「臨床工学分野の基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、医療機器の操作や保守管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この養成する人材の目的を達成するために、以下の通り、学位授与の方針を定めることとし、教育課程における「共通基盤教育」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の各科目群に配置している講義と演習や実習を通して、学位授与の方針に掲げる知識及び能力を習得させるための教育を行うこととする。

養成する人材の目的を達成するための学位授与の方針は、以下の通りとする。

### 1. 創造的思考力

- (1) 臨床工学技士としての専門知識と技術を応用・発展させて、医療現場における問題を発見・解決し、臨床工学技士の新たな役割を見出すことができる。
- (2) 工学と医学の基本的な知識と、臨床工学技士としての専門知識と技術を身につけ、それらを駆使して、医療現場における幅広い課題を解決することができる。
- (3) 臨床工学技士として、チーム医療において自らやるべきことを見つけ、計画を立てて積極的かつ確実に実行することができる。

### 2. チームワーク

- (1) 臨床工学技士としての専門知識と技術や応用について、工学と医学の基本的な知識をもとに、わかりやすく説明ができる。また、医療現場における課題に対する自分の意見を伝えること、相手の意見を理解することができる。
- (2) チーム医療の一員として臨床工学技士の役割を把握して、常に患者の安全を考えて行動することができる。また、医療従事者としてのルールを遵守し、患者への共感と受容の必要性、臨床工学技士としての倫理を理解している。

### 3. 基礎学力

- (1) 臨床工学に関連する工学と医学の基本的な知識と、臨床工学技士として必要な専門知識と技術を体系的に理解している。
- (2) 臨床工学技士の素養としての数理・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識を理解している。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### ① 社会的な動向

医療現場では、近年の動向として、集中治療室、手術室、心臓カテーテル検査室、ペースメーカーなど業務が拡大しており、昨今の高度な医療技術の進歩に伴う医療機器の高度化・複雑化が一層進む中で、医療機器を用いたチーム医療の一員として生命維持をサポートする医療機器のスペシャリストとしての臨床工学技士の養成が求められている。

また、平成28年度診療報酬改定における特定集中治療室管理料1の施設基準に、「専任の臨床工学技士が、常時、院内に勤務していること」と明記されたことによる集中治療室における臨床工学技士の配置をはじめ、今後、ますます増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としての臨床工学技士の養成が求められている。

(資料7)

一方、厚生労働省が、医療機器産業がイノベーションを担う国際競争力のある産業となることを目指して策定した「医療機器産業ビジョン2013」では、「医療ニーズを実用的な医療技術や医療機器創出に結びつけることができる目利き力のある人

材を育成する仕組みも必要である」としいるとともに、「医療機器の実用化にあたっては、医学、工学、理学などが連携した学際的な教育・研究体制が必要であることから、医療機器を専門的な学問領域とする医工学部の創設を期待したい」としており、臨床工学分野の人材養成や学部教育への期待が示されている。（資料8）

## ② 人材需要の根拠となる調査結果の概要

臨床工学科の設置計画を策定するうえで、臨床工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、臨床工学科の卒業後の主な就職先として想定される医療機関や関連企業などを対象として、臨床工学技士の採用見込みや臨床工学科の設置の必要性と養成する人材及び臨床工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。（資料9）

### ア 臨床工学技士の採用見込み

医療機関等における臨床工学技士の採用見込みについては、有効回答数72機関の約73.61%にあたる53機関が「増加すると思う」と回答していることから、医療機関等における今後の臨床工学技士の採用見込みはあるものと考えられる。

### イ 臨床工学科の社会的な必要性

臨神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性については、有効回答数73機関の約93.15%にあたる68機関が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で養成する人材については、有効回答数71機関の約91.55%にあたる65機関が「必要性を感じる」と回答していることから、神奈川工科大学の臨床工学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

### ウ 臨床工学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用については、有効回答数70機関の約84.29%にあたる59機関が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生の採用人数については、「3人以上」と回答した医療機関等の採用人数を3人、「人数は未定」と回答した医療機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると67人となり、この採用人数からもみても、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような限定された一部の医療機関等に対する調査結果においても、神奈川工科大学の臨床工学科で学んだ卒業生に対する採用意向は高いことから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。